

(様式第 10)

海 大 第 890 号  
令和 2 年 10 月 15 日

厚生労働大臣 殿  
北海道大学総長 寶 金 清 博 (印)

北海道大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
氏 名	国立大学法人北海道大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人北海道大学 北海道大学病院
---------------------

3 所在の場所

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目 電話( 011 ) 716 - 1161
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1呼吸器内科                      ②消化器内科                      ③循環器内科                      4腎臓内科 ⑤神経内科                      ⑥血液内科                      7内分泌内科                      8代謝内科 9感染症内科                      10アレルギー疾患内科またはアレルギー科                      11リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科                      ②消化器外科                      ③乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      6心臓血管外科                      7内分泌外科                      ⑧小児外科	
診療実績 心臓外科、血管外科及び心臓血管外科は循環器外科、内分泌外科は乳腺外科が当該医療の提供を行っている。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科      ②小児科      ③整形外科      ④脳神経外科      ⑤皮膚科      ⑥泌尿器科 7産婦人科      ⑧産科      ⑨婦人科      ⑩眼科      ⑪耳鼻咽喉科      ⑫放射線科 ⑬放射線診断科      ⑭放射線治療科      ⑮麻酔科      ⑯救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ①小児歯科      ②矯正歯科      ③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 腫瘍内科	2 循環器外科	3 形成外科	4 リハビリテーション科	5 病理診断科	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21			

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
70床	0床	0床	0床	874床	944床

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	230人	312.5人	542.5人	看 護 補 助 者	127人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	85人	54.3人	139.3人	理 学 療 法 士	16人	臨床検査技師	82人
薬 剤 師	68人	0人	68人	作 業 療 法 士	10人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	13人	そ の 他	0人
助 産 師	31人	0人	31人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	901人	27人	920.7人	臨 床 工 学 士	25人	医療社会事業従事者	11人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	33人
歯科衛生士	6人	7人	13人	歯 科 技 工 士	6人	事 務 職 員	312人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	58人	そ の 他 の 職 員	140人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	70人	眼 科 専 門 医	21人
外 科 専 門 医	73人	耳鼻咽喉科専門医	20人
精 神 科 専 門 医	21人	放 射 線 科 専 門 医	40人
小 児 科 専 門 医	44人	脳神経外科専門医	17人
皮 膚 科 専 門 医	16人	整 形 外 科 専 門 医	41人
泌尿器科専門医	15人	麻 酔 科 専 門 医	32人
産婦人科専門医	20人	救 急 科 専 門 医	20人
		合 計	450人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 秋田 弘俊 ) 任命年月日 平成31年4月1日

「医療安全管理委員会委員」 副病院長 平成28年4月1日～ 病院長 平成31年4月1日～現在に至る
---

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	714人	14人	728人
1 日当たり平均外来患者数	2,429人	691人	3,120人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	1476 剤		
必要医師数	211人		
必要歯科医師数	37人		
必要薬剤師数	25人		
必要（准）看護師数	469人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	920m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	病 床 数	10床	心 電 計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	〔固定式の場合〕 床面積		222m <sup>2</sup>		病床数 6 床	
	<del>〔移動式の場合〕 台 数</del>		<del>台</del>			
医 薬 品 情報管理室	〔専用室の場合〕 床 積		13m <sup>2</sup>			
	<del>〔共用室の場合〕 共用する室名</del>		<del></del>			
化学検査室	93m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	173m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) オートクレーブ			
病理検査室	799m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 切り出し台			
病理解剖室	208m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 剖検台			
研 究 室	2,031m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 安全キャビネット			
講 義 室	37m <sup>2</sup>	〃	室数	1 室	収容定員	50人
図 書 室	136m <sup>2</sup>	〃	室数	3 室	蔵 書 数	1,800冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

# 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		86.7%	逆紹介率	51.2%
算出根拠	A：紹介患者の数	16,038 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,001 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	889 人		
	D：初診の患者の数	19,523 人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

# 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
橋本 暁佳	札幌医科大学		医療安全に精通	無	1
萩原 正子	小樽市立病院		医療安全に精通	無	1
坂本 大蔵	ほくと総合法律事務所	○	法律に精通	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医師・患者関係に精通	無	2
生駒 一憲	北海道大学病院		医療を提供する者	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

# 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページ	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	1人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍(原発性若しくは転移性脳腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))であり、かつ、再発が疑われるものに限る。)	0人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	0人
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	1人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断 初発の神経膠腫が疑われるもの(生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。))	0人
陽子線治療 (切除不能肝細胞がん)	0人
膵癌腹膜転移に対するS-1+パクリタキセル経静脈腹腔内投与併用療法	0人
陽子線治療 (根治切除が可能な肝細胞がん)【陽子線治療を実施する施設】	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	17	56	ベーチェット病	319
2	筋萎縮性側索硬化症	48	57	特発性拡張型心筋症	154
3	脊髄性筋萎縮症	6	58	肥大型心筋症	105
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	27	60	再生不良性貧血	72
6	パーキンソン病	342	61	自己免疫性溶血性貧血	12
7	大脳皮質基底核変性症	11	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	5	63	特発性血小板減少性紫斑病	130
9	神経有棘赤血球症	4	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トウス病	5	65	原発性免疫不全症候群	92
11	重症筋無力症	115	66	IgA 腎症	72
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	246
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	157	68	黄色靱帯骨化症	12
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	28	69	後縦靱帯骨化症	195
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	9
16	クロー・深瀬症候群	4	71	特発性大腿骨頭壊死症	213
17	多系統萎縮症	38	72	下垂体性ADH分泌異常症	69
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	249	73	下垂体性TSH分泌亢進症	8
19	ライソゾーム病	18	74	下垂体性PRL分泌亢進症	23
20	副腎白質ジストロフィー	4	75	クッシング病	44
21	ミトコンドリア病	23	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	208	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	150
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	434
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	4
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	4	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	39
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	17	83	アジソン病	3
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	332
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	75
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	71
32	自己食空胞性ミオパチー	2	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	73
34	神経線維腫症	71	89	リンパ脈管筋腫症	42
35	天疱瘡	108	90	網膜色素変性症	53
36	表皮水疱症	15	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	24	92	特発性門脈圧亢進症	5
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	5	93	原発性胆汁性肝硬変	161
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	16
40	高安動脈炎	77	95	自己免疫性肝炎	68
41	巨細胞性動脈炎	12	96	クローン病	236
42	結節性多発動脈炎	43	97	潰瘍性大腸炎	398
43	顕微鏡的多発血管炎	99	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	35	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	36	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	24	101	腸管神経節細胞僅少症	3
47	バージャー病	17	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	14	103	CFC症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	855	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	354	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	211	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	77	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	647	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	33	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	12	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	63
113	筋ジストロフィー	30	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	4	167	マルファン症候群	5
118	脊髄髄膜瘤	5	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	14
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	2
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	3
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	4
142	ミオクロニー欠神てんかん	1	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	17	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	2	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	7	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	7	210	単心室症	6

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	3	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	3	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	18
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	5	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	3	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	109	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	5	271	強直性脊椎炎	31
224	紫斑病性腎炎	14	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	2	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	13	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	12	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	8	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	2
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	3	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	7
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	4
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	15
249	グルタル酸血症1型	1	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性腭炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	1	300	IgG4関連疾患	24
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	3
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	3	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	1	304	若年発症型両側性感音難聴	2
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	19

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	βーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族Lーアミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	1
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	1	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	1	330	先天性気管狭窄症	0
			331	突発性多中心性キャッスルマン病	15

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般は7対1) ・特定機能病院入院基本料(精神13対1)	・精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
・臨床研修病院入院診療加算 1基幹型	・精神科救急搬送患者地域連携受入加算
・救急医療管理加算1及び2	・呼吸ケアチーム加算
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算1	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算1	・入退院支援加算2
・看護職員夜間配置加算	・認知症ケア加算2
・看護補助加算2	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料4
・無菌治療室管理加算1及び2	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室管理料)
・精神科身体合併症管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 (新生児集中治療室管理料)
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・植込型除細動器移行期加算	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・高度難聴指導管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・喘息治療管理料	・持続血糖測定器加算
・糖尿病合併症管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・造血器腫瘍遺伝子検査
・がん患者指導管理料イ	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料ロ	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)
・がん患者指導管理料ハ	・抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来緩和ケア管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後、造血幹細胞移植後)	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・糖尿病透析予防指導管理料	・国際標準検査管理加算
・小児運動器疾患指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・外来放射線照射診療料	・植込型心電図検査
・ニコチン依存症管理料	・時間内歩行試験
・療養・就労両立支援指導料の注2に規定する相談体制充実加算	・胎児心エコー法
・ハイリスク妊産婦連携指導料1 ・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ヘッドアップティルト試験
・がん治療連携計画策定料	・人工臓臓
・がん治療連携管理料	・皮下連続式グルコース測定
・肝炎インターフェロン治療計画料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来排尿自立指導料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・薬剤管理指導料	・脳磁図(旧 神経磁気診断)
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・脳波検査判断料1
・医療機器安全管理料1	・遠隔脳波診断
・医療機器安全管理料2&歯科	・神経学的検査

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・補聴器適合検査	・認知療法・認知行動療法1
・ロービジョン検査判断料	・精神科作業療法
・小児食物アレルギー負荷検査	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・内服・点滴誘発試験	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・センチネルリンパ節生検(併用)	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・医療保護入院等診療料
・画像診断管理加算1(歯科以外)	・硬膜外自家血注入
・ポジトロン断層撮影 ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・エタノールの局所注入(甲状腺・副甲状腺)
・CT撮影及びMRI撮影	・人工腎臓
・冠動脈CT撮影加算	・慢性維持透析濾過加算
・心臓MRI撮影加算	・導入期加算2
・大腸CT撮影加算	・透析液水質確保加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・一酸化窒素吸入療法
・外来化学療法加算1	・磁気による膀胱等刺激法
・無菌製剤処理料	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
・心大血管疾患リハビリテーション料 I	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・初期加算	・皮膚移植術(死体)
・脳血管疾患等リハビリテーション料 I	・組織拡張器による再建手術〔乳房(再建手術)の場合に限る〕
・初期加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・運動器リハビリテーション料 I	・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・初期加算	・腫瘍脊椎骨全摘術
・呼吸器リハビリテーション料 I	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・初期加算	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。) ・脳刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料	・脊髄刺激装置植込術 ・脊髄刺激装置交換術
・児童思春期精神科専門管理加算	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・救急患者精神科継続支援料	・緑内障手術〔緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)〕

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・緑内障手術〔水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術〕	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・補助人工心臓
・網膜再建術	・植込型補助人工心臓(拍動流型)
・人工内耳植込術	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・同種心移植術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・経皮的動脈遮断術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) ・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	・ダメージコントロール手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・肺悪性腫瘍手術	・胃瘻造設術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・食道縫合術(穿孔、損傷)等(内視鏡によるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経皮的冠動脈形成術	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・生体部分肝移植術
・胸腔鏡下弁形成術 ・胸腔鏡下弁置換術	・同種死体肝移植術
・経皮カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術 ・ペースメーカー交換術 ・リードレスペースメーカー移植術	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・植込型心電図記録計移植術 ・植込型心電図記録計摘出術	・同種死体膵移植術 ・同種死体膵腎移植術
・両心室ペースメーカー移植術 ・両心室ペースメーカー交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・植込型除細動器移植術 ・植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下小切開腎摘出術



## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・同種死体腎移植術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・生体腎移植術	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
・膀胱水圧拡張術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・粒子線治療(一連につき)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・粒子線治療適応判定加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・粒子線治療医学管理加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯科治療総合医療管理料
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・有床義歯咀嚼機能検査
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	・精密触覚機能検査
・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	・歯科口腔リハビリテーション料2
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・歯根端切除術 注3
・輸血管理料Ⅰ	・歯周組織再生誘導手術
・コーディネート体制充実加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・内視鏡手術用支援機器加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・麻酔管理料(Ⅰ)	・CAD/CAM冠
・麻酔管理料(Ⅱ)	・歯科矯正診断料
・放射線治療専任加算	・顎口腔機能診断料
・外来放射線治療加算	・口腔病理診断管理加算 2
・体外照射呼吸性移動対策加算	・歯科画像診断管理加算 1
・高エネルギー放射線治療	・歯科画像診断管理加算 2

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・がんゲノムプロファイリング検査 1 検体提出時 ※先進医療で実施されていた疾患について保険適用	・
・がんゲノムプロファイリング検査 2 結果説明時 ※先進医療で実施されていた疾患について保険適用	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	約300回
剖 検 の 状 況	剖検症例数      16 例      /      剖検率    2.9      %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳放射線治療の個別最適化に向けた包括的研究	青山 英史	放射線治療科	2,500,000	補委	日本学術振興会
PD-L1の遺伝子変異および糖鎖修飾の意義とバイオマーカー開発に関する研究	秋田 弘俊	腫瘍内科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷に対する新規神経保護薬の開発	浅野 毅	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高信頼性内視鏡外科医育成のための継続的教育モデルの構築	安部 崇重	泌尿器科	1,200,000	補委	日本学術振興会
造血幹細胞移植患者のQOL改善に直結する薬剤性味覚障害のメカニズム解明	阿部 貴恵	高齢者歯科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CDDP耐性肝芽腫におけるメチル化異常の解明と新規治療法の探求	荒 桃子	消化器外科Ⅰ	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
疾患特異的iPS細胞を用いたATRX変異神経膠腫におけるテロメア伸長機構の解明	伊師 雪友	脳神経外科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症治療薬クロザピン誘発性流涎症の発現機序の解明	石川 修平	薬剤部	510,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
難治性血管奇形に対するmTOR経路に着目した血管新生阻害療法の開発	石川 耕資	形成外科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
手洗いの除菌によりカルバペネム耐性緑膿菌を激減させる革新的手法の開発と基礎的研究	石黒 信久	感染制御部（小児科）	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
母体環境化学物質曝露が児の性分化に与える影響と遺伝子多型による修飾	今 雅史	血液浄化部（泌尿器科）	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗神経成長因子抗体と関節注射併用による変形性膝関節症に対する新たな疼痛治療の開発	岩崎 浩司	整形外科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
培養細胞上の糖鎖抗原変化と自家細胞移植における免疫応答発生機序の解明	岩崎 倫政	整形外科	2,800,000	補委	日本学術振興会
自己免疫疾患における補体の新たな働きの解明	岩田 浩明	皮膚科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
左室駆出率の保たれた心不全患者における心筋線維化、左室拡張機能、運動耐容能の関連	岩野 弘幸	循環器内科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HLA構造解析を用いた腎移植後慢性拒絶反応発症リスク評価アルゴリズムの確立	岩見 大基	泌尿器科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
歯の発生におけるSATB2の役割	上村 光太郎	矯正歯科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
制御性T細胞に着目した新規乾癬マウスモデルの作製と治療応用	氏家 韻欣	皮膚科	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
水疱性類天疱瘡抗原反応性T細胞株の樹立と応用	氏家 英之	皮膚科	3,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肥満モデルマウスにおける術後認知機能障害の検討ー機序およびその予防ー	内田 洋介	麻酔科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
妊娠・出産に伴う血中ケトン体の役割：胎児の成長と産後うつ病の回避	馬詰 武	産科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胃癌に対する新規蛍光腹腔鏡システムを用いた光線力学的術中リンパ節転移診断法の確立	海老原 裕磨	消化器外科Ⅱ	1,000,000	補委	日本学術振興会
後縦靱帯骨化症における肥満/耐糖能異常に関連する遺伝素因と環境因子の探索	遠藤 努	整形外科	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膀胱がんサバイバーの患者立脚型アウトカムを適切に測定できるQOL評価法の確立	大澤 崇宏	泌尿器科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
増殖型レトロウイルスベクターを用いた胆道癌に対する新規遺伝子治療の開発	岡村 圭祐	消化器外科Ⅱ	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞の培養上清を用いた内視鏡的粘膜下層剥離術後の食道狭窄予防	小野 尚子	消化器内科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CRISPR技術を用いたモザイク病変を有する遺伝性皮膚疾患モデルマウスの作製	小野寺 智洋	整形外科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
左室駆出率が保たれた心不全に合併する早期ステージ肺高血圧の新規診断戦略の開発	表 和徳	循環器内科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
糖尿病の脈絡膜厚調節に対するVEGF- $\alpha$ B-クリスタリン系の関与	加瀬 諭	眼科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
橋渡し研究_A141_血液脳脊髄関門に注目した既存薬の応用による中枢神経保護薬の開発	角家 健	整形外科	1,700,000	補委	日本医療研究開発機構
末梢神経の軸索再生を支える細胞機構と接着因子の解明	角家 健	整形外科	19,413,300	補委	日本医療研究開発機構
Radionicsを用いた肝癌に対する“個別化”陽子線治療法の確立	加藤 徳雄	放射線治療科	600,000	補委	日本学術振興会
乳癌の個別化治療に向けたMRIのRadionics解析による治療効果予測	加藤 扶美	放射線部（放射線診断科）	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
滑膜線維芽細胞特異的オートファジーの制御を介した関節リウマチの新規治療法開発	加藤 将	内科Ⅱ	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高悪性度唾液腺癌に対する網羅的遺伝子解析による新規治療標的分子の発見	加納 里志	耳鼻咽喉科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HFpEFの虚血条件における催不整脈性の解明	鎌田 塁	循環器内科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
4D Flow - MRIを用いた大動脈弁置換術後合併症予測指標に関する研究	神谷 究	循環器内科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ニューロメジンBはクッシング病の新規治療薬となるか	亀田 啓	内科Ⅱ	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
0-17標識水を用いたMRIと同位体顕微鏡による中枢神経系の水動態の解明	亀田 浩之	歯科放射線科	1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
軸索再生に至適なシュワン細胞の同定	河村 太介	整形外科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
超音波内視鏡下針生検による膵臓癌腫瘍内細菌叢の検出可能性の研究	川本 泰之	消化器内科	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎癌転移における腫瘍血管内皮細胞ーがん細胞クラスターの役割解明	菊地 央	泌尿器科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
正常眼圧緑内障モデルマウスにおける熱ショック蛋白質を介した網膜神経保護	木嶋 理紀	眼科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非小細胞肺癌における抗癌薬耐性化の克服を目指したヒストン修飾酵素阻害療法の開発	木下 一郎	がん遺伝子診断部（腫瘍内科）	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
前向き難治性喘息コホートにおける、バイオマーカーの経年的変化についての研究	木村 孔一	内科Ⅰ	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脂質メディエーター制御因子AIMの喘息・アレルギー病態における役割の解明	木村 裕樹	内科Ⅰ	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
メラノーマ転移動物モデルにおける低酸素ストレス応答の解析	草島 英梨香	形成外科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
0-17酸素MRIによる細胞内代謝の仮視化	工藤 與亮	放射線診断科	3,800,000	補委	日本学術振興会
0-17酸素MRIによる細胞内代謝の仮視化	工藤 與亮	放射線部（放射線診断科）	3,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ヒト化マウスによる難治性胆汁うっ滞性疾患と移植後HLA抗体の病態解明と治療法開発	後藤 了一	消化器外科Ⅰ	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
一軸配向化高靱性合成コラーゲングル繊維束の生体内再構築に関する適応制御機序の解明	近藤 英司	スポーツ医学診療センター	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
シクロオキシゲナーゼ2選択的阻害薬がシスプラチン起因性腎障害に与える影響の検討	齋藤 佳敬	薬剤部	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病網膜症における可溶型VAP-1/SSA0の産生機構	齋藤 理幸	眼科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺癌組織系の違いによるNumbの肺癌増殖に対する機能について	榊原 純	内科Ⅰ	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔がん悪性化におけるRNA編集酵素ADAR1の意義解明	坂田 健一郎	口腔内科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
慢性肝疾患の組織病態進展機構の解析および血清組織糖鎖の網羅的探索による予後予測マーカーの構築	坂本 直哉	消化器内科	32,710,000	補委	日本医療研究開発機構
マクロファージをターゲットにしたBRONJ発症機序の解明と治療法の開発	佐藤 明	口腔内科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規血管作動性物質の動脈硬化促進機序の解明と虚血性心疾患のバイオマーカーへの応用	佐藤 健吾	検査・輸血部	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍血管内皮サイトカインレセプターの口腔癌の予後予測診断法への応用	佐藤 千晴	口腔内科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
橋渡し研究：新規医療技術の持続的創出を実現するオープンアクセス型拠点形成	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	117,050,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療技術：安全性確保に立脚した新規医療技術開発推進に関する研究	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	160,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床研究総合促進事業：臨床研究・治療従事者等に対する研修プログラム	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	9,000,000	補委	厚生労働省
臨床研究総合促進事業：先進医療等実用化促進プログラム	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	12,430,000	補委	厚生労働省
Precision Medicine時代を切り拓く11C標識メチオニンの脳腫瘍診断に関する研究－薬剤自動合成装置の医療機器承認取得を目指して－	志賀 哲	核医学診療科	23,970,720	補委	日本医療研究開発機構
脂肪肝グラフトのミトコンドリア機能と抗酸化能を増強する画期的な肝体外灌流法の開発	嶋村 剛	臓器移植医療部（消化器外科Ⅰ）	2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病におけるミネラル結晶とコラーゲン分子の組織化障害がもたらす骨脆弱性	清水 智弘	整形外科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
子どもの言語機能はどのように形成され修復されるのか？－脳磁図による検討－	白石 秀明	小児科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ヘリコバクター・ピロリの薬剤耐性モニタリングと除菌戦略の立案	杉山 敏郎	先進消化器がん分子標的治療・予防学研究部門（消化器内科）	3,000,000	補委	厚生労働省
末梢血エクソソームRNA解析による閉塞性肺疾患の類似性・相違点・合併病態の解明	鈴木 雅	内科Ⅰ	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
好酸球性副鼻腔炎におけるSIRT1によるサイトカイン発現制御機序の解明	鈴木 正宣	耳鼻咽喉科	600,000	補委	日本学術振興会
細胞内亜鉛とTGF-βシグナル制御による好酸球性副鼻腔炎の新規治療法の開発	鈴木 正宣	耳鼻咽喉科	12,000,000	補委	日本学術振興会
レポーターアッセイによる新規・大規模抗HBV薬スクリーニング系を用いた薬剤開発	須田 剛生	消化器内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
椎間板再生治療における組織修復材の開発	須藤 英毅	整形外科	91,000,000	補委	日本医療研究開発機構
マイクロカテーテルのカニューレション難易度解明と科学的トレーニングシステムの開発	曾山 武士	放射線部（放射線診断科）	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
陽子線治療におけるパラメトリックDVH予測モデルの構築と治療高度化の試み	高尾 聖心	医学物理部	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
BET阻害による非相同末端結合機構抑制効果を用いた新しい肺癌治療の開発	高島 雄太	内科Ⅰ	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
移植片対宿主病による肝幹細胞傷害の有無と肝組織再生に与える影響についての検討	高橋 秀一郎	検査・輸血部	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高難度手術の教育システム開発～いかに安全に職人技を継承させるか～	高橋 誠	臨床研修センター	700,000	補委	日本学術振興会
医学生等地域医療体験実習支援事業	高橋 誠	臨床研修センター	4,000,000	補委	北海道
成熟型延髄呼吸中枢におけるノシセプチンの役割と責任部位の解明	瀧田 恒一	麻酔科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリア心筋症の新規診断法の確立	武田 充人	小児科	1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
根面う蝕の撲滅を目指して！バイオメテック法を用いたセメント質強化法の確立	田中 佐織	口腔総合治療部（歯周・歯内療法科）	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新たな根面う蝕治療に向けたバイオアクティブ材料とナノテク材料の応用	田中 亨	歯冠修復科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢者に対する簡便な嚥下機能測定機器の開発	千葉 春子	リハビリテーション部（リハビリテーション科）	400,000	補委	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
遺伝子解析による鼻副鼻腔悪性黒色腫新規治療標的分子の同定	対馬 那由多	耳鼻咽喉科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
難治性固形癌の局所免疫環境に着目した手術期の個別化免疫化学療法の開発	土川 貴裕	消化器外科Ⅱ	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非血縁者間末梢血幹細胞移植における新規慢性GVHD予防法と持続型G-CSFによる幹細胞動員の開発研究	豊嶋 崇徳	血液内科	9,800,000	補委	日本医療研究開発機構
統合失調症の認知機能障害に対する新規の聴知覚・視知覚訓練の開発と改善効果の検討	豊巻 敦人	精神科神経科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大規模臨床データを用いたアジア欧米間心不全診療の実態の解明と国際リスクモデルの開発	永井 利幸	循環器内科	1,100,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肺動脈性肺高血圧症の新規治療法の開発	永井 礼子	小児科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ソフトマター工学を利用した“見える”粒子塞栓物質の開発	長内 俊也	脳神経外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
好中球プログラム細胞死をターゲットにしたANCA関連腎炎の新規治療開発	中沢 大悟	血液浄化部（内科Ⅱ）	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Advanced dynamic statistical parametric mapping to identify minimum epileptogenic lesion for seizure freedom	中島 翠	小児科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ニューラルネットワーク応用によるブラキシズムパワー値推定システム構築への挑戦	中島 利徳	冠橋義歯補綴科	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IL-12による好酸球性副鼻腔炎の病態制御機構の解明	中菌 彬	耳鼻咽喉科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口内環境が頭頸部・食道癌の発生・再発に与える影響の解析	中積 宏之	腫瘍センター（消化器内科）	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
“はがせる”新規歯科矯正用接着材の開発	中西 康	矯正歯科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胆道癌リンパ節転移巣における浸潤・増殖機序に関する検討	中西 喜嗣	消化器外科Ⅱ	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IgE測定のパットフォールとなるIgG4-IgE複合体の解明と新規測定法の開発	中野 恵一	検査・輸血部	540,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
グルコキナーゼの制御による膵β細胞量調節メカニズムの解明	中村 昭伸	内科Ⅱ	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高難度手術体系的教育のためのシミュレーショントレーニングシステムの開発	中山 智英	消化器外科Ⅱ	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高分解能PET装置を用いた冠動脈プラーク炎症病変の可視化と心筋梗塞発症の機序解明	納谷 昌直	循環器内科	5,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新撮像法の拡散尖度画像による、躁うつ病と大うつ病患者群間の大脳白質構造差異の検出	成田 尚	精神科神経科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ぶどう膜炎における上皮増殖因子受容体依存性局所炎症増幅回路の検討	南場 研一	眼科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
多発性嚢胞腎における嚢胞増悪の機序、および予後予測因子の解明	西尾 妙織	内科Ⅱ	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
世界初！ナノセラミクス配合ヒトコラーゲンによる安心安全な歯周組織再生法	西田 絵利香	歯周・歯内療法科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
深層学習と意味解析を組み合わせた臨床研究データを標準化する手法の開発	西本 尚樹	臨床研究開発センター	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
SLC46A1新規変異を有した遺伝性葉酸吸収不全症に関する研究	野川 奈津子	小児・障害者歯科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん患者末梢血浮遊DNAの全身性炎症反応への役割の解明	野口 卓郎	腫瘍内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
呼吸器上皮に存在するM細胞の生理的・病理的条件における機能の解明	乃村 俊史	皮膚科	4,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アレルギー性皮膚疾患の発症基盤の解明	乃村 俊史	皮膚科	2,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マクロファージ-筋線維芽細胞系を標的とした慢性GVHD治療法の開発	橋本 大悟	血液内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
新規陰性症状評価システムの構築と、陰性症状の生物学的基盤の探索	橋本 直樹	精神科神経科	800,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬の血中および脳内濃度の簡便な測定法の開発と臨床への応用	長谷 由理	歯科麻酔科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗酸化アミノ酸を応用した新規外傷歯の治療方法の開発	久田 明奈	小児・障害者歯科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
正常血管に作用しない悪性腫瘍特異的血管新生阻害剤のハイスループットスクリーニング	樋田 泰浩	地域医療連携福祉センター（循環器・呼吸器外科）	4,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
本邦の小児～若年成人骨髄異形成症候群における先天性素因と臨床像の解明	平林 真介	小児科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
バイオインフォマティクスアプローチによる後天性中耳真珠腫シグナル伝達機構の解析	福田 篤	耳鼻咽喉科	1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
単球で合成されるプロトロンビンが関与する抗リン脂質抗体産生機序の解明	藤枝 雄一郎	内科Ⅱ	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
MRIによる頭頸部癌の生物学的特性の画像化と人工知能による予後予測モデル開発	藤間 憲幸	放射線診断科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
小細胞肺癌におけるDLL3の機能及び遺伝子異常の検討	古田 恵	内科 I	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍血管の異常性獲得に乳酸アシドーシスが及ぼす影響の検討	北條 敬之	歯科麻酔科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎移植における慢性抗体関連型拒絶反応の早期診断法の開発	堀田 記世彦	泌尿器科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
老化促進マウスにおける敗血症関連脳障害の機序－神経炎症からの検討－	干野 晃嗣	麻酔科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
オッセオインテグレーション関連因子を用いた新規インプラント周囲骨再生治療の開発	堀内 留美	義歯補綴科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
てんかん患者の基本的な皮膚電気活動を明らかにする	堀之内 徹	精神科神経科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肝細胞癌との共通メカニズムに基づく肝芽腫の新規分子診断・治療開発	本多 昌平	消化器外科 I	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	本間 明宏	耳鼻咽喉科	18,044,000	補委	日本医療研究開発機構
デジタル半導体PET装置による被曝低減・定量精度向上を担保した画像構築法の開発	孫田 恵一	放射線部	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
手掌腱膜の繊維化における炎症増幅回路活性化分子の解析	松井 雄一郎	整形外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
成長板軟骨損傷後の治癒過程におけるガングリオシドによる内軟骨性骨化制御機構の解明	松岡 正剛	整形外科	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
小児骨端線損傷後にシンデカン4欠損が成長板軟骨修復に与える影響	松岡 正剛	整形外科	400,000	補委	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
小児の急性リンパ性白血病治療における有害事象に関わる遺伝子多型の解明	真部 淳	小児科	50,000	補委	日本学術振興会
産科医・小児科医養成支援特別対策事業	真部 淳	小児科	961,000	補委	北海道
小児急性リンパ性白血病に対する標準的治療法の確立	真部 淳	小児科	40,461,000	補委	日本医療研究開発機構
PET用低酸素イメージング薬剤であるFMISOを用いた心サルコイドーシスの評価	真鍋 治	放射線診断科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心サルコイドーシス診断における包括的全身造影CT検査および解析法の確立	真鍋 徳子	放射線診断科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HIF-PH阻害剤を用いた顔面神経麻痺治療～神経再生促進と表情筋萎縮防止の二刀流	三浦 隆洋	形成外科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
睡眠時ブラキシズムに影響する測定環境要因の解明－真のブラキシズム発現数を求めて	三上 紗季	高次口腔医療センター（冠橋義歯補綴科）	2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
PD-1/PD-L1が関与する重症外傷病態の解明および新規治療法の開発	水柿 明日美	救急科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HPV関連中咽頭癌の予後因子の解明とリキッドバイオプシーによる治療効果予測の検討	水町 貴諭	耳鼻咽喉科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
卵巣がんの血管新生阻害薬耐性の発生を予防するためのCCR2阻害薬併用療法の開発	三田村 卓	婦人科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
矯正歯科治療の期間短縮に向けたマイクロカレント（微弱電流）機器の開発	武藤 麻未	矯正歯科	400,000	補委	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
悪性グリオーマに対するケモタキシスを応用した細胞誘殺療法の研究	茂木 洋晃	脳神経外科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
B型肝炎ウイルスcccDNA排除を目指した新規抗ウイルス治療の開発	森川 賢一	消化器内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
遺伝子変異および発現分子解析に基づく外耳道扁平上皮癌に対する治療戦略構築	森田 真也	耳鼻咽喉科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IMPTを用いた「辛い」頭頸部癌放射線治療法の開発	安田 耕一	放射線治療科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
紫外線皮膚障害と癌化におけるミトコンドリア分裂関連分子の機能解析	柳 輝希	皮膚科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
多系統萎縮症の自然歴と新規バイオマーカー開発に関する研究	矢部 一郎	神経内科	14,820,000	補委	日本医療研究開発機構



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
低悪性度神経膠腫に対する蛍光診断：ポルフィリン代謝分子に対する機能解析	山口 秀	脳神経外科	1, 200, 000	補委	独立行政法人日本学術振興会
晩期再発乳癌の予測因子の同定と再発メカニズムの解明 ―個別化治療を目指して	山下 啓子	乳腺外科	900, 000	補委	独立行政法人日本学術振興会
早期食道腺癌・接合部腺癌の蛍光プローブによる検出に関する多施設共同研究	山本 桂子	光学医療診療部（消化器内科）	1, 100, 000	補委	独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤を用いたH. suis感染胃リンパ腫抑制効果の検討	山本 幸司	先進消化器がん分子標的治療・予防学研究部門	1, 000, 000	補委	独立行政法人日本学術振興会
羊膜由来間葉系幹細胞を用いた放射線性口内炎の治療法の開発	結城 敏志	消化器内科	1, 000, 000	補委	独立行政法人日本学術振興会
小腸由来αディフェンシンによる腸内細菌叢制御機構に着目した心不全の進展機序解明	横田 卓	臨床研究開発センター	1, 200, 000	補委	独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患活動性関連因子に関する基礎的研究	吉田 雅	消化器外科Ⅰ	1, 000, 000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔内病変を生じた類天疱瘡患者の唾液中自己抗体の病原性解析	和田 麻由美	口腔内科	500, 000	補委	独立行政法人日本学術振興会
光遺伝学を用いた心室細動誘発におけるプルキンエ線維網 - 心筋接合部の役割の解明	渡邊 昌也	循環器内科	1, 100, 000	補委	独立行政法人日本学術振興会
治験の実施に関する研究〔トシリズマブ〕	渥美 達也	内科Ⅱ	153, 846	補委	公益社団法人日本医師会 治験促進センター
遺伝子発現制御機構に基づく自己免疫疾患の患者層別化と個別化医	渥美 達也	内科Ⅱ	930, 000	補委	国立大学法人東京大学
遺伝子発現制御機構に基づく自己免疫疾患の患者層別化と個別化医	渥美 達也	内科Ⅱ	930, 000	補委	国立大学法人東京大学
IoTセルフケアアプリを活用した高血圧性疾患の重症化予防を目指した研究	安斉 俊久	循環器内科	33, 000, 000	補委	日本医療研究開発機構
経カテーテル大動脈弁置換術の有効性・最適化・費用対効果を明らかにする研究	安斉 俊久	循環器内科	9, 999, 998	補委	日本医療研究開発機構
心房細動合併急性冠症候群患者における抗血栓治療後の出血と血栓リスクに関する前向き観察研究（多施設共同研究）	安斉 俊久	循環器内科	66, 461	補委	順天堂大学
2型糖尿病合併不整脈治療デバイス植え込み患者におけるエンパグ	安斉 俊久	循環器内科	423, 077	補委	国立大学法人新潟大学
悪性腫瘍におけるAmigo発現と臨床病理学的意義の解明	加瀬 諭	眼科	450, 000	補委	国立大学法人鳥取大学
表皮水疱症の治療最適化戦略	夏賀 健	皮膚科	8, 820, 000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
精神神経ループス発症の分子機序と新規治療の開発：ミクログリアの細胞型分化機構	河野 通仁	内科Ⅱ	1, 900, 000	補委	日本学術振興会
新規腹腔鏡用蛍光スペクトル測定装置を用いた光線力学的再建臓器血流診断法の確立	海老原 裕磨	消化器外科Ⅱ	2, 000, 000	補委	株式会社アドバンテスト
自己免疫惹起性T細胞の分子病理学的解析と診断・治療への展開	外丸 詩野	病理診断科	3, 900, 000	補委	日本学術振興会
産業創出分野：運動器先端医学分野	角家 健	整形外科	34, 545, 454	補委	株式会社日立ハイテクノロジーズ
下肢運動器疾患に関する基礎的および臨床的研究	岩崎 倫政	整形外科	5, 011, 212	補委	社会医療法人 北斗 北斗病院
骨髄穿刺濃縮細胞（BMAC）と高純度アルギン酸ゲル併用における軟骨再生研究	岩崎 倫政	整形外科	2, 061, 136	補委	持田製薬株式会社
バイオマテリアル機能再生分野	岩崎 倫政	整形外科	8, 280, 000	補委	持田製薬株式会社
コンピュータ分子設計PAI-1阻害薬を用いたぶどう膜炎モデル軽症化の検討	岩田 大樹	眼科	1, 200, 000	補委	日本学術振興会
確率論的LQモデルによる放射線治療効果予測法の研究	鬼丸 力也	放射線治療科	800, 000	補委	日本学術振興会
排泄の悩みを解決するスマートデバイス「かわや日記帳」の開発	橘田 岳也	泌尿器科	886, 112	補委	北海道総合通信局長
StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLF	結城 敏志	消化器内科	41, 540	補委	公益財団法人 がん集学的治療研究財団
脳由来神経栄養因子によるミトコンドリア機能制御機構の解明	絹川 真太郎	循環器内科	5, 400, 000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
妊娠高血圧腎症の発症を予知する尿中バイオマーカーの探索	古田 伊都子	産科	1,400,000	補委	日本学術振興会
ソフトウェア機能評価	工藤 與亮	放射線診断科	500,000	補委	富士フイルムメディカル株式会社 ITソリューション事業本部
急性期虚血性脳血管障害の非侵襲的画像診断指針の提案	工藤 與亮	放射線診断科	500,000	補委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
酸素の安定同位体O-17を用いた次世代MRI検査法の開発	工藤 與亮	放射線診断科	54,769,231	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
GABA持続抑制不全の多様性がもたらすアンジェルマン症候群の病態解明と治療法開発	江川 潔	小児科	2,900,000	補委	日本学術振興会
ドラッグリポジショニング候補薬の同定、および効果判定	荒戸 照世	臨床研究開発センター	300,000	補委	国立大学法人新潟大学
免疫グロブリン様受容体(IgLR)分子群を標的とした次世代骨吸収抑制薬の開発	高畑 雅彦	整形外科	3,200,000	補委	日本学術振興会
スキャンング照射法およびIMPTの標準化と評価方法の確立	高尾 聖心	医学物理部	200,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
肥満が気管支喘息病態に及ぼす分子生物学的機序の解明	今野 哲	内科 I	800,000	補委	日本学術振興会
肝硬変の組織学的進展・軽快を担う間質微小環境因子の包括的解析	坂本 直哉	消化器内科	5,700,000	補委	日本学術振興会
肝硬変の組織学的展を抑制する糖鎖修飾構造を標的とした薬剤開発系の構築	坂本 直哉	消化器内科	2,400,000	補委	日本学術振興会
薬物性肝障害の臨床試料収集と関連解析	坂本 直哉	消化器内科	2,870,369	補委	公益財団法人 木原記念横浜生命科学振興財団
高齢者化学療法未施行IIIB/IV期扁平上皮肺癌に対するnab-Paclitaxel + Carboplatin併用療法とDocetaxel単剤療法のランダム化第III相試験	榊原 純	内科 I	83,077	補委	国立病院機構 名古屋医療センター
治験の実施に関する研究〔レンバチニブ（胸腺癌）〕	榊原 純	内科 I	365,000	補委	公益社団法人日本医師会 治験促進センター
希少遺伝子変異を有する小細胞肺癌に対する新規治療法の確立に関	榊原 純	内科 I	200,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
遺伝子スクリーニング基盤（LC-SCRUM-Japan）を利用した、MET遺	榊原 純	内科 I	500,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
ROS1融合遺伝子陽性の進行固形がんに対する治療開発を目指した研	榊原 純	内科 I	500,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
進行肺癌の血漿遊離DNAを利用したマルチ遺伝子解析法に基づく個	榊原 純	内科 I	500,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬からSGLT2阻害薬ルセオグリフロジンへの切り替えによる血圧・脈拍への影響に関する検討	三好 秀明	内科 II	9,319,871	補委	大正製薬株式会社
内臓脂肪の潜在能力：循環と免疫賦活におけるhyper 2-way player	山本 有平	形成外科	3,600,000	補委	日本学術振興会
低酸素腫瘍に対する新たな治療戦略の構築	志賀 哲	核医学診療科	4,600,000	補委	日本学術振興会
医学生に対する献体を使用した内視鏡外科教育プログラム開発とその検証	七戸 俊明	消化器外科 II	1,800,000	補委	日本学術振興会
臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成	七戸 俊明	消化器外科 II	30,000,000	補委	文部科学省
腫瘍血管トランスポーター阻害による尿路上皮癌薬剤耐性の克服	篠原 信雄	泌尿器科	1,000,000	補委	日本学術振興会
HER2増幅固形癌に対するトラスツズマブ・ペルツズマブ併用療法の	秋田 弘俊	腫瘍内科	4,080,000	補委	国立大学法人東京医科歯科大学
ゲノム医療の実装に資する臨床ゲノム情報統合データベースの整備	秋田 弘俊	腫瘍内科	2,307,693	補委	国立大学法人 京都大学
HER2陽性再発転移の唾液腺癌に対する個別化治療の開発	秋田 弘俊	腫瘍内科	31,129,231	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
PD-L1の遺伝子変異および糖鎖修飾の意義とバイオマーカー開発に関する研究	秋田 弘俊	病院長	1,100,000	補委	日本学術振興会
羊膜由来幹細胞の大いなる可能性～理想的な乳房再建を目指して	舟山 恵美	形成外科	1,200,000	補委	日本学術振興会
ハイリスク消化管間質腫瘍（GIST）に対する完全切除後の治療に関	小松 嘉人	腫瘍センター	143,840	補委	公益財団法人神戸医療産業都市推進機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
産学連携全国がんゲノムスクリーニング(SCRUM-Japan)患者レジスH	小松 嘉人	腫瘍センター	800,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
SCRUM-Japan GI-SCREEN基盤を活用した血液循環腫瘍DNAゲノムスク	小松 嘉人	腫瘍センター	1,538,462	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
SCRUM-Japanの基盤を活用した血液循環腫瘍DNAスクリーニングに基	小松 嘉人	腫瘍センター	1,600,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
HELLP症候群における補体活性化と血管新生関連因子についての研究	森川 守	産科	800,000	補委	日本学術振興会
老化促進モデルマウスを用いた術後高次脳機能障害ならびに認知症への麻酔・手術の影響	森本 裕二	麻酔科	1,100,000	補委	日本学術振興会
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する	須田 剛生	消化器内科	900,000	補委	国立大学法人大阪大学 大学院医学系研究科
C型肝炎の直接作用型抗ウイルス薬による治療後の病態変化に影響	須田 剛生	消化器内科	700,000	補委	公立大学法人名古屋市立大学
C型肝炎のウイルス排除後に起こる病態に関する研究	須田 剛生	消化器内科	2,307,693	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
第3世代EGFR-TKI投与後のIGFシグナル関連分子の発現に関する研究	水柿 秀紀	内科 I	1,000,000	補委	日本学術振興会
復帰変異モザイク表皮水疱症モデルマウスの作製と新規遺伝子治療法の開発	清水 宏	皮膚科	9,500,000	補委	日本学術振興会
先天性魚鱗癬における自然治癒機構の解明	清水 宏	皮膚科	6,000,000	補委	日本学術振興会
表皮水泡症におけるMuse細胞の有効性評価	清水 宏	皮膚科	9,000,000	補委	株式会社生命科学インスティテュート
分化型甲状腺癌を対象としたレンバチニブの治療効果探索のためのコホート研究	清水 康	腫瘍内科	16,615	補委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
微小空間画像による極低侵襲・マーカーレス実時間画像誘導放射線治療技法の開発	清水 伸一	放射線治療科	4,500,000	補委	日本学術振興会
動体追跡技術を発展させ、がん標的の3次元的形状と位置の時間的変化を把握する実体適合陽子線治療(Real-world Adaptive Proton Beam Therapy)システムの非臨床POC取得	清水 伸一	放射線治療科	57,000,000	補委	日本医療研究開発機構
量子線手術(クオンタム・ビーム・サージェリー)における治療中の迅速な判断・決定を支援するための診断支援機器・システム開発	清水 伸一	放射線治療科	19,972,082	補委	日本医療研究開発機構
陽子線治療の高精度技術の標準化とその評価方法確立	清水 伸一	放射線治療科	200,000	補委	国立がん研究センター
全長BP180自己抗体測定ELISA kitの開発	西江 渉	皮膚科	275,000	補委	株式会社 医学生物学研究所
受容体結合プロレニン系を標的とした網脈絡膜疾患治療戦略の確立	石田 晋	眼科	3,200,000	補委	日本学術振興会
眼科用デバイスの実用化検証に関する研究	石田 晋	眼科	2,160,907	補委	株式会社シード
受容体結合プロレニン系を標的としたボナック核酸医薬品の開発	石田 晋	眼科	9,298,000	補委	株式会社ボナック
APC結合タンパクEB1による膵癌の放射線抵抗性の画期的診断とその分子機構の解明	折茂 達也	消化器外科 I	700,000	補委	日本学術振興会
産学連携全国がんゲノムスクリーニング(SCRUM-Japan)患者レジ	川本 泰之	消化器内科	1,969,231	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
脊髄損傷に対する新規神経保護薬の開発	浅野 毅	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
メラノーマの転移機序をCirculating tumor cellsから捉える	前田 拓	形成外科	1,700,000	補委	日本学術振興会
内視鏡外科修練に関する全国サーベイおよび修練プログラムモデルの開発	倉島 庸	消化器外科 II	1,500,000	補委	日本学術振興会
外傷急性期の線溶亢進から線溶抑制への病態解明	早川 峰司	救急科	900,000	補委	日本学術振興会
羊膜由来間葉系幹細胞がもつEPA-レゾルビン産生と早産予防効果の検討	大西 俊介	消化器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
DSS誘発大腸炎モデル動物および乳房再建モデル動物、顔面神経麻痺モデル動物を用いた羊膜MSCの有効性評価と膵炎治療用デバイスの開発	大西 俊介	消化器内科	10,000,000	補委	株式会社カネカ
内視鏡的絆創膏の開発	大西 俊介	消化器内科	230,760	補委	グンゼ株式会社

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
粒子化ハイドロゲルを用いた血管網を有する脳組織の構築	谷川 聖	病理診断科	900,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂機構解明へ向けた分子生物学的・血行力学的統合解析と新規薬剤治療の開拓	中山 若樹	脳神経外科	1,200,000	補委	日本学術振興会
CRISPRスクリーニングによるT/NK細胞性リンパ腫の網羅的分子標的同定	中川 雅夫	血液内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬ニボルマブが誘発する1型糖尿病、間	中村 昭伸	内科Ⅱ	250,769	補委	国立大学法人長崎大学 長崎大学病院
膵癌の浸潤・増殖を阻害する細胞膜透過性ペプチドを応用した新規治療法の開発	中村 透	消化器外科Ⅱ	1,200,000	補委	日本学術振興会
低身長を伴った思春期早発症症例における遺伝学的原因および臨床	中村 明枝	小児科	350,000	補委	国立研究開発法人国立成 育医療研究センター
北海道地区における希少難治性疾患の診断	中村 明枝	小児科	4,000,000	補委	国立研究開発法人 国立 精神・神経医療研究セン ター
インプリンティング疾患の病因病態解明	中村 明枝	小児科	1,000,000	補委	国立研究開発法人国立成 育医療研究センター
青年期の抑うつ症状と社交不安症状に関する包括的、縦断的検討	朝倉 聡	精神科神経科	700,000	補委	日本学術振興会
治験の実施に関する研究[WT1ペプチドワクチン]	長 和俊	周産母子センター	305,973	補委	公益社団法人日本医師会 治験促進センター
肺胞蛋白症診療に直結するエビデンス創出研究：重症難治例の診断	長 和俊	周産母子センター	140,000	補委	国立病院機構 近畿中央 呼吸器センター
高機能ゲルによるがん幹細胞リプログラミングと治療薬開発基盤の創出	田中 伸哉	病理診断科	9,500,000	補委	日本学術振興会
産科医・小児科医養成支援特別対策事業	渡利 英道	産婦人科	961,000	補委	北海道
シスプラチンを含む化学療法を施行される子宮がん患者の嘔気・嘔吐に対する六君子湯の効果ープラセボ対照無作為化二重盲検比較検証試験	渡利 英道	産婦人科	19,500,000	補委	日本医療研究開発機構
リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する標準的リンパ節郭清確立のための多施設共同臨床試験	渡利 英道	産婦人科	17,199,000	補委	日本医療研究開発機構
難治性婦人科悪性腫瘍に対するPARP阻害薬・niraparibの有効性に関する臨床的・基礎的検討	渡利 英道	産婦人科	5,454,545	補委	武田薬品工業株式会社
Breast cancer susceptibility gene (BRCA) 関連バイオマーカー{ Mutational Signature-based Biomarker: MSBM }の探索研究	渡利 英道	産婦人科	76,923	補委	国立大学法人東京大学医 学部附属病院
陽子線CT搭載型ヘリウム・陽子線混合治療装置と免疫賦活照射法の研究開発	白土 博樹	放射線治療科	3,100,000	補委	日本学術振興会
次世代型高精度粒子線治療システムの研究（1）	白土 博樹	放射線治療科	4,230,769	補委	株式会社日立製作所 研 究開発グループ
平成31年度政府戦略分野にかかる国際標準化活動	白土 博樹	放射線治療科	7,149,993	補委	株式会社三菱総合研究所
DGKα/ζを標的とした消化器がんに対する次世代免疫療法の開発研究	武富 紹信	消化器外科Ⅰ	4,800,000	補委	日本学術振興会
化学療法抵抗性獲得機序におけるDGKα高発現の意義の解明とその制御法の開発研究	武富 紹信	消化器外科Ⅰ	1,900,000	補委	日本学術振興会
消化器疾患に対する漢方薬の改善機序の解明	武富 紹信	消化器外科Ⅰ	7,000,000	補委	株式会社ツムラ ツムラ 漢方研究所
死後CT・MRIを用いた薬毒物検査の有用性に関する研究	兵頭 秀樹	放射線診断科	800,000	補委	日本学術振興会
増殖型レトロウイルスを用いた遺伝子治療を応用した膵癌の新規治療戦略	平野 聡	消化器外科Ⅱ	3,800,000	補委	日本学術振興会
GVHDによる腸内フローラ異常の網羅的解析と治療法の開発	豊嶋 崇徳	血液内科	3,100,000	補委	日本学術振興会
骨髄造血と腸内フローラのクロストーク	豊嶋 崇徳	血液内科	16,000,000	補委	日本学術振興会
日本における成人特発性血小板減少性紫斑病（ITP：immune thrombocytopenia）の多施設・前向き疾患登録研究	豊嶋 崇徳	血液内科	184,617	補委	学校法人慶應義塾
全ゲノム解析とCRISP/Cas9を応用した大腸癌肝転移に対する新規治療戦略	本間 重紀	消化器外科Ⅰ	1,200,000	補委	日本学術振興会
非小細胞肺癌における抗癌薬耐性化の克服を目指したヒストン修飾酵素阻害療法の開発	木下 一郎	がん遺伝子診断部	1,100,000	補委	日本学術振興会
糖尿病網膜症における不飽和アルデヒドアクロレインの網膜グリア細胞活性化機構	野田 航介	眼科	1,100,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
治験の実施に関する研究[サリドマイド]	矢部 一郎	神経内科	380,385	補委	公益社団法人日本医師会 治験促進センター
治験の実施に関する研究[ペランパネル]	矢部 一郎	神経内科	384,616	補委	公益社団法人日本医師会 治験促進センター
脳梗塞急性期患者を対象とした自家BMSC脳内投与による再生治療の第1相試験（RAINBOW研究）	寶金 清博	神経細胞治療研究部門	54,146,154	補委	国立研究開発法人 日本 医療研究開発機構
札幌市児童精神科医療提供体制構築・運用に関する共同研究事業	齊藤 卓弥	児童思春期精神医学 研究部門	2,300,000	補委	札幌市
自閉スペクトラム症に対する新規オキシトシン製剤の治験実施と治	齊藤 卓弥	児童思春期精神医学 研究部門	2,320,000	補委	国立大学法人浜松医科大学
「学童・思春期のこころの客観的指標と連携システムの開発	齊藤 卓弥	児童思春期精神医学 研究部門	500,000	補委	国立大学法人 弘前大学
医師主導多施設Phase IIa治験の準備・分担実施・統括	齊藤 卓弥	児童思春期精神医学 研究部門	850,000	補委	国立大学法人浜松医科大学
マルチセンターリサーチによる日中覚醒時ブラキシズムの診断基準確立への挑戦	山口 泰彦	冠橋義歯補綴科	2,900,000	補委	(独) 日本学術振興会
革新的口腔領域用生体材料を目的としたインテリジェントカーボンナノマテリアルの創製	横山 敦郎	義歯補綴科	5,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
低酸素分子イメージングに基づく新しい口腔癌治療戦略の構築	北川 善政	口腔内科	5,900,000	補委	(独) 日本学術振興会
接着性と薬効を両立した革新的歯内療法用材料の創製と臨床応用に向けた橋渡し研究	井上 哲	口腔総合治療部	700,000	補委	(独) 日本学術振興会
カーボンナノ物質修飾による革新的表面構造を有するインプラントの開発	平田 恵理	義歯補綴科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
効率的な抗がん剤治療を目指したPET低酸素分子イメージングと腫瘍血管の対比検討	大賀 則孝	口腔内科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
骨吸収抑制剤の休薬は顎骨壊死発症の予防に有効か？マウスによる検討	鄭 漢忠	口腔外科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
歯牙種発症に関しての研究	菊入 崇	小児・障害者歯科	800,000	補委	(独) 日本学術振興会
複雑な乳歯根管系の制御ー確実な歯根吸収抑制と吸収部修復機構発現の解明ー	八若 保孝	小児・障害者歯科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
高周波電流で細胞の増殖と分化を促進する革新的骨再生療法の開発	菅谷 勉	歯周・歯内療法科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
自律神経活動モニターシステムと精神鎮静法を用いた安心・安全な高齢者歯科治療の確立	下地 伸司	歯周・歯内療法科	800,000	補委	(独) 日本学術振興会
歯髄の治癒促進と硬組織接着性を併せ持つ革新的直接覆髄材の探索研究	佐野 英彦	歯冠修復科	1,500,000	補委	(独) 日本学術振興会
口腔がんの転移に関わる口腔常在菌の解析	大廣 洋一	口腔外科	1,900,000	補委	(独) 日本学術振興会
緑茶カテキンを利用した新規生活歯髄切断材料は作れるかー歯髄作用機構の解析からー	中村 光一	小児・障害者歯科	1,900,000	補委	(独) 日本学術振興会
血管内皮細胞の異常性の獲得に対し低酸素環境が及ぼす影響に関する研究	近藤 美弥子	高齢者歯科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
0-17標識水を用いたMRIと同位体顕微鏡による中枢神経系の水動態の解明	亀田 浩之	歯科放射線科	1,800,000	補委	(独) 日本学術振興会
カーボンナノ物質の生物学的特性を用いた革新的組織修復・骨再生のストラテジーの構築	横山 敦郎	義歯補綴科	1,700,000	補委	(独) 日本学術振興会
エナメル質を保全できる矯正歯科治療ー量子力学・錯体化学・プラズマ物理学的展開ー	山方 秀一	矯正歯科	700,000	補委	(独) 日本学術振興会
突然死の原因となり得る口腔病態の評価ーAutopsy imagingをもとにして	箕輪 和行	歯科放射線科	600,000	補委	(独) 日本学術振興会
「うま味」成分配合の口腔保湿剤を利用した新たな口腔乾燥症対策	岡田 和隆	高齢者歯科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
光殺菌と組織再生効果を併せ持つ新しい歯周病治療用ゲル剤の開発	加藤 昭人	歯周・歯内療法科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
バイオメカニクス的手法による姿勢制御、顎口腔と身体機能の関連性と因果関係の解明	坂口 究	義歯補綴科	2,500,000	補委	(独) 日本学術振興会
幼少期に身体抑制を経験したラットの成長後のストレス反応性亢進を緩和できるか。	吉原 俊博	小児・障害者歯科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
顎口腔疾患の病態形成におけるエピジェネティックな制御機構の解明	浮田 万由美	冠橋義歯補綴科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
MRONJへの多血小板フィブリンによる治療戦略とPETを用いた新規評価法の確立	浅香 卓哉	口腔内科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
ナノポーラスシリカを用いた新規多機能性歯科材料の開発	坂東 洋祐	矯正歯科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
口腔乾燥を有する全部床義歯装着者における義歯安定剤の有効性の検討	山崎 裕	高齢者歯科	720,000	補委	日本歯科薬品株式会社

計304

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Asahina H, Oizumi S, Takamura K, et al.	内科 I	A prospective phase II study of carboplatin and nab-paclitaxel in patients with advanced non-small cell lung cancer and concomitant interstitial lung disease (HOT1302)	Ling Cancer, 2019.12	Original Article
2	Furuta M, Kikuchi H, Shoji T, et al.	内科 I	DLL3 regulates the migration and invasion of small cell lung cancer by modulating Snail	Cancer Sci, 2019.5	Original Article
3	Furuta M, Sakakibara-Konishi J, Kikuchi H, et al.	内科 I	Analysis of DLL3 and ASCL1 in Surgically Resected Small Cell Lung Cancer (HOT1702)	Oncologist, 2019.11	Original Article
4	Goudarzi H, Konno S, Kimura H, et al.	内科 I	Impact of abdominal visceral obesity on adult asthma symptom	J Allergy Clin Immunol Pract, 2019.4	Original Article
5	Mizugaki H, Hamada A, Shibata T, et al.	内科 I	Exploration of germline variants responsible for adverse events of crizotinib in anaplastic lymphoma kinase-positive non-small cell lung cancer by target-gene panel sequencing,	Lung Cancer, 2019.2	Original Article
6	Nagaoka K, Yamashita Y ,Kimura H, et al.	内科 I	Anti-PcrV titers in non-cystic fibrosis with Pseudomonas aeruginosa respiratory tract infection”	Int J Infect Dis, 2019.10	Original Article
7	Nagaoka K, Yamashita Y, Kimura H, et al.	内科 I	Effects of anaerobic culturing on pathogenicity and virulence-related gene-expression in pneumococcal pneumonia	J Infect Dis, 2019.4	Original Article
8	Shoji T, Konno S, Niida Y, et al.	内科 I	Familial multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia with a novel splicing mutation in TSC1: Three cases in one family	PLoS One, 2019.2	Original Article
9	Suzuki M,Makita H, Konno S, et al.	内科 I	Annual change in FEV1 in elderly 10-year survivors with established chronic obstructive pulmonary disease	Sci Rep, 2019.2	Original Article
10	Takashima Y, Kikuchi E, Kikuchi J, et al.	内科 I	Bromodomain and Extraterminal Domain Inhibition Synergizes with WEE1-Inhibitor AZD1775 Effect by Impairing Non-Homologous End Joining and Enhancing DNA Damage in Non-Small Cell Lung Cancer	Int J Cancer, 2020.2	Original Article
11	Takei N, Suzuki M, Makita H, et al.	内科 I	Serum alpha-1 antitrypsin levels and the clinical course of chronic obstructive pulmonary disease	Int J Chron Obstruc Pulmon Dis, 2019.12	Original Article
12	Yamashita Y, Nagaoka K, Kimura H, et al.	内科 I	Efficacy of azithromycin in a mouse pneumonia model against hospital-acquired methicillin-resistant Staphylococcus aureus	Antimicrob Agents Chemother, 2019.8	Original Article
13	Sakakibara J, Kitai H, Ikezawa Y, et al.	内科 I	Response to crizotinib re-administration after progression on lorlatinib in a patient with ALK-rearranged non-small cell lung cancer.	Clin Lung Cancer. 2019 Sep;20(5):e555-e559. doi: 10.1016/j.clcc.2019.06.021. Epub 2019 Jun 26.	Case report
14	Konno S, Matsuno Y, Ichimiya S, et al.	内科 I	Retroperitoneal fibrosis diagnosed as IgG4-related disease after 35 years.	Intern Med 2019 Feb 15;58(4):609-613. doi: 10.2169/internalmedicine.1241-18. Epub 2018 Oct 17.	Case report
15	Shoji T, Konno S, Niida Y, et al.	内科 I	Familial multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia with a novel splicing mutation in TSC1: Three cases in one family.	PLoS One. 2019 Feb 22;14(2):e0212370. doi: 10.1371/journal.pone.0212370. eCollection 2019.	Case report
16	Miyoshi H, Kameda H, Yamashita K, et al.	内科 II	The protective effect of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in patients with rapid renal function decline, stage G3 or G4 chronic kidney disease, and type 2 diabetes.	J Diabetes Investig. 10:1510-1517, 2019	Original Article

17	Nakamura A, Miyoshi H, Ukawa S, et al.	内科Ⅱ	Proinsulin is sensitive to reflect glucose intolerance.	J Diabetes Investig. 2019	Original Article
18	Cho KY, Nakamura A, Omori K, et al.	内科Ⅱ	Effect of switching from pioglitazone to the sodium glucose co-transporter-2 inhibitor dapagliflozin on body weight and metabolism-related factors in patients with type 2 diabetes mellitus: An open-label, prospective, randomized, parallel-group comparison trial.	Diabetes Obes Metab. 21: 710–714, 2019	Original Article
19	Cho KY, Nomoto H, Nakamura A, et al.	内科Ⅱ	Favourable effect of the sodium–glucose co–transporter–2 inhibitor canagliflozin plus the dipeptidyl peptidase–4 inhibitor teneligliptin in combination on glycaemic fluctuation: An open-label, prospective, randomized, parallel-group comparison trial (the CALMER study).	Diabetes Obes Metab. 2019	Original Article
20	Cho KY, Nakamura A, Oba–Yamamoto C, et al.	内科Ⅱ	Switching to Once–Daily Insulin Degludec/Insulin Aspart from Basal Insulin Improves Postprandial Glycemia in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: Randomized Controlled Trial.	Diabetes Metab J. 43: e66, 2019	Original Article
21	Kameda H, Yamamoto M, Tone Y, et al.	内科Ⅱ	Proton Sensitivity of Corticotropin–Releasing Hormone Receptor 1 Signaling to Proopiomelanocortin in Male Mice.	Endocrinology. 160: 276–291, 2019	Original Article
22	Nomoto H, Kameda H, Nakamura A, et al.	内科Ⅱ	Breakdown of autonomously functioning thyroid nodule accompanied by acromegaly after octreotide treatment.	Front Endocrinol. 10: 131, 2019.	Case report
23	Montemurro C*, Nomoto H*, Pei L*, et al. (*: joint first authors)	内科Ⅱ	IAPP toxicity activates HIF1 $\alpha$ /PFKFB3 signaling delaying $\beta$ –cell loss at the expense of $\beta$ –cell function.	Nat Commun. 10: 2679, 2019.	Original Article
24	Nomoto H, Pei L, Montemurro C, et al.	内科Ⅱ	Activation of the HIF1 $\alpha$ /PFKFB3 stress response pathway in beta-cells in type 1 diabetes.	Diabetologia. Epub ahead of print, 2019.	Original Article
25	Nomoto H, Gurlo T, Girgis M, et al.	内科Ⅱ	Low Grade Islet but Marked Exocrine Pancreas Inflammation in an Adult with Autoimmune Pre–Diabetes.	Case Rep Endocrinol. 2019	Case report
26	Miya A, Nakamura A, Kameda H, et al.	内科Ⅱ	Gitelman’s syndrome with hyperphosphatemia, effectively responding to single oral magnesium oxide administration: A case report.	Medicine (Baltimore). 98: 28, 2019	Case report
27	Takahashi K, Cho KY, Nakamura A, et al.	内科Ⅱ	Should sulfonylurea be discontinued or maintained at the lowest dose when starting ipragliflozin? A multicentre observational study in Japanese patients with type 2 diabetes.	J Diabetes Invest. 10:429–438, 2019	Original Article
28	Takase T, Nakamura A, Yamamoto C, et al.	内科Ⅱ	Improvement in treatment satisfaction after switching from liraglutide to dulaglutide in patients with type 2 diabetes: a randomized controlled trial.	J Diabetes Invest. 10:699–705, 2019	Original Article
29	Omori K, Nakamura A, Miyoshi H, et al.	内科Ⅱ	Effects of dapagliflozin and/or insulin glargine on beta cell mass and hepatic steatosis in db/db mice.	Metabolism. 98: 27–36, 2019	Original Article
30	Omori K, Nomoto H, Nakamura A, et al.	内科Ⅱ	Reduction in Glucose Fluctuations in Elderly Patients With Type 2 Diabetes Using Repaglinide: A Randomized Controlled Trial of Repaglinide vs Sulfonylurea	J Diabetes Investig. 10: 367–374, 2019	Original Article
31	Shibayama Y, Kameda H, Ota S, et al.	内科Ⅱ	Case of fulminant type 1 diabetes induced by the anti–programmed death–ligand 1 antibody, avelumab.	J Diabetes Investig. 10: 1385–1387, 2019.	Case report
32	Sekizaki T, Kameda H, Oba C, et al.	内科Ⅱ	Nivolumab–induced hypophysitis causing secondary adrenal insufficiency after transient ACTH elevation.	Endocr J. 66: 937–941, 2019.	Case report
33	Yamauchi Y, Nakamura A, Takahashi K, et al.	内科Ⅱ	Factors with remission of fatty liver in patients with type 2 diabetes treated with ipragliflozin.	Endocr J. 66: 995–1000, 2019.	Original Article
34	Yasuda S.	内科Ⅱ	Emerging targets for the treatment of lupus erythematosus: There is no royal road to treating lupus.	Mod Rheumatol. 29(1): 60–69.2019	Review



35	Noguchi A, Yasuda S, Hisada R, et al.	内科Ⅱ	Anti-cyclic citrullinated peptide antibody titers decrease in rheumatoid arthritis patients treated with tocilizumab: A pilot study.	Mod Rheumatol. 21:1–6, 2019	Original Article
36	Lee WS, Amengual O.	内科Ⅱ	Cells targeting therapy in the management of systemic lupus erythematosus.	Immun Med.	Review
37	Oku K, Atsumi T.	内科Ⅱ	Rheumatology practice in Japan: challenges and opportunity.	Rheumatol Int. 39(9): 1499–1505, 2019	Review
38	Kato M, Hisada R, Atsumi T.	内科Ⅱ	Clinical profiles and risk assessment in patients with antiphospholipid antibodies.	Exp Rev Clin Immunol. 15(1): 73–81, 2019.	Review
39	Kato M, Kaneko Y, Tanaka Y, et al.	内科Ⅱ	Predictive value of serum amyloid A levels for requirement of concomitant methotrexate in tocilizumab initiation: A post-hoc analysis of the SURPRISE study.	Mod Rheumatol.	Original Article
40	Kato K, Yasojima N, Tamura K, et al.	内科Ⅱ	Detection of fine radiographic progression in finger joint space narrowing beyond human eyes: phantom experiment and clinical study with rheumatoid arthritis patients.	Sci Rep. Jun 12;9(1): 8526, 2019.	Original Article
41	Fujieda Y, Mader S, Jeganathan V, et al.	内科Ⅱ	Clinical significance of anti-DNA/N-methyl-D-aspartate receptor 2 antibodies in de novo and post-steroid neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Int J Rheum Dis. 22(3): 443–448, 2019	Original Article
42	Fujieda Y, Atsumi T.	内科Ⅱ	Has lupus anticoagulant testing had its day?	Nat Rev Rheumatol. 15(6): 324–325, 2019	Review
43	Kono Michihito, Maeda K, Stockton IG, et al.	内科Ⅱ	Pyruvate kinase M2 is requisite for Th1 and Th17 differentiation,	JCI Insight. 4(12). pii: 127395, 2019	Original Article
44	Kono Michihito, Yoshida N, Maeda K, et al.	内科Ⅱ	Glutaminase 1 Inhibition Reduces Glycolysis and Ameliorates Lupus-like Disease in MRL/lpr Mice and Experimental Autoimmune Encephalomyelitis.	Arthritis Rheumatol. 71(11): 1869–1878, 2019.	Original Article
45	Kono Michihito, Yoshida N and Tsokos GC.	内科Ⅱ	Metabolic control of T cells in autoimmunity.	Curr Opin Rheumatol.	Review
46	Ohmura K, Oku K, Kitaori T, et al.	内科Ⅱ	Pathogenic roles of anti-C1q antibodies in recurrent pregnancy loss.	Clin Immunol. 203: 37–44, 2019.	Original Article
47	Hisada R, Kato M, Sugawara E, et al.	内科Ⅱ	Circulating plasmablasts contribute to antiphospholipid antibody production, associated with type I interferon upregulation.	J Thromb Haemost. 17(7): 1134–1143, 2019.	Original Article
48	Hisada R, Kato M, Ohnishi N, et al.	内科Ⅱ	Antiphospholipid score is a novel risk factor for idiopathic osteonecrosis of the femoral head in patients with systemic lupus erythematosus.	Rheumatology (Oxford). 58(4): 645–649, 2019.	Original Article
49	Sugawara E, Kato M, Kudo Y, et al.	内科Ⅱ	Autophagy promotes citrullination of VIM (vimentin) and its interaction with major histocompatibility complex class II in synovial fibroblasts.	Autophagy.	Original Article
50	Sugawara E, Kato M, Fujieda Y, et al.	内科Ⅱ	Pregnancy outcomes in women with rheumatic diseases –a real-world observational study in Japan–.	Lupus. 28(12):1407–1416, 2019.	Original Article
51	Nakamura H, Fujieda Y, Tarumi M, et al.	内科Ⅱ	Calcineurin Inhibitors for Adult-Onset Still’s Disease: A Multi-Center Epidemiological Study.	Clin Exp Rheumatol. 2020 Feb 19.	Original Article
52	Wada H, Shibata Y, Abe Y, et al.	内科Ⅱ	Flow cytometric identification and cell-line establishment of macrophages in naked mole-rats.	Sci Rep. 29; 9(1): 17981, 2019	Original Article
53	Ohnishi N, Fujieda Y, Hisada R, et al.	内科Ⅱ	Efficacy of dual antiplatelet therapy for preventing recurrence of arterial thrombosis in patients with antiphospholipid syndrome.	Rheumatology (Oxford). 58 (6): 969–974, 2019	Original Article

54	Abe N, Fujieda Y, Nagaoka K, et al.	内科Ⅱ	Disseminated cryptococcosis with bronchiolitis and cellulitis.	Am J Respir Crit Care Med. 199(2): 235–236, 2019	Case report
55	Abe N, Kato M, Fujieda Y, et al.	内科Ⅱ	Tumour necrosis factor alpha blockade for non-inflammatory pain: beyond inflammation?	Scand J Rheumatol. 1–3, 2019.	Case report
56	Abe N, Fujieda Y, Amengual O, et al.	内科Ⅱ	Disseminated subcutaneous nodules and destructive polyarthritis.	BMJ. 365: 11344, 2019.	Review
57	Abe N, Kato M, Kono M, et al.	内科Ⅱ	Right ventricular dimension index by cardiac magnetic resonance for prognostication in connective tissue diseases and pulmonary hypertension.	Rheumatology (Oxford).	Original Article
58	Karino K, Kono M, Kono M, et al.	内科Ⅱ	Myofascia-dominant involvement on whole-body MRI as a risk factor for rapidly progressive interstitial lung disease in dermatomyositis.	Rheumatology (Oxford).	Original Article
59	Ninagawa K, Kato M, Nakamura H, et al.	内科Ⅱ	Reduced Diffusing Capacity for Carbon Monoxide Predicts Borderline Pulmonary Arterial Pressure in Patients with Systemic Sclerosis.	Rheumatol Int. 39(11): 1883–1887, 2019	Original Article
60	Sato T, Nakamura H, Fujieda Y, et al.	内科Ⅱ	Factor Xa inhibitors for preventing recurrent thrombosis in patients with antiphospholipid syndrome: A longitudinal cohort study.	Lupus.;28(13): 1577–1582, 2019	Original Article
61	Hattanda F, Nakazawa D, Watanabe-Kusunoki K, et al.	内科Ⅱ	The presence of anti-neutrophil extracellular trap antibody in patients with microscopic polyangiitis.	Rheumatology. 58(97): 1293–1298, 2019	Original Article
62	Nakazawa D, Masuda S, Tomaru U, et al.	内科Ⅱ	Pathogenesis and therapeutic interventions for ANCA-associated vasculitis.	Nat Rev Rheumatol. 15(2): 91–101, 2019	Review
63	Takeda S, Watanabe-Kusunoki K, Nakazawa D, et al.	内科Ⅱ	The pathogenicity of BPI-ANCA in a patient with systemic vasculitis.	Front Immunol, 10: 1334, 2019	Case report
64	Watanabe-Kusunoki K, Abe N, Nakazawa D, et al.	内科Ⅱ	A case report dysregulated neutrophil extracellular traps in a patient with propylthiouracil-induced anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis.	Medicine. 98(17), e15328, 2019	Case report
65	Yamamoto J, Nakazawa D, Nishio S, et al.	内科Ⅱ	Impact of weekly teriparatide on the bone and mineral metabolism in hemodialysis patients with relatively low serum parathyroid hormone: a pilot study.	Ther Apher Dial.	Original Article
66	Watanabe-Kusunoki K, Nakazawa D, Kusunoki Y, et al.	内科Ⅱ	Recombinant thrombomodulin ameliorates autoimmune vasculitis via immune response regulation and tissue injury protection.	J Autoimmunity.	Original Article
67	Suda G	消化器内科	The Successful Retreatment with Glecaprevir and Pibrentasvir of Genotype 1 or 2 HCV-infected Hemodialysis Patients who Failed to Respond to NS5A and Protease Inhibitor Treatment: A Case Report.	Intern Med. 2019 Apr 1;58(7):943–947.	Case report
68	Suda G	消化器内科	Safety and efficacy of glecaprevir and pibrentasvir in Japanese hemodialysis patients with genotype 2 hepatitis C virus infection.	J Gastroenterol. 2019 Jul;54(7):641–649.	Original Article
69	Sho T	消化器内科	Early Response and Safety of Lenvatinib for Patients With Advanced Hepatocellular Carcinoma in a Real-World Setting	JGH Open. 2019 Jun 10;4(1):54–60.	Original Article
70	Kobayashi T	消化器内科	Quantifying Protein-Specific N-Glycome Profiles by Focused Protein and Immunoprecipitation Glycomics.	J Proteome Res. 2019 Aug 2;18(8):3133–3141.	Original Article
71	Izumi T	消化器内科	Assessing the risk of hepatocellular carcinoma by combining liver stiffness and the controlled attenuation parameter.	Hepatol Res. 2019 Oct;49(10):1207–1217.	Original Article
72	Suda G	消化器内科	Effects of resistance-associated variants in genotype 2 hepatitis C virus on viral replication and susceptibility to antihepatitis C virus drugs.	Hepatol Res. 2019 Nov;49(11):1275–1285.	Original Article

73	Suzuki K	消化器内科	Entecavir treatment of hepatitis B virus-infected patients with severe renal impairment and those on hemodialysis.	Hepatol Res. 2019 Nov;49(11):1294–1304.	Original Article
74	Hanamatsu H	消化器内科	Comparative Glycomic Analysis of Sialyl Linkage Isomers by Sialic Acid Linkage-Specific Alkylamidation in Combination with Stable Isotope Labeling of $\alpha$ 2,3-Linked Sialic Acid Residues.	Anal Chem. 2019 Nov 5;91(21):13343–13348.	Original Article
75	Ogawa K	消化器内科	Tri-antennary tri-sialylated mono-fucosylated glycan of alpha-1 antitrypsin as a non-invasive biomarker for non-alcoholic steatohepatitis: a novel glycobiomarker for non-alcoholic steatohepatitis.	Sci Rep. 2020 Jan 15;10(1):321. doi: 10.	Original Article
76	Kawagishi N	消化器内科	High serum angiopoietin-2 level predicts non-regression of liver stiffness measurement-based liver fibrosis stage after direct-acting antiviral therapy for hepatitis C.	Hepatol Res. 2020 Jun;50(6):671–681	Original Article
77	Kitagataya T	消化器内科	Prevalence, clinical course, and predictive factors of immune checkpoint inhibitor monotherapy-associated hepatitis in Japan.	J Gastroenterol Hepatol. 2020 Mar 18. doi: 10.1111/jgh.15041.	Original Article
78	Sugiura R, Kuwatani M, Hirata K, et al.	消化器内科	Synchronous multiple pancreatic cancers developed long after severe postendoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis.	Endosc Ultrasound. 2019 May–Jun;8(3):213–214. doi: 10.4103/eus.eus_67_18.	Case report
79	Satoshi Yuki	消化器内科	Multicenter phase II study of SOX plus trastuzumab for patients with HER2+ metastatic or recurrent gastric cancer: KSCC/HGCSG/CCOG/PerSeUS 1501B.	Cancer Chemother Pharmacol. 2020 Jan;85(1):217–223	Original Article
80	Kinoshita K, Katsurada T, Nishida M, et al.	消化器内科	Usefulness of transabdominal ultrasonography for assessing ulcerative colitis: a prospective, multicenter study.	J Gastroenterol. 2019 Jun;54(6):521–529.	Original Article
81	Otagiri S, Sugiura R, Katsurada T, et al.	消化器内科	Gastrointestinal: Endoscopic balloon dilations for an intestinal stricture in a patient with X-linked inhibitor of apoptosis deficiency	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Nov;34(11):1895.	Case report
82	Shoko Ono , Yuji Ono , Naoya Sakamoto .	消化器内科	Spraying l-menthol enhances gastric intestinal metaplasia in linked color imaging. Dig Endosc. 2019;31(3):e70–e71.	Dig Endosc . 2019 May;31(3):e70–e71. doi: 10.1111/den.13362.	Case report
83	Shoko Ono , Marin Ishikawa , Kana Matsuda , et al.	消化器内科	Clinical impact of the perioperative management of oral anticoagulants in bleeding after colonic endoscopic mucosal resection.	BMC Gastroenterol . 2019 Dec 2;19(1):206. doi: 10.1186/s12876–019–1124–8.	Original Article
84	Shoko Ono , Osamu Dohi , Nobuaki Yagi , et al.	消化器内科	. Accuracies of Endoscopic Diagnosis of Helicobacter pylori–Gastritis: Multicenter Prospective Study Using White Light Imaging and Linked Color Imaging.	Digestion . 2019 Jul 23;1–7. doi: 10.1159/000501634.	Original Article
85	Kana Matsuda , Shoko Ono , Ikko Tanaka , et al.	消化器内科	Histological and magnified endoscopic evaluation of villous atrophy in gastrointestinal graft-versus-host disease	Ann Hematol . 2020 May;99(5):1121–1128. doi: 10.1007/s00277–020–03966–y.	Original Article
86	Momoko Tsuda , Mototsugu Kato , Shoko Ono , et al.	消化器内科	Changes of Dyspeptic Symptom after Successful Eradication in Helicobacter pylori–Associated Dyspepsia	Digestion . 2020;101(2):165–173.	Original Article
87	Masatsugu Ohara, Goki Suda, Megumi Kimura, et al.	消化器内科	Analysis of the Optimal Psoas Muscle Mass Index Cut-Off Values, as Measured by Computed Tomography, for the Diagnosis of Loss of Skeletal Muscle Mass in Japanese People	Hepatol Res•2020	Original Article
88	Matsuda K, Ono S, Tanaka I, et al.	消化器内科	Histological and magnified endoscopic evaluation of villous atrophy in gastrointestinal graft-versus-host disease.	Ann Hematol. 2020 May;99(5):1121–1128. (Epub 2020 Mar 4.)	Original Article
89	Yamamoto K, Ohnishi S, Mizushima T, et al.	消化器内科	Detection of early adenocarcinoma of the esophagogastric junction byspraying an enzyme-activatable fluorescent probe targeting Dipeptidyl peptidase-IV.	BMC Cancer. 2020; 20(1): 64.	Original Article
90	Hirata K, Kuwatani M, Mitsuhashi T, et al.	消化器内科	Mixed ductal-neuroendocrine carcinoma with unique intraductal growth in the main pancreatic duct.	Endosc Ultrasound. 2019 Mar–Apr;8(2):129–130. doi: 10.4103/eus.eus_12_18.	Case report
91	Chuma M, Toyoda H, Matsuzaki J, et al.	消化器内科	Circulating microRNA-1246 as a possible biomarker for early tumor recurrence of hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 2019 Mar 28;49(7):810–822. doi: 10.1111/hepr.13338. Epub 2019 May 23.	Original Article

92	Hirata K, Kuwatani M, Suda G, et al.	消化器内科・光学医療診療部	A Novel Approach for the Genetic Analysis of Biliary Tract Cancer Specimens Obtained Through Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration Using Targeted Amplicon Sequencing.	Clin Transl Gastroenterol; 10:e00022, 2019.	Original Article
93	Sugiura R, Kuwatani M, Hirata K, et al.	消化器内科・光学医療診療部	Synchronous multiple pancreatic cancers developed long after severe postendoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis.	Endosc Ultrasound; 8:213-214, 2019	Case report
94	Sugiura R, Kuwatani M, Yane K, et al.	消化器内科・光学医療診療部	Prospective, multicenter, observational study of tissue acquisition through EUS-guided fine-needle biopsy using a 25G Franseen needle.	Endosc Ultrasound; 8:321-328, 2019	Original Article
95	Sugiura R, Kuwatani M, Hirata K, et al.	消化器内科・光学医療診療部	Effect of Pancreatic Mass Size on Clinical Outcomes of Endoscopic Ultrasound-Guided Fine-Needle Aspiration.	Dig Dis Sci; 64:2006-2013, 2019.	Original Article
96	Kato S, Kuwatani M, Kawakubo K, et al.	消化器内科・光学医療診療部	Short- and long-term outcomes of a novel transpapillary dilation technique using a diathermic dilator for severe benign bile duct stricture.	Dig Endosc; 31:448-452, 2019	Case report
97	Yane K, Kuwatani M, Yoshida M, et al.	光学医療診療部	Non-negligible rate of needle tract seeding after endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for patients undergoing distal pancreatectomy for pancreatic cancer.	Dig Endosc. 2019 Dec 26.	Original Article
98	Kimura Y, Nakamura T, Hayashi T, et al.	光学医療診療部	Clinical usefulness of conversion surgery for unresectable pancreatic cancer diagnosed on multidetector computed tomography imaging: Results from a multicenter observational cohort study by the Hokkaido Pancreatic Cancer Study Group (HOPS UR-01).	Ann Gastroenterol Surg; 3:523-533, 2019	Original Article
99	Kuwatani M, Nakamura T, Hayashi T, et al.	光学医療診療部	Clinical Outcomes of Biliary Drainage during a Neoadjuvant Therapy for Pancreatic Cancer: Metal versus Plastic Stents.	Gut Liver; 15:14:269-273, 2020	Others
100	Kuwatani M, Kawakami H, Kubota Y, et al.	光学医療診療部	Verification of the effectiveness of fucosylated haptoglobin as a pancreatic cancer marker in clinical diagnosis.	Pancreatology; 19:569-577, 2019.	Original Article
101	Tsujinaga S,Iwano H,Sarashina M, et al.	循環器内科	Diastolic Intra-Left Ventricular Pressure Difference During Exercise: Strong Determinant and Predictor of Exercise Capacity in Patients With Heart Failure.	J Card Fail . 2019 Apr;25(4):268-277. doi: 10.1016/j.cardfail.2019.02.005. Epub 2019 Feb 10.	Original Article
102	Nakao K,Yasuda S,Nishimura K, et al.	循環器内科	Prescription Rates of Guideline-Directed Medications Are Associated With In-Hospital Mortality Among Japanese Patients With Acute Myocardial Infarction: A Report From JROAD - DPC Study.	J Am Heart Assoc . 2019 Apr 2;8(7):e009692. doi: 10.1161/JAHA.118.009692.	Original Article
103	Chinen D,Nagai T,Uemura K, et al.	循環器内科	Clinical Usefulness of an Echo-Doppler Model in Predicting Elevated Pulmonary Capillary Wedge Pressure in Patients With Heart Failure.	Am J Cardiol . 2019 May 1;123(9):1464-1469. doi: 10.1016/j.amjcard.2019.01.053. Epub 2019 Feb 11.	Original Article
104	Nagai T,Anzai T	循環器内科	Atrial Fibrillation Does Not Matter in Japanese Ventricular Assist Device Patients? - Half-Way Up the Hill.	Circ J . 2019 May 24;83(6):1202-1203. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0335. Epub 2019 Apr 26.	Original Article
105	Yagyu T,Yasuda S,Nagaya N, et al.	循環器内科	Long-Term Results of Intracardiac Mesenchymal Stem Cell Transplantation in Patients With Cardiomyopathy.	Circ J . 2019 Jun 25;83(7):1590-1599. doi: 10.1253/circj.CJ-18-1179. Epub 2019 May 17.	Original Article
106	Hamatani Y,Nakai E,Nakamura E, et al.	循環器内科	Survey of Palliative Sedation at End of Life in Terminally Ill Heart Failure Patients - A Single-Center Experience of 5-Year Follow-up.	Circ J . 2019 Jun 25;83(7):1607-1611. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0125. Epub 2019 Jun 5.	Original Article
107	Manabe O,Oyama-Manabe N,Nagai T, et al.	循環器内科	Detailed visualization of the right and left ventricular, left atrial, and epicardial involvement of cardiac sarcoidosis with novel semiconductor PET/CT.	Eur J Nucl Med Mol Imaging . 2020 Jul;47(7):1773-1774. doi: 10.1007/s00259-019-04577-0. Epub 2019 Nov 12	Original Article
108	Aikawa T,Nagai T,Anzai T	循環器内科	Serum potassium and glucose levels, and mortality in acute myocardial infarction; fact or myth?	Int J Cardiol . 2019 Jul 15;287:50-52. doi: 10.1016/j.ijcard.2019.04.013. Epub 2019 Apr 8	Letter
109	Takashio Seiji, Takahama Hiroyuki, Nishikimi Toshio, et al.	循環器内科	Superiority of proatrial natriuretic peptide in the prognostic power in patients with acute decompensated heart failure on hospital admission: comparison with B-type natriuretic peptide and other natriuretic peptide forms.	Open Heart . 2019 Jul 29;6(2):e001072. doi: 10.1136/openhrt-2019-001072. eCollection 2019.	Original Article
110	Sato Y,Yoshihisa A,Oikawa M, et al.	循環器内科	Prognostic Impact of Worsening Renal Function in Hospitalized Heart Failure Patients With Preserved Ejection Fraction: A Report From the JASPER Registry.	J Card Fail . 2019 Aug;25(8):631-642. doi: 10.1016/j.cardfail.2019.04.009. Epub 2019 Apr 18.	Original Article

111	Sato T,Azarbal B,Cheng R, et al.	循環器内科	Does ex vivo perfusion lead to more or less intimal thickening in the first-year post-heart transplantation?	Clin Transplant . 2019 Aug;33(8):e13648. doi: 10.1111/ctr.13648. Epub 2019 Jul 11.	Original Article
112	Nishino H, Iwano H,Kaga S, et al.	循環器内科	Clinical significance of end-diastolic opening of pulmonary valve in a case complicating left ventricular systolic dysfunction.	J Echocardiogr . 2019 Aug 3. doi: 10.1007/s12574-019-00438-9. Online ahead of print.	Original Article
113	Chiba Y,Kamiya K,Aikawa T, et al.	循環器内科	Abnormal FDG uptake predicting the instability of thoracic aortic aneurysms.	J Nucl Cardiol . 2019 Aug 27. doi: 10.1007/s12350-019-01871-0. Online ahead of print.	Case report
114	Komoriyama H,Fukushima A,Takahashi Y, et al.	循環器内科	Rapidly Progressive Heart Failure in a Female Carrier of Becker Muscular Dystrophy with No Skeletal Muscle Symptoms.	Intern Med . 2019 Sep 1;58(17):2545-2549. doi: 10.2169/internalmedicine.2714-19. Epub 2019 May 22	Case report
115	Takahashi Y,Iwano H,Nakano I, et al.	循環器内科	POEMS Syndrome Showing Left Ventricular Dysfunction and Extracellular Edema Assessed by Cardiac Magnetic Resonance Imaging.	Intern Med . 2019 Sep 1;58(17):2539-2543. doi: 10.2169/internalmedicine.2842-19. Epub 2019 May 22	Case report
116	Murayama M,Iwano H,Tsujinaga S, et al.	循環器内科	Tricuspid regurgitation occurring in the early-diastolic phase in a case of heart failure: Insights from echocardiographic and invasive hemodynamic findings.	Echocardiography . 2019 Sep;36(9):1771-1775. doi: 10.1111/echo.14458. Epub 2019 Aug 19.	Original Article
117	Takahama H,Nishikimi T,Takashio S, et al.	循環器内科	Change in the NT-proBNP/Mature BNP Molar Ratio Precedes Worsening Renal Function in Patients With Acute Heart Failure: A Novel Predictor Candidate for Cardiorenal Syndrome.	J Am Heart Assoc . 2019 Sep 3;8(17):e011468. doi: 10.1161/JAHA.118.011468. Epub 2019 Aug 23.	Original Article
118	Nakano I,Hori H,Fukushima A, et al.	循環器内科	Enhanced Echo Intensity of Skeletal Muscle Is Associated With Exercise Intolerance in Patients With Heart Failure.	J Card Fail . 2019 Sep 15;S1071-9164(19)30416-6. doi: 10.1016/j.cardfail.2019.09.001. Online ahead of print.	Original Article
119	Tsutsui H,Isobe M,Ito H, et al.	循環器内科	JCS 2017/JHFS 2017 Guideline on Diagnosis and Treatment of Acute and Chronic Heart Failure – Digest Version.	Circ J . 2019 Sep 25;83(10):2084-2184. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0342. Epub 2019 Sep 10.	Original Article
120	Murayama M,Okada K,Kaga S, et al.	循環器内科	Simple and noninvasive method to estimate right ventricular operating stiffness based on echocardiographic pulmonary regurgitant velocity and tricuspid annular plane movement measurements during atrial contraction.	Int J Cardiovasc Imaging . 2019 Oct;35(10):1871-1880. doi: 10.1007/s10554-019-01637-2. Epub 2019 Jun 5	Original Article
121	Aikawa T,Koyanagawa K,Oyama-Manabe N, et al.	循環器内科	Cardiac sarcoidosis mimicking myocardial infarction: a comprehensive evaluation using computed tomography and positron emission tomography.	J Nucl Cardiol . 2020 Jun;27(3):1066-1067. doi: 10.1007/s12350-019-01692-1. Epub 2019 Mar 25.	Original Article
122	Takada Y,Hamatani Y,Kawano Y, et al.	循環器内科	Development and validation of support tools for advance care planning in patients with chronic heart failure.	Int J Palliat Nurs . 2019 Oct 2;25(10):494-502. doi: 10.12968/ijpn.2019.25.10.494.	Original Article
123	Koyanagawa K,Naya M,Aikawa T, et al.	循環器内科	The rate of myocardial perfusion recovery after steroid therapy and its implication for cardiac events in cardiac sarcoidosis and primarily preserved left ventricular ejection fraction.	J Nucl Cardiol . 2019 Oct 11. doi: 10.1007/s12350-019-01916-4. Online ahead of print.	Original Article
124	Shirakawa R,Yokota T,Nakajima T, et al.	循環器内科	Mitochondrial reactive oxygen species generation in blood cells is associated with disease severity and exercise intolerance in heart failure patients.	Sci Rep . 2019 Oct 11;9(1):14709. doi: 10.1038/s41598-019-51298-3.	Original Article
125	Terasaki F,Azuma A,Anzai T, et al.	循環器内科	JCS 2016 Guideline on Diagnosis and Treatment of Cardiac Sarcoidosis – Digest Version.	Circ J . 2019 Oct 25;83(11):2329-2388. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0508. Epub 2019 Oct 9.	Original Article
126	Yamaguchi T,Nakai M,Sumita Y, et al.	循環器内科	Sex differences in Japanese patients with ruptured aortic aneurysms.	J Vasc Surg . 2020 Jun;71(6):1907-1912.e3. doi: 10.1016/j.jvs.2019.07.098. Epub 2019 Oct 30.	Original Article
127	Furuya S,Naya M,Manabe O, et al.	循環器内科	18F-FMISO PET/CT detects hypoxic lesions of cardiac and extra-cardiac involvement in patients with sarcoidosis.	J Nucl Cardiol . 2019 Dec 9. doi: 10.1007/s12350-019-01976-6. Online ahead of print.	Original Article
128	Aikawa T,Naya M,Koyanagawa K, et al.	循環器内科	Improved regional myocardial blood flow and flow reserve after coronary revascularization as assessed by serial 15O-water positron emission tomography/computed tomography.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging . 2020 Jan 1;21(1):36-46. doi: 10.1093/ehjci/jez220.	Original Article
129	Hamatani Y,Takada Y,Miyamoto Y, et al.	循環器内科	Development and Practical Test of Quality Indicators for Palliative Care in Patients With Chronic Heart Failure.	Circ J . 2020 Mar 25;84(4):584-591. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0225. Epub 2020 Jan 25.	Original Article

130	Iwakami N,Nagai T,Furukawa T A, et al.	循環器内科	Optimal Sampling in Derivation Studies was Associated with Improved Discrimination in External Validation for Heart Failure Prognostic Models.	J Clin Epidemiol . 2020 May;121:71–80. doi: 10.1016/j.jclinepi.2020.01.011. Epub 2020 Jan 29.	Original Article
131	Funabashi S,Omote K,Nagai T, et al.	循環器内科	Elevated admission urinary N-acetyl- $\beta$ -D-glucosamidase level is associated with worse long-term clinical outcomes in patients with acute heart failure.	Eur Heart J Acute Cardiovasc Care . 2020 Jan 28;2048872620901986. doi: 10.1177/2048872620901986. Online ahead of print.	Original Article
132	Temma T,Nagai T,Watanabe M, et al.	循環器内科	Differential Prognostic Impact of Atrial Fibrillation in Hospitalized Heart Failure Patients With Preserved Ejection Fraction According to Coronary Artery Disease Status – Report From the Japanese Nationwide Multicenter Registry	Circ J . 2020 Feb 25;84(3):397–403. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0963. Epub 2020 Feb 1.	Original Article
133	Kawaguchi J,Hamatani Y,Hirayama A, et al.	循環器内科	Experience of morphine therapy for refractory dyspnea as palliative care in advanced heart failure patients.	J Cardiol . 2020 Jun;75(6):682–688. doi: 10.1016/j.jjcc.2019.12.015. Epub 2020 Feb 12.	Original Article
134	Chiba Yasuyuki, Fukushima Arata, Nakao Motoki, et al.	循環器内科	Refractory Right Ventricular Failure in a Patient with Emery–Dreifuss Muscular Dystrophy.	Intern Med . 2020 May 15;59(10):1277–1281. doi: 10.2169/internalmedicine.4113–19. Epub 2020 Feb 19	Case report
135	Obata Y,Ishimori N,Saito A, et al.	循環器内科	Activation of invariant natural killer T cells by alpha-galactosylceramide ameliorates doxorubicin-induced cardiotoxicity in mice.	Eur J Prev Cardiol . 2020 Mar 2;2047487319901208. doi: 10.1177/2047487319901208. Online ahead of print	Letter
136	Iwano H,Yokoyama S,Kamiya K, et al.	循環器内科	Significance and prognostic impact of v wave on pulmonary artery pressure in patients with heart failure: beyond the wedge pressure.	Heart Vessels . 2020 Aug;35(8):1079–1086. doi: 10.1007/s00380–020–01580–6. Epub 2020 Mar 11.	Original Article
137	Mizuno A,Miyashita M,Kohno T, et al.	循環器内科	Quality indicators of palliative care for acute cardiovascular diseases.	J Cardiol . 2020 Mar 18;S0914–5087(20)30066–6. doi: 10.1016/j.jjcc.2020.02.010. Online ahead of print	Original Article
138	Oikawa Masayoshi, Yoshihisa Akiomi, Sato Yu, et al.	循環器内科	Prognostic impact of moderate mitral regurgitation on hospitalized heart failure patients with preserved ejection fraction: A report from the JASPER registry.	Heart Vessels . 2020 Aug;35(8):1087–1094. doi: 10.1007/s00380–020–01581–5. Epub 2020 Mar 19.	Original Article
139	Yamanashi K,Kinugawa S,Fukushima A, et al.	循環器内科	Branched-chain amino acid supplementation ameliorates angiotensin II-induced skeletal muscle atrophy.	Life Sci . 2020 Jun 1;250:117593. doi: 10.1016/j.lfs.2020.117593. Epub 2020 Mar 28.	Original Article
140	Aikawa T, Kamiya K, Mitsuhashi T, et al.	循環器内科	Endomyocardial fibrosis presenting as apical calcification and infective endocarditis.	Eur Heart J. 2019 Mar 21;40(12):1016. doi: 10.1093/eurheartj/ehz051.	Case report
141	Takahashi Y, Iwano H, Nakano I, et al.	循環器内科	POEMS Syndrome Showing showing left ventricular dysfunction and extracellular edema assessed by cardiac magnetic resonance imaging.	Intern Med. 2019 Sep 1;58(17):2539–2543. doi: 10.2169/internalmedicine.2842–19. Epub 2019 May 22.	Case report
142	Shiratori S, Ohigashi H, Takahashi S, et al.	血液内科	Reduced dose of MTX for GVHD prophylaxis promotes engraftment and decreases non-relapse mortality in umbilical cord blood transplantation.	Ann Hematol. 2020 Mar;99(3):591–598.	Original Article
143	Yokoyama E, Hashimoto D, Hayase E, et al.	血液内科	Short-term KRP203 and posttransplant cyclophosphamide for graft-versus-host disease prophylaxis.	Bone Marrow Transplant. 2020 Apr;55(4):787–795. (Epub 2019 Nov 4.)	Original Article
144	Ogasawara R, Hashimoto D, Sugita J, et al.	血液内科	Loss of nivolumab binding to T cell PD–1 predicts relapse of Hodgkin lymphoma.	Int J Hematol. 2020 Mar;111(3):475–479.	Case report
145	Senjo H, Hashimoto D.	血液内科	Unusual computed tomography findings of acute eosinophilic pneumonia after cord blood transplantation.	Int J Hematol. 2019 Oct;110(4):387–388.	Case report
146	Matsuoka S, Hashimoto D, Kadowaki M, et al.	血液内科	Myeloid differentiation factor 88 signaling in donor T cells accelerates graft-versus-host disease.	Haematologica. 2020 Jan;105(1):226–234.	Original Article
147	Ohigashi H, Hashimoto D, Hayase E, et al.	血液内科	Ocular instillation of vitamin A-coupled liposomes containing HSP47 siRNA ameliorates dry eye syndrome in chronic GVHD.	Blood Adv. 2019 Apr 9;3(7):1003–1010.	Original Article
148	Hajime Senjo	血液内科	High metabolic heterogeneity on baseline 18FDG–PET/CT scan as a poor prognostic factor of newly diagnosed diffuse large B-cell lymphoma	Blood advances (2020 May)	Original Article

149	Hashiguchi J (DC3), Onozawa M, Okada K, et al.	血液内科	Quantitative detection of IKZF1 deletion by digital PCR in patients with acute lymphoblastic leukemia.	Int J Lab Hematol. 2019 Apr;41(2):e38–e40.	Original Article
150	Kondo T, Fujioka M, Fujisawa S, et al.	血液内科	Clinical efficacy and safety of first–line nilotinib therapy and evaluation of the clinical utility of the FRET–based drug sensitivity test.	Int J Hematol. 2019 Oct;110(4):482–489.	Original Article
151	Ogasawara R, Hashimoto D, Sugita J, et al.	血液内科	Loss of nivolumab binding to T cell PD–1 predicts relapse of Hodgkin lymphoma.	Int J Hematol. 2019 Sep 19. doi: 10.1007/s12185–019–02737–4. [Epub ahead of print]	Original Article
152	Takahide Ara , Daigo Hashimoto , Eiko Hayase , et al.	血液内科	Intestinal goblet cells protect against GVHD after allogeneic stem cell transplantation via Lypd8	Science Translational Medicine 2020 July	Original Article
153	Ishikawa T, Nishikawa M, Nakamoto H, et al.	消化器外科 I	Case of chronic pain after laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure in an adolescent girl with inguinal hernia in which open repair was effective.	Asian J Endosc Surg. 2019 Apr;12(2):211–213	Original Article
154	Kusakabe S, Suzuki T, Sugiyama Y, et al.	消化器外科 I	USP15 Participates in Hepatitis C Virus Propagation through Regulation of Viral RNA Translation and Lipid Droplet Formation.	J Virol. 2019 Mar 5;93(6)	Original Article
155	Shimada S, Kamiyama T, Yokoo H, et al.	消化器外科 I	Prognoses and clinicopathological characteristics for hepatocellular carcinoma originating from the caudate lobe after surgery.	World J Surg. 2019 Apr;43(4):1085–1093	Original Article
156	Wakizaka K, Yokoo H, Kamiyama T, et al.	消化器外科 I	Clinical and pathological features of combined hepatocellular–cholangiocarcinoma compared with other liver cancers.	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Jun;34(6):1074–1080	Original Article
157	Yamaki A, Akiyama R, Murakami C, et al.	消化器外科 I	Diacylglycerol kinase $\alpha$ –selective inhibitors induce apoptosis and reduce viability of melanoma and several other cancer cell lines.	J Cell Biochem. 2019 Jun;120(6):10043–10056	Original Article
158	Morooka Y, Umeshita K, Taketomi A, et al.	消化器外科 I	Long–term Donor Quality of Life after Living Donor Liver Transplantation in Japan.	Clinical transplantation. 2019 Jun;33(6):e13584.	Original Article
159	Sho T, Suda G, Ogawa K, et al.	消化器外科 I	Early response and safety of lenvatinib for patients with advanced hepatocellular carcinoma in a real–world setting.	JGH Open. 2019 Jun 10;4(1):54–60	Original Article
160	Kotera Y, Egawa H, Ogata S, et al.	消化器外科 I	Current status of hepatopulmonary syndrome in liver transplantation in Japan: a Japanese multicenter analysis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2019 Jul;26(7):292–299	Original Article
161	Chuma M, Toyoda H, Matsuzaki J, et al.	消化器外科 I	Circulating microRNA–1246 as a possible biomarker for early tumor recurrence of hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 2019 Jul;49(7):810–822	Original Article
162	Ichikawa N, Homma S, Funakoshi T, et al.	消化器外科 I	Preoperative FOLFOX in resectable locally advanced rectal cancer can be a safe and promising strategy: the R–NAC–01 study.	Surg Today. 2019 Aug;49(8):712–720	Original Article
163	Shibuya K, Kawamura H, Takahashi S, et al.	消化器外科 I	Short–term and Long–term Outcomes Following Laparoscopic Gastrectomy for Advanced Gastric Cancer Compared With Open Gastrectomy.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2019 Aug;29(4):297–303	Original Article
164	Imaizumi K, Tsukada Y, Komai Y, et al.	消化器外科 I	Prediction of urinary retention after surgery for rectal cancer using voiding efficiency in the 24 h following Foley catheter removal.	Int J Colorectal Dis. 2019 Aug;34(8):1431–1443	Original Article
165	Toyoshima Y, Kitamura H, Xiang H, et al.	消化器外科 I	IL6 Modulates the Immune Status of the Tumor Microenvironment to Facilitate Metastatic Colonization of Colorectal Cancer Cells.	Cancer Immunol Res. 2019 Dec;7(12):1944–1957	Original Article
166	Shimagaki T, Yoshio S, Kawai H, et al.	消化器外科 I	Serum milk fat globule–EGF factor 8 (MFG–E8) as a diagnostic and prognostic biomarker in patients with hepatocellular carcinoma.	Sci Rep. 2019 Oct 31;9(1):15788	Original Article
167	Kubota K, Mase A, Matsushima H, et al.	消化器外科 I	Daikenchuto, a traditional Japanese herbal medicine, promotes colonic transit by inducing a propulsive movement pattern.	Neurogastroenterol Motil. 2019 Nov;31(11):e13689	Original Article

168	Shimada S, Fukai M, Shibata K, et al.	消化器外科 I	Heavy water (D2O) containing preservation solution reduces hepatic cold preservation and reperfusion injury in an isolated perfused rat liver (IPRL) model.	J Clin Med. 2019 Nov 1;8(11):1818	Original Article
169	Nakamoto H, Nishikawa M, Ishikawa T, et al.	消化器外科 I	Simultaneous Laparoscopic Cholecystectomy and Combined Endoscopic and Laparoscopic Surgery for an Endoluminal Tumor of the Sigmoid Colon: A Case Report.	Am J Case Rep. 2019 Jan 1;20:1–4	Case report
170	Murata R, Yoshida T, Kobayashi N, et al.	消化器外科 I	Two-stage surgery for intraperitoneal and retroperitoneal multicentric liposarcoma causing hydronephrosis: a case report.	Surg Case Rep. 2019 Feb 4;5(1):18	Case report
171	Fujii Y, Kawamura N, Zaitzu M, et al.	消化器外科 I	Outcome of Living-Donor Liver Transplantation Using Grafts from Donors Treated for Fatty Liver.	Ann Transplant. 2020 Jan 10;25:e920677.	Original Article
172	Imaizumi K, Suzuki T, Kojima M, et al.	消化器外科 I	Ki67 expression and localization of T-cells after neoadjuvant therapies as reliable predictive markers in rectal cancer.	Cancer Sci. 2020 Jan;111(1):23–35	Original Article
173	Fujiyoshi S, Honda S, Minato M, et al.	消化器外科 I	Hypermethylation of CSF3R is a novel cisplatin resistance marker and predictor of response to postoperative chemotherapy in hepatoblastoma.	Hepatol Res. 2020 Jan 1. doi: 10.1111/hepr.13479. [Epub ahead of print]	Original Article
174	Ichikawa N, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科 I	Proficiency level of novice technically qualified surgeons in laparoscopic rectal resection.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2020 Feb;30(1):49–54	Original Article
175	Wakizaka K, Yokoo H, Kamiyama T, et al.	消化器外科 I	CD133 and epithelial cell adhesion molecule expressions in the cholangiocarcinoma component are prognostic factors for combined hepatocellular cholangiocarcinoma.	Hepatol Res. 2020 Feb;50(2):258–267	Original Article
176	Asahi Y, Hatanaka KC, Hatanaka Y, et al.	消化器外科 I	Prognostic impact of CD8+ T cell distribution and its association with the HLA class I expression in intrahepatic cholangiocarcinoma.	Surg Today. 2020 Feb 10. doi: 10.1007/s00595–020–01967–y. [Epub ahead of print]	Original Article
177	Nishiyama M, Ohtake N, Kaneko A, et al.	消化器外科 I	Increase of Akkermansia muciniphila by a Diet Containing Japanese Traditional Medicine Bofutsushosan in a Mouse Model of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease.	Nutrients. 2020 Mar 20;12(3):839.	Original Article
178	Hayakawa S, Matsushita T, Yokoi Y, et al.	消化器外科 I	Impaired O-Glycosylation at Consecutive Threonine TTX Motifs in Mucins Generates Conformationally Restricted Cancer Neoepitopes.	Biochemistry. 2020 Mar 31;59(12):1221–1241	Original Article
179	Ichikawa N, Homma S, Funakoshi T, et al.	消化器外科 I	Impact of technically qualified surgeons on laparoscopic colorectal resection outcomes: results of a propensity score-matching analysis.	BJS Open. 2020 Mar 24. doi: 10.1002/bjs5.50263. [Epub ahead of print]	Original Article
180	Shimada S, Kamiyama T, Orimo T, et al.	消化器外科 I	Long-term prognostic factors of patients with hepatocellular carcinoma who survive over 10 years after hepatectomy.	J Surg Oncol. 2020 Mar 20. doi: 10.1002/jso.25910. [Epub ahead of print]	Original Article
181	Fukasaku Y, Goto R, Ganchiku Y, et al.	消化器外科 I	Novel Immunological Approach to Asses Donor Reactivity of Transplant Recipients Using a Humanized Mouse Model.	BJS Open. 2020 Mar 24. doi: 10.1002/bjs5.50263. Online ahead of print.	Original Article
182	Shimamura T, Akamatsu N, Fujiyoshi M, et al.	消化器外科 I	Expanded living-donor liver transplantation criteria for patients with hepatocellular carcinoma based on the Japanese nationwide survey: the 5–5–500 rule – a retrospective study	Transpl Int. 2019 Apr; 32(4): 356–368	Original Article
183	Issa F, Milward K, Goto R, et al.	消化器外科 I	Transiently Activated Human Regulatory T Cells Upregulate BCL-XL Expression and Acquire a Functional Advantage in vivo.	Frontier Immunol. 2019 Apr ; 24(10): 889	Original Article
184	Aoyama T, Takasawa A, Takasawa K, et al.	消化器外科 I	Identification of Coiled-Coil Domain-Containing Protein 180 and Leucine-Rich Repeat-Containing Protein 4 as Potential Immunohistochemical Markers for Liposarcoma Based on Proteomic Analysis Using Formalin-Fixed, Paraffin-Embedded Tissue.	Am J Pathol. 2019 May; 189(5): 1015–1028.	Original Article
185	Obata S, Eiri S, Akiyama T, et al.	消化器外科 I	Nationwide survey of outcome in patients with extensive aganglionosis in Japan.	Pediatr Surg Int. 2019 May; 35(5): 547–550	Original Article
186	Ohira M, Shibuya K, Uemura K, et al.	消化器外科 I	Port-to-target distance as a predictive factor for difficult cases in single-incision laparoscopic cholecystectomy: an observational study.	Asian J Endosc Surg. 2019 Jul; 12(3): 255–263	Original Article



187	Ichikawa N, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科 I	A Increase of peripheral lymphocyte-monocyte ratio after primary site resection is associated with prolonged survival in unresectable colorectal carcinoma.	Surg Today. 2019 Nov 30; DOI: 10.1007/s00595-019-01927-1: [Online ahead of print].	Original Article
188	Kuramitsu K, Fukumoto T, Egawa H, et al.	消化器外科 I	A Multicenter Japanese Survey Assessing the Long- Term Outcomes of Liver Retransplantation using Living Donor Grafts.	T r a n s p l a n t a t i o n . 2 0 1 9 S e p 1 3 ; D O I : 1 0 . 1 0 9 7 / TP.0000000000002958: [Online ahead of print].	Original Article
189	Ohira M, Yoshizumi T, Yugawa K, et al.	消化器外科 I	Association of inflammatory biomarkers with longtermlongterm outcomes after curative surgery for mass-formin intrahepatic cholangiocarcinoma.	Surg Today. 2019 Oct 30; DOI: 10.1007/s00595-019-01905-7: [Online ahead of print].	Original Article
190	Sakamoto Y, Yoshio S, Doi H, et al.	消化器外科 I	Serum soluble Siglec-7 concentration as an indicator of liver macrophage activation and advanced fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Hepatol Res. 2019 Dec 5; DOI: 10.1111/hepr.13464: [Online ahead of print].	Original Article
191	Ishikawa T, Homma S, Nishikawa M, et al.	消化器外科 I	Laparoscopic abdominoperineal resection with lateral lymph node dissection for advanced rectal and prostate cancer with synchronous lateral lymph node metastases.	Asian J Endosc Surg. 2019 Jan; 12(1): 118-121.	Case report
192	Fujii Y, Tsuruga Y, Sakamoto S, et al.	消化器外科 I	Primary Mixed Neuroendocrine Nonneuroendocrine Neoplasm of the Gallbladder Associated with Pancreaticobiliary Maljunction without Bile Duct Dilation	Am Surg. 2019 Feb; 85(2): e74-e76.	Case report
193	Nakamura H, Kawano Y, Miyanishi K, et al.	消化器外科 I	Successful Treatment of Hepatocellular Carcinoma with Transcatheter Arterial Chemoembolizationfollowed by Radical Liver Transplantation in a Patient with Severe Liver Damage.	Case Rep Oncol. 2019 Apr; 12(1): 289-296.	Case report
194	Shingo Shimada, Moto Fukai, Kengo Shibata, et al.	消化器外科 I	Heavy Water (D 2 O) Containing Preservation Solution Reduces Hepatic Cold Preservation and Reperfusion Injury in an Isolated Perfused Rat Liver (IPRL) Model	J Clin Med•2019	Original Article
195	Yuki Fujii, Norio Kawamura, Masaaki Zaitzu, et al.	消化器外科 I	Outcome of Living-Donor Liver Transplantation Using Grafts From Donors Treated for Fatty Liver	Ann Transplant•2020	Original Article
196	Kengo Shibata, Takahiro Hayasaka, Satsuki Hashimoto, et al.	消化器外科 I	Imaging Mass Spectrometry Reveals the Changes in the Taurine Conjugates of Dihydroxycholanoic Acid During Hepatic Warm Ischemia and Reperfusion in a Rat Model	Transplant Proc•2020	Original Article
197	Yasutomo Fukasaku, Ryoichi Goto, Yoshikazu Ganchiku, et al.	消化器外科 I	Novel Immunological Approach to Asses Donor Reactivity of Transplant Recipients Using a Humanized Mouse Model	Hum Immunol•2020	Original Article
198	Norio Kawamura, Ryoichi Goto, Yasuyuki Koshizuka, et al.	消化器外科 I	The Second Case of Deceased Donor Liver Transplantation in a Patiien Coinfected With HIV and HCV in Japan: Special Reference to the Management of Complicated Coagulopathy Due to a Diverse Spectrum of Preformed anti-HLA Antibodies	Jap J Infect Dis•2020	Case report
199	Ryoichi Goto, Norio Kawamura, Masaaki Watanabe, et al.	消化器外科 I	Post-transplant Indolent T Cell Lymphoproliferative Disorder in Living Donor Liver Transplantation: A Case Report	Surg Case Rep•2020	Case report
200	Ichikawa N, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科 I	An increase in the peripheral lymphocyte-to-monocyte ratio after primary site resection is associated with a prolonged survival in unresectable colorectal carcinoma.	Surg Today. 2019 Nov 30. doi: 10.1007/s00595-019-01927-1. [Epub ahead of print]	Original Article
201	Asahi Y, Hatanaka KC, Hatanaka Y, et al.	消化器外科 I	Prognostic impact of CD8+ T cell distribution and its association with the HLA class I expression in intrahepatic cholangiocarcinoma.	Surg Today. 2020; [Epub ahead of print]	Original Article
202	Ichinokawa K, Nakanishi Y, Hida Y, et al.	消化器外科 II	Downregulated expression of human leukocyte antigen class I heavy chain is associated with poor prognosis in non-small-cell lung cancer.	Oncology Letters 18(1), 117-126, 2019-6	Original Article
203	Takeuchi Y, Ebihara Y, Nakanishi Y, et al.	消化器外科 II	Minimally invasive abdominal and left thoracic approach for esophagogastric junction adenocarcinoma with esophageal diverticulum: A case report.	Asian J Endosc Surg 12(2), 167-170, 2019-4	Case report
204	Poudel S, Kurashima Y, Kawarada Y, et al.	消化器外科 II	Development of a novel training system for laparoscopic inguinal hernia repair.	Minim Invasive Ther Allied Technol 28(4), 254-260, 2019-8	Original Article

205	Nakamura T, Asano T, Okamura K, et al.	消化器外科 II	A Preoperative Prognostic Scoring System to Predict Prognosis for Resectable Pancreatic Cancer: Who Will Benefit from Upfront Surgery?	J Gastrointest Surg 23(5), 990–996, 2019–5	Original Article
206	Saito T, Tanaka K, Ebihara Y, et al.	消化器外科 II	Novel prognostic score of postoperative complications after transthoracic minimally invasive esophagectomy for esophageal cancer: a retrospective cohort study of 90 consecutive patients.	Esophagus 16(2), 155–161, 2019–4	Original Article
207	Yokoyama S, Watanabe Y, Kurashima Y, et al.	消化器外科 II	Identifying the needs for teaching fundamental knowledge of laparoscopic surgery: a cross-sectional study in Japan.	Surg Endosc 33(7), 2242–2248, 2019–7	Original Article
208	Kurashima Y, Watanabe Y, Hiki N, et al.	消化器外科 II	Development of a novel tool to assess skills in laparoscopic gastrectomy using the Delphi method: the Japanese operative rating scale for laparoscopic distal gastrectomy (JORS-LDG).	Surg Endosc 33(12), 3945–3952, 2019–12	Original Article
209	Zhao Y, Nakanishi Y, Ogino M, et al.	消化器外科 II	Validation Study of Tumor Invasive Thickness for Postoperative Prognosis in 110 Patients Who Underwent Pancreatoduodenectomy for Distal Cholangiocarcinoma at a Single Institution.	Am J Surg Pathol 43(5), 717–723, 2019–5	Original Article
210	Paudel S, Hirano S, Kurashima Y, et al.	消化器外科 II	A Snapshot of Surgical Resident Training in Japan: Results of a National-Level Needs Assessment Survey.	Surg Today 49(10), 870–876, 2019–10	Original Article
211	Umemoto K, Nakamura T, Asano T, et al.	消化器外科 II	Central pancreatic body-preserving pancreatoduodenectomy for pancreatic head cancer following a combined total gastrectomy and distal pancreatectomy: a case report.	Surg Case Rep 5(1), 83, 2019–5	Case report
212	Kawai N, Hirohashi Y, Ebihara Y, et al.	消化器外科 II	ABCG2 expression is related to low 5-ALA photodynamic diagnosis (PDD) efficacy and cancer stem cell phenotype, and suppression of ABCG2 improves the efficacy of PDD.	PLoS One 14(5), e0216503, 2019–5	Original Article
213	Kuwabara S, Tsuchikawa T, Nakamura T, et al.	消化器外科 II	Prognostic relevance of tertiary lymphoid organs following neoadjuvant chemoradiotherapy in pancreatic ductal adenocarcinoma.	Cancer Sci 110(6), 1853–1862, 2019–6	Original Article
214	Umemoto K, Tsuchikawa T, Nakamura T, et al.	消化器外科 II	Postoperative nutritional benefits of proximal parenchymal pancreatectomy for low-grade malignant lesions in the pancreatic head.	HPB (Oxford) 21(11), 1491–1496, 2019–11	Original Article
215	Miyasaka M, Ebihara Y, Yamamura Y, et al.	消化器外科 II	Simultaneous surgical treatment for esophagogastric junctional cancer and splenic artery aneurysm resection with spleen preservation using fluorescence imaging: a case report.	Surg Case Rep 5(1), 44, 2019–3	Case report
216	Shichinohe T, Uemura S, Hirano S, et al.	消化器外科 II	Impact of Preoperative Skeletal Muscle Mass and Nutritional Status on Short-and Long-Term Outcomes After Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Retrospective Observational Study : Impact of Psoas Muscle Mass and Body Mass on Esophagectomy.	Ann Surg Oncol 26(5), 1301–1310, 2019–5	Original Article
217	Ogino M, Nakanishi Y, Mitsuhashi T, et al.	消化器外科 II	Impact of tumour budding grade in 310 patients who underwent surgical resection for extrahepatic cholangiocarcinoma.	Histopathology 74(6), 861–872, 2019–5	Original Article
218	Yokoyama S, Mizunuma K, Kurashima Y, et al.	消化器外科 II	Evaluation methods and impact of simulation-based training in pediatric surgery: a systematic review.	Pediatr Surg Int 35(10), 1085–1094, 2019–8	Original Article
219	Sekiya S, Ebihara Y, Yamamura Y, et al.	消化器外科 II	Two emergency cases of spontaneous esophageal perforation treated using a minimally invasive abdominal and left thoracic approach.	Asian J Endosc Surg (), e-pub, 2019–9	Case report
220	Sato S, Senmaru N, Ishido K, et al.	消化器外科 II	Perforation of small intestinal metastasis of lung adenocarcinoma treated with pembrolizumab: a case report.	Surg Case Rep 5(1), 116, 2019–10	Case report
221	Uemura S, Shichinohe T, Hosokawa M, et al.	消化器外科 II	ASO Author Reflections: Current State of Surgical Sarcopenia in Esophageal Cancer.	Ann Surg Oncol 26(Supple 3), 670–671, 2019–12	Others
222	Kushiya H, Noji T, Abo D, et al.	消化器外科 II	Treatment of Bleeding From a Portion of Pancreatojejunostomy After Pancreaticoduodenectomy With Division of the Splenic Vein: Two Case Reports.	Surg Case Rep 5(1), 128, 2019–8	Case report

223	Kushiya H, Ebihara Y, Nakanishi Y, et al.	消化器外科Ⅱ	Jejunal intussusception at the jejunojejunostomy after laparoscopic total gastrectomy: A case report.	Asian J Endosc Surg 13(1), 99–102, 2020–1	Case report
224	Kushibiki T, Nakamura T, Tsuda M, et al.	消化器外科Ⅱ	Role of dimerized C16orf74 in aggressive pancreatic cancer: A novel therapeutic target.	Mol Cancer Ther 19(1), 187–198, 2020–1	Original Article
225	Hane Y, Tsuchikawa T, Tanaka K, et al.	消化器外科Ⅱ	Metachronous Liver Metastases After Long-Term Follow-Up of Endoscopic Resection for Rectal Neuroendocrine Neoplasms: A Report of Three Cases.	Surg Case Rep 6(1), 22, 2020–1	Case report
226	Paudel S, Hirano S, Kurashima Y, et al.	消化器外科Ⅱ	Are Graduating Residents Sufficiently Competent? Results of a National Gap Analysis Survey of Program Directors and Graduating Residents in Japan.	Surg Today, e-pub, 2020–3	Original Article
227	Paudel S, Miyazaki K, Hirano S.	消化器外科Ⅱ	Continuation of Antithrombotic Therapy Increases Minor Bleeding but Does Not Increase the Risk Other Morbidities in Open Inguinal Hernia Repair: A Propensity Score-Matched Analysis.	Hernia, e-pub, 2020–3	Original Article
228	Watanabe Y, Fuchshuber P, Homma T, et al.	消化器外科Ⅱ	An Unmodulated Very-Low-Voltage Electrosurgical Technology Creates Predictable and Ultimate Tissue Coagulation: From Experimental Data to Clinical Use.	Surg Innov , e-pub, 2020–3	Original Article
229	Nakanishi Y, Okamura K, Tsuchikwa T, et al.	消化器外科Ⅱ	Time to Recurrence After Surgical Resection and Survival After Recurrence Among Patients With Perihilar and Distal Cholangiocarcinomas,	Ann Surg Oncol , e-pub, 2020–3	Original Article
230	Ogino M, Nakanishi Y, Mitsuhashi T, et al.	消化器外科Ⅱ	Impact of tumour budding grade in 310 patients who underwent surgical resection for extrahepatic cholangiocarcinoma.	Histopathology. 2019 May;74(6):861–872. doi: 10.1111/his.13827. Epub 2019 Mar 20.	Original Article
231	Kuwabara S, Tsuchikawa T, Nakamura, T, et al.	消化器外科Ⅱ	Prognostic Relevance of Tertiary Lymphoid Organs Following Neoadjuvant Chemoradiotherapy in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Cancer Sci. 2019 Jun;110(6):1853–1862. doi: 10.1111/cas.14023. Epub 2019 May 9.	Original Article
232	Sato O, Tsuchikawa T, Yamada T, et al.	消化器外科Ⅱ	Metastatic mixed adenoneuroendocrine carcinoma of the liver successfully resected by hepatic trisectionectomy following chemotherapy: A case report.	Clin Case Rep. 2019 Feb 1;7(3):491–496. doi: 10.1002/ccr3.1968. eCollection 2019 Mar.	Case report
233	Zhao Y, Nakanishi Y, Ogino M, et al.	消化器外科Ⅱ	Validation Study of Tumor Invasive Thickness for Postoperative Prognosis in 110 Patients Who Underwent Pancreatoduodenectomy for Distal Cholangiocarcinoma at a Single Institution	Am J Surg Pathol 2019;43:717–723 DOI: 10.1097/PAS.0000000000001244	Original Article
234	Aragaki M, Kaga K, Hida Y, et al.	循環器・呼吸器外科	A novel approach for the complete extraction of large tumours in video-assisted thoracoscopic surgery	[published online ahead of print, 2020 Jan 28]. J Minim Access Surg. 2020;10.4103/jmas.JMAS_255_19. doi:10.4103/jmas.JMAS_255_19	Original Article
235	Haruhiko Shiiya , Dong Tian , Masaaki Sato, et al.	循環器・呼吸器外科	Differences Between Patients With Idiopathic Pleuroparenchymal Fibroelastosis and Those With Other Types of Idiopathic Interstitial Pneumonia in Candidates for Lung Transplants.	Transplant Proc. 2019;51(6):2014–2021. doi:10.1016/j.transproceed.2019.04.035	Original Article
236	Shiiya H, Suzuki Y, Yamazaki S, et al.	循環器・呼吸器外科	Thoracoscopic Bronchial Artery Resection for Multiple Bronchial Artery Aneurysms	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Mar 11. doi: 10.5761/atcs.cr.18–00275. Online ahead of print.	Original Article
237	Aragaki M, Kaga K, Hida Y, et al.	循環器・呼吸器外科	Feasibility and safety of reduced-port video-assisted thoracoscopic surgery using a needle scope for pulmonary lobectomy– retrospective study	Ann Med Surg (Lond). 2019 Jul 26;45:70–74. doi: 10.1016/j.amsu.2019.07.027. eCollection 2019 Sep	Original Article
238	Sugimoto S, Shingu Y, Doenst T, et al.	循環器・呼吸器外科	Autophagy during left ventricular redilation after ventriculoplasty: Insights from a rat model of ischemic cardiomyopathy	J Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Feb 19:S0022–5223(20)30429–3. doi: 10.1016/j.jtcvs.2020.01.080. Online	Original Article
239	Ishigaki T, Shingu Y, Katoh N, et al.	循環器・呼吸器外科	Perioperative changes of the slope in the preload recruitable stroke work relationship by a single-beat technique after mitral valve surgery in functional mitral regurgitation with non-ischemic dilated cardiomyopathy	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Jan;68(1):30–37. doi: 10.1007/s11748–019–01164–w. Epub 2019 Jun 22.	Original Article
240	Kobayashi K, Wakasa S, Sato K, et al.	循環器・呼吸器外科	Quantitative analysis of regional endocardial geometry dynamics from 4D cardiac CT images: endocardial tracking based on the iterative closest point with an integrated scale estimation	Phys Med Biol. 2019 Feb 25;64(5):055009. doi: 10.1088/1361–6560/ab009a	Original Article

241	Matsui Y, Shingu Y, Wakasa S, et al.	循環器・呼吸器外科	Papillary Muscle Tugging Approximation for Functional Mitral Regurgitation.	Ann Thorac Surg. 2019 Jun;107(6):e427–e429. doi: 10.1016/j.athoracsur.2018.11.072 . Epub 2019 Jan 11.	Original Article
242	Seki T, Shingu Y, Wakasa S, et al.	循環器・呼吸器外科	Re-do mitral valve replacement for a bioprosthetic valve with central transvalvular leakage in a patient with ischemic cardiomyopathy: a case report.	J Artif Organs. 2019 Jun;22(2):177–180. doi: 10.1007/s10047-018-1086-6. Epub 2019 Jan 2.	Case report
243	Seki T, Jimuro K, Shingu Y, et al.	循環器・呼吸器外科	Mechanical properties of a new thermally deformable mitral valve annuloplasty ring and its effects on the mitral valve.	J Artif Organs. 2019 Jun;22(2):126–133. doi: 10.1007/s10047-018-1084-8. Epub 2018 Nov 19.	Original Article
244	Matsui Y.	循環器・呼吸器外科	Reply.	Ann Thorac Surg. 2020 Jan;109(1):304. doi: 10.1016/j.athoracsur.2019.05.008 . Epub 2019 Jun 15.	Others
245	Shingu Y, Iwano H, Murakami T, et al.	循環器・呼吸器外科	Risk factors for residual mitral regurgitation after aortic valve replacement in patients with severe aortic valve stenosis and moderate mitral regurgitation.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Oct;67(10):849–854. doi: 10.1007/s11748-019-01110-w. Epub 2019 Mar 15.	Original Article
246	Ota M, Tanaka Y, Nakagawa I, et al.	整形外科	Chondrocytes play a role in the development of rheumatoid arthritis via TMEM147-mediated NF- $\kappa$ B activation.	Arthritis Rheumatol. 2019 Nov 29. doi: 10.1002/art.41182.	Original Article
247	Terkawi MA, Kadoya K, Takahashi D, et al.	整形外科	Identification of IL-27 as potent regulator of inflammatory osteolysis associated with vitamin E-blended ultra-high molecular weight polyethylene debris of orthopedic implants.	Acta Biomater. 2019 Apr 15;89:242–251. doi: 10.1016/j.actbio.2019.03.028.	Original Article
248	Kim W, Onodera T, Kondo E, et al.	整形外科	Effects of ultra-purified alginate gel implantation on meniscal defects in rabbits.	Am J Sports Med 47(3):640–650,2019	Original Article
249	Kim W, Onodera T, Kondo E, et al.	整形外科	Which contributes to meniscal repair, the synovium or the meniscus? An in vivo rabbit model study with the freeze-thaw method.	Am J Sports Med. 27:363546520906140.	Original Article
250	Shimizu T, Samaan MA, Tanaka MS, et al.	整形外科	Abnormal Biomechanics at 6 Months Are Associated With Cartilage Degeneration at 3 Years After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction.	Arthroscopy. 35(2):511–520, 2019	Original Article
251	Shimizu T, Cheng Z, Samaan MA, et al.	整形外科	Increases in Joint Laxity After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Are Associated With Sagittal Biomechanical Asymmetry.	Arthroscopy. 35(7):2072–2079, 2019	Original Article
252	Endo T, Kadoya K, Suzuki Y, et al.	整形外科	A novel experimental model to determine the axon-promoting effects of grafted cells after peripheral nerve injury.	Frontiers in cellular neuroscience.2019 June 28;13,280.	Original Article
253	Kokabu T, Kawakami N, Uno K, et al.	整形外科	A three-dimensional depth sensor imaging in identifying adolescent idiopathic scoliosis: a prospective multicenter cohort study.	Sci Rep 9, 9678,2019	Original Article
254	Ohnishi T, Yamada K, Iwasaki K, et al.	整形外科	Caspase-3 knockout inhibits intervertebral disc degeneration related to injury but accelerates degeneration related to aging.	Sci Rep, 9:19324,2019	Original Article
255	Joutoku Z, Onodera T, Matsuoka M, et al.	整形外科	CCL21/CCR7 axis regulating juvenile cartilage repair can enhance cartilage healing in adults.	Sci Rep, 9:5165,2019	Original Article
256	Homan K, Hanamatsu H, Furukawa JI, et al.	整形外科	Alteration of the Total Cellular Glycome during Late Differentiation of Chondrocytes.	Int J Mol Sci. 2019 Jul 19;20(14). pii: E3546. doi: 10.3390/ijms20143546.	Original Article
257	Miyazaki T, Hanamatsu H, Xu L, et al.	整形外科	Evaluation of Residual Human-Induced Pluripotent Stem Cells in Human Chondrocytes by Cell Type-Specific Glycosphingolipid Glycome Analysis Based on the Aminolysis-SALSA Technique.	Int J Mol Sci. 2019 Dec 28;21(1).	Original Article
258	Yamada K, Sudo H, Iwasaki N, et al.	整形外科	Mechanical analysis of notch-free pre-bent rods for spinal deformity surgery.	Spine (Phila Pa 1976). 2020 Mar;45(6):E312–318.	Original Article

259	Shimizu T, Cruz A, Tanaka M, et al.	整形外科	Structural Changes over a Short Period Are Associated with Functional Assessments in Rheumatoid Arthritis.	J Rheumatol. 46(7):676–684, 2019	Original Article
260	Watanabe T, Kanayama M, Takahata M, et al.	整形外科	Perioperative complications of spine surgery in patients 80 years of age or older: a multicenter prospective cohort study.	J Neurosurg Spine. 2019 Dec 17:1–9.	Original Article
261	Iwasaki K, Inoue M, Kasahara Y, et al.	整形外科	Inclination of Blumensaat’s line influences on the accuracy of the quadrant method in evaluation for anterior cruciate ligament reconstruction.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 2019 Jul 9 ; doi/10.1007/s00167–019–05619–8.	Original Article
262	Hontani K, Onodera T, Terashima M, et al.	整形外科	Chondrogenic differentiation of mouse induced pluripotent stem cells using the three-dimensional culture with ultra-purified alginate gel.	J Biomed Mater Res A. 2019 May;107(5):1086–1093. doi: 10.1002/jbm.a.36615.	Original Article
263	Ura K, Sudo H, Iwasaki K, et al.	整形外科	Effects of intradiscal injection of local anesthetics on intervertebral disc degeneration in rabbit degenerated intervertebral disc.	J Orthop Res 37:1963–1971,2019	Original Article
264	Matsubara S, Onodera T, Maeda E, et al.	整形外科	Depletion of glycosphingolipids induces excessive response of chondrocytes under mechanical stress.	J Biomech. 2019 Sep 20;94:22–30. doi: 10.1016/j.jbiomech.2019.07.006.	Original Article
265	Fujita R, Hamano H, Kameda Y, et al.	整形外科	Breast cancer cells expressing cancer-associated sialyl-Tn antigen have less capacity to develop osteolytic lesions in a mouse model of skeletal colonization.	Clin Exp Metastasis. 2019 Dec;36(6):539–549.	Original Article
266	Endo T, Kadoya K, Suzuki Y, et al.	整形外科	Evidence for cell-contact factor involvement in neurite outgrowth of DRG neurons stimulated by Schwann cells.	Experimental Physiology. 2019 oct;104(10),1447–1454	Original Article
267	Shimizu T, Markes AR, Samaan MA, et al.	整形外科	Patients With Abnormal Limb Kinetics at 6 Months After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Have an Increased Risk of Persistent Medial Meniscal Abnormality at 3 Years.	Orthop J Sports Med. 23;8(1):2325967119895248, 2020	Original Article
268	Baba R, Kondo E, Iwasaki K, et al.	整形外科	Impact of Surgical Timing on Clinical Outcomes in Anatomic Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Hamstring Tendon Autografts.	Orthop J Sports Med 15;7(11):2325967119880553, 2019	Original Article
269	Yabuuchi K, Kondo E, Onodera J, et al.	整形外科	Clinical outcomes and complications during and after medial open-wedge high tibial osteotomy using a locking plate: A 3 to 7-year follow-up study.	Orthop J Sports Med 2020 Jun 8;8(6):2325967120922535.	Original Article
270	Irie T, Takahashi D, Asano T, et al.	整形外科	Effects of femoral bone defect morphology on initial polished tapered stem stability in massive defect model: a biomechanical study.	BMC Musculoskelet Disord. 2019 Aug 1;20(1):355.	Original Article
271	Sato D, Kondo E, Yabuuchi K, et al.	整形外科	Assessment of valgus laxity after release of the medial structure in medial open-wedge high tibial osteotomy: an in vivo biomechanical study using quantitative valgus stress radiography.	BMC Musculoskelet Disord 20(1):481,2019	Original Article
272	Onodera T, Nakano H, Homan K, et al.	整形外科	Preoperative radiographic and clinical factors associated with postoperative floating of the lesser toes after resection arthroplasty for rheumatoid forefoot deformity.	BMC Musculoskelet Disord 19;20(1):87,2019	Original Article
273	Matsuoka M, Onodera T, Majima T, et al.	整形外科	Correction osteotomy for bilateral varus knee deformity caused by premature epiphyseal closure induced by hypervitaminosis A: a case report.	BMC Musculoskelet Disord 15;20(1):287,2019	Case report
274	Asano T, Shimizu T, Takahashi D, et al.	整形外科	Potential Association with Early Changes of Serum Calcium Level after Switching to Denosumab Combined with Eldecartilol.	J Bone Miner Metab. 2019;37(2):351–357	Original Article
275	Ota M, Takahata M, Shimizu T, et al.	整形外科	Optimal administration frequency and dose of teriparatide for acceleration of biomechanical healing of long-bone fracture in a mouse model.	J Bone Miner Metab. 2019 Mar;37(2):256–263.	Original Article
276	Endo T, Takahata M, Koike Y, et al.	整形外科	Clinical characteristics of patients with thoracic myelopathy caused by ossification of the posterior longitudinal ligament.	J Bone Miner Metab. 2019, in press.	Original Article
277	Abe Y, Yamada K, Abumi K, et al.	整形外科	Long-term Changes in Vertebral Morphology after Cervical Spinal Fusion in Adolescent /Pediatric Patients: Retrospective Case Series with up to a Minimum 12 years of Follow-up.	World Neurosurg 122:e765–772,2019.	Original Article

278	Matsui Y, Minami A, Kondo M, et al.	整形外科	A Minimum 5-Year Longitudinal Study of New Total Wrist Arthroplasty in Patients with Rheumatoid Arthritis.	J Hand Surg Am. 2019. in press.	Original Article
279	Momma D, Iwamoto W, Iwasaki N.	整形外科	Long-term stress distribution patterns across the wrist joint in gymnasts assessed by computed tomography osteoabsorptiometry.	J Hand Surg Eur Vol. 2019 Dec;44(10):1098–1100.	Original Article
280	Fujita R, Takahata M, Kokabu T, et al.	整形外科	Retrospective study to evaluate the clinical significance of a second rise in C-reactive protein level following instrumented spinal fusion surgery.	J Orthop Sci. 2019 Nov;24(6):963–968. doi: 10.1016/j.jos.2019.09.002.	Original Article
281	Shimizu H, Endo T, Takahata M, et al.	整形外科	Occipitoatlantoaxial rotatory fixation caused by minor traumatic occipitoatlantal rotatory fixation with compensatory counter-rotation in atlantoaxial joint: A case report.	J Orthop Sci. 2019 Oct 10.	Case report
282	Ishizu H, Shimizu T, Kaibara T, et al.	整形外科	Bilateral subchondral insufficiency fractures of the femoral head in a normally active adolescent patient: A case report	J Orthop Sci 2019 Jun 5. pii: S0949-2658(19)30148-4	Case report
283	Onodera T, Baba R, Kasahara Y, et al.	整形外科	Therapeutic effects and adaptive limits of an acellular technique by ultrapurified alginate (UPAL) gel implantation in canine osteochondral defect models.	Regen Ther. 2020 Feb 20;14:154–159. doi: 10.1016/j.reth.2020.01.001.	Original Article
284	Yamaguchi T, Urita A, Endo T, et al.	整形外科	Charcot arthropathy of the shoulder joint in a patient with Guillain-Barre syndrome: A case report.	JBJS Cases Connector. 2019, in press.	Case report
285	Iwata A, Abumi K, Takahata M, et al.	整形外科	Late Subaxial Lesion after Overcorrected Occipitocervical Reconstruction in Patients with Rheumatoid Arthritis.	Asian Spine J. 2019 Apr;13(2):181–188.	Original Article
286	Shiota J, Kawamura D, Iwasaki N.	整形外科	Chronic dislocation of the distal interphalangeal joint: Case Report.	Journal of Trauma and Injury 2019;32(1):47–50.	Case report
287	Kawamura D, Funakoshi T, Iwasaki N.	整形外科	Trapeziectomy with Ligament Reconstruction and Interposition Arthroplasty using the Palmaris Longus Tendon: An Average 5-Year Follow-Up.	Clin Orthop Surg. 2019 Dec;11(4):453–458.	Original Article
288	Nagano Y, Kawamura D, Terkawi A, et al.	整形外科	Minimum Ten-Year Outcomes of Partial Ulnar Nerve Transfer for Restoration of Elbow Flexion in Patients with Upper Brachial Plexus Injury.	J Hand Surg Asian Pac Vol. 2019 Sep;24(3):283–288.	Original Article
289	Ouchi M, Kitta T, Suzuki S, et al.	泌尿器科	Evaluating pelvic floor muscle contractility using two-dimensional transperineal ultrasonography in patients with pelvic organ prolapse	Neurourol Urodyn. 2019 Apr 1	Original Article
290	Ouchi M, Kitta T, Kanno Y, et al.	泌尿器科	Dopaminergic urethral closure mechanisms in a rat model of Parkinson’s disease.	Neurourol Urodyn. 2019 Apr 1	Original Article
291	Iwami D, Hotta K, Sasaki H, et al.	泌尿器科	A 2-mm Cutoff Value Is Reasonable and Feasible for Vascular Reconstruction in a Kidney Allograft With Multiple Arteries.	Transplant Proc. 2019 Apr 23	Original Article
292	Abe T, Minami K, Harabayashi T, et al.	泌尿器科	Outcome of maintenance systemic chemotherapy with drug-free interval for metastatic urothelial carcinoma	Jpn J Clin Oncol. 2019 Jun 12	Original Article
293	Osawa T, Wei JT, Abe T, et al.	泌尿器科	Development of the Japanese version of the health-related quality of life questionnaire for bladder cancer patients using the Bladder Cancer Index: A pilot study	Int J Urol. 2019 Jul 16	Original Article
294	Abe T, Dar F, Amnattrakul P, et al.	泌尿器科	The effect of repeated full immersion simulation training in ureterorenoscopy on mental workload of novice operators	BMC Med Educ. 2019 Aug 22;19(1):318	Original Article
295	Abe T, Minami K, Harabayashi T, et al.	泌尿器科	Prognostic impact of local radiotherapy on metastatic urothelial carcinoma patients receiving systemic chemotherapy	Jpn J Clin Oncol. 2019 Oct 28	Original Article
296	Nobuhiro Tanaka, Masataka Yamamoto, Takashige Abe, et al.	麻酔科	Changes of cerebral blood volume during robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy: observational prospective study using near infrared time-resolved spectroscopy.	Journal of Endourology 33(12):995–1001, 2019 doi: 10.1089/end.2019.0217	Original Article

297	Tetsutaro Hase, Toshikazu Hashimoto, Hitoshi Saito, et al.	麻醉科	Isoflurane induces c-Fos expression in the area postrema of the rat.	J Anesth. 2019 Aug;33(4):562–566. doi: 10.1007/s00540-019-02662-0	Original Article
298	Kazuyuki Mizunoya, Fujii Tomoaki, Masataka Yamamoto, et al.	麻醉科	Two-stage goal-directed therapy protocol for non-donor open hepatectomy: An interventional before-after study.	J Anesth. 2019 Dec;33(6):656–664. doi: 10.1007/s00540-019-02688-4	Original Article
299	Yuka Uchinami, Satoshi Takikawa, Fumiki Takashima, et al.	麻醉科	Incidence of postoperative nausea and vomiting is not increased by combination of low concentration sevoflurane and propofol compared with propofol alone in patients undergoing laparoscopic gynecological surgery.	JA Clinical Reports 5, 70, 2019	Original Article
300	Nobuhiro Tanaka, M.D.; Tomoaki Fujii, M.D.; Niina Mikami, M.D.; et al.	麻醉科	Anesthetic management for cesarean section in a patient receiving transplacental treatment of fetal tachyarrhythmia	a case report JA Clinical Reports 2019 5(1):31 doi.org/10.1186/s40981-019-0251-0	Case report
301	Koji Hoshino, Toru Nakamura, Mineji Hayakawa, et al.	麻醉科	Acute compartment syndrome of the lower leg causing cardiac arrest after resection of the right external iliac vein for autologous graft	a case report JA Clinical Reports 5(1), 65, 2019 doi: 10.1186/s40981-019-0286-2	Case report
302	Mototsugu Miura, Kenkichi Tsuruga, Yuji Morimoto .	麻醉科	A pediatric cancer patient with suspected chemical coping following high-dose opioid therapy: a case report	a case report. J Med Case Rep 2019 Nov 30;13(1):353. doi: 10.1186/s13256-019-2273-7.	Case report
303	Emi Funayama , Yuhei Yamamoto , Akihiko Oyama , et al.	形成外科	Combination laser therapy as a non-surgical method for treating congenital melanocytic nevi from cosmetically sensitive locations on the body	Lasers Med Sci 34:1925–1928,2019	Original Article
304	Emi Funayama, Yuhei Yamamoto , Akihiko Oyama , et al.	形成外科	Comparison of Nasal Symmetry Between Presurgical Nasal Stenting and Postsurgical Nasal Retainer Placement in Unilateral Clefts	J Craniofac Surg 30:133–136,2019	Original Article
305	Munezumi Fujita , Yuhei Yamamoto, Jing-Jing Jiang , et al.	形成外科	NEDD4 Is Involved in Inflammation Development during Keloid Formation	J Invest Dermatol139:333–341,2019	Original Article
306	Kosuke Ishikawa , Taku Maeda , Emi Funayama , et al.	形成外科	Feasibility of pedicled vascularized inguinal lymph node transfer in a mouse model: A preliminary study	Microsurgery 39:247–254,2019	Original Article
307	Kosuke Ishikawa , Emi Funayama , Taku Maeda , et al.	形成外科	Changes in high endothelial venules in lymph nodes after vascularized and nonvascularized lymph node transfer in a murine autograft model	J Surg Oncol 119:700–707,2019	Original Article
308	Riri Ito , Taku Maeda , Yuhei Yamamoto, et al.	形成外科	Advancement Flap Using Excess Skin for Upper Eyelid Full-Thickness Defects	J Craniofac Surg 30:2614–2616,2019.	Original Article
309	T Hayashi , K Kuribayashi , T Maeda , et al.	形成外科	New video fluoroscopic chewing examination for patients who use dentures after mandibular reconstruction	Br J Oral Maxillofac Surg 57:697–698,2019	Case report
310	Taku Maeda , Toshihiko Hayashi , Naoki Murao , et al.	形成外科	Chondrocutaneous Bilateral Advancement Flap with Postoperative Radiation Therapy for a Helical Rim Keloid	Aesthetic Plast Surg 43:658–662,2019	Case report
311	Kosuke Ishikawa , Emi Funayama , Yuhei Yamamoto, et al.	形成外科	Squamous cell carcinoma arising in a chronic leg ulcer in Klippel-Trenaunay syndrome after the Charles procedure: A case with 40 years of follow up	J Dermatol 46:e403–e405,2019	Case report
312	Riri Ito , Masayuki Osawa , Yuhei Yamamoto, et al.	形成外科	Oculo-Auriculo-Fronto-Nasal Syndrome With Duane Retraction Syndrome and Dysplastic Bony Structure in the Midline of Nose	J Craniofac Surg 30:e576–e578,2019	Case report
313	Yamashita H, Ishida N, Hatanaka Y, et al.	乳腺外科	HER2 Gene Amplification in ER-positive HER2 Immunohistochemistry 0 or 1+ Breast Cancer With Early Recurrence.	Anticancer Res. 2020 Feb;40(2):645–652. doi:10.21873/anticanres.13994.	Original Article
314	Hayakawa M, Ohtani K, Wakamiya N .	救急科	Changes in Mannose-Binding Lectin and Collectin Kidney 1 Levels in Sepsis Patients With and Without Disseminated Intravascular Coagulation	Clin Appl Thromb Hemost 25 (2019.12)	Original Article
315	Kudo D, Hayakawa M, Iijima H, et al.	救急科	The Treatment Intensity of Anticoagulant Therapy for Patients With Sepsis-Induced Disseminated Intravascular Coagulation and Outcomes	Clin Appl Thromb Hemost 25(2019.12)	Original Article

316	Saito S, Uchino S, Hayakawa M, et al.	救急科	Japan Septic Disseminated Intravascular Coagulation (JSEPTIC DIC) study group (2019) Epidemiology of disseminated intravascular coagulation in sepsis and validation of scoring systems	J Crit Care (2019.4) 50:23–30	Original Article
317	Takauji S, Hayakawa M, Fujita S .	救急科	A Nationwide Comparison Between Sepsis–2 and Sepsis–3 Definition in Japan	J Intensive Care Med:(2019.1)	Original Article
318	Yamakawa K, Yoshimura J, Ito T, et al.	救急科	External Validation of the Two Newly Proposed Criteria for Assessing Coagulopathy in Sepsis.	Thromb Haemost 119 2:203–212(2019.2)	Original Article
319	Yamakawa K, Umemura Y, Murao S, et al.	救急科	Optimal Timing and Early Intervention With Anticoagulant Therapy for Sepsis–Induced Disseminated Intravascular Coagulation	Clin Appl Thromb Hemost(2019.12)	Original Article
320	Yoshihiro S, Sakuraya M, Hayakawa M, et al.	救急科	Recombinant Human–Soluble Thrombomodulin Contributes to Reduced Mortality in Sepsis Patients With Severe Respiratory Failure: A Retrospective Observational Study Using a Multicenter Dataset	Shock(2019.2)	Original Article
321	Seshadri A, Brat GA, Yorkgitis BK, et al.	救急科	Altered Monocyte and NK Cell Phenotypes Correlate with Post–Trauma Infection.	J Trauma Acute Care Surg.(2019.8)	Original Article
322	Wada T,Yamakawa K .	救急科	Trauma-induced coagulopathy: The past, present, and future: A comment:	J Thromb Haemost(2019.9)	Original Article
323	Itagaki Y, Hayakawa M, Maekawa K, et al.	救急科	Early administration of fibrinogen concentrate is associated with improved survival among severe trauma patients: a single-centre propensity score-matched analysis	World J Emerg Surg. (2020.1)	Original Article
324	Azuhata T, Hayakwa M, Maekawa K, et al.	救急科	Supernormal Antithrombin Activity Is an Independent Predictor of In–Hosp ital Mortality in Patients With Sepsis: A Retrospective Observational Study.	Clin Appl Thromb Hemost. (2020.1)	Original Article
325	Shirai S, Yabe I, Takahashi–Iwata I, et al.	神経内科	The responsiveness of triaxial accelerometer measurement of gait ataxia is higher than that of the Scale for the Assessment and Rating of Ataxia in the early stages of spinocerebellar ataxia.	Cerebellum 18; 721–730, 2019	Original Article
326	Uwatoko H, Hama Y, Takahashi–Iwata I, et al.	神経内科	Identification of plasma microRNA expression changes in multiple system atrophy and Parkinson’s disease.	Mol. Brain. 12; 49, 2019	Original Article
327	Eguchi K, Yabe I, Shirai S, et al.	神経内科	Constant current stimulation may improve apraxia of eyelid opening induced by deep brain stimulation.	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management.19; 100565, 2020	Case report
328	Kase S, Ishida S.	眼科	Photocoagulation for juxtapapillary retinal hemangioma in a young girl: A case report	Mol Clin Oncol, 2019/4/11	Case report
329	Kase S, Ishida S.	眼科	Adenosquamous Carcinoma Arising in Bulbar Conjunctiva	Ophthalmic Plast Reconstr Surg 2019/7/30	Case report
330	Ishijima K, Shinmei Y, Nozaki M, et al.	眼科	Sudden bilateral vision loss due to third ventricular cavernous angioma with intratumoral hemorrhage – case report	BMC Ophthalmol 2019/12/18	Case report
331	Shinkai A, Saito W, Hashimoto Y, et al.	眼科	Improvements in visual acuity and macular morphology following cessation of anti-estrogen drugs in a patient with anti-estrogen maculopathy resembling macular telangiectasia type 2: a pathogenic hypothesis	BMC Ophthalmol 2020/1/1	Case report
332	Shibata Y, Kase S, Namba K, et al.	眼科	A case of nodular posterior scleritis simulating intraocular tumor	Int J Ophthalmol 2019/4/27	Case report
333	Hashimoto Y, Saito W, Hasegawa Y, et al.	眼科	Involvement of Inner Choroidal Layer in Choroidal Thinning during Regression of Multiple Evanescent White Dot Syndrome	J Ophthalmol 2019/6/14	Original Article
334	Hase K, Kanda A, Noda K, et al.	眼科	Increased plasma galectin–1 correlates with advanced glycation end products and interleukin–1 $\beta$ in patients with proliferative diabetic retinopathy	Int J Ophthalmol 2019/4/27	Original Article



335	Kijima R, Sasaki O, Shinmei Y, et al.	眼科	Changes in Intraocular Pressure in Single Ventricle Patients After the Glenn or Fontan Procedure	J Glaucoma 2019/10/1	Original Article
336	Murata M, Noda K, Yoshida S, et al.	眼科	Unsaturated Aldehyde Acrolein Promotes Retinal Glial Cell Migration	Invest Ophthalmol Vis Sci 2019/10/26	Original Article
337	Hashimoto Y, Saito W, Namba K, et al.	眼科	Comparison of clinical characteristics in patients with Vogt–Koyanagi–Harada disease with and without anti–retinal antibodies	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2019/5/9	Original Article
338	Liu Y, Kanda A, Wu D, et al.	眼科	Suppression of Choroidal Neovascularization and Fibrosis by a Novel RNAi Therapeutic Agent against (Pro)renin Receptor	Mol Ther Nucleic Acids 2019/6/30	Original Article
339	Hirose I, Kanda A, Noda K, et al.	眼科	Glucocorticoid Receptor Inhibits Müller Glial galectin–1 Expression via DUSP1–dependent and –Independent Deactivation of AP–1 Signalling	J Cell Mol Med 2019/7/23	Original Article
340	Kanaya R, Kase S, Ishijima K, et al.	眼科	Usefulness of Topical Interferon Alpha–2b Eye Drop as an Adjunctive Therapy Following Surgical Resection in Ocular Surface Squamous Neoplasia	In Vivo 2019/10/31	Original Article
341	Hasegawa Y, Hashimoto Y, Shinmei Y, et al.	眼科	Optic nerve head microcirculation in congenital nasal optic disc hypoplasia	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2019/11/29	Original Article
342	Hashimoto Y, Saito W, Saito M, et al.	眼科	Increased thickness and decreased blood flow velocity of the choroid in a patient with acute macular neuroretinopathy	BMC Ophthalmol 2019/5/16	Case report
343	Kase S, Endo H, Takahashi M, et al.	眼科	Alteration of choroidal vascular structure in diabetic macular edema	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2020/2/1	Original Article
344	Saito M, Noda K, Saito W, et al.	眼科	Increased choroidal blood flow and choroidal thickness in patients with hypertensive chorioretinopathy	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2019/11/15	Original Article
345	Kase S, Endo H, Takahashi M, et al.	眼科	Alteration of choroidal vascular structure in diabetic retinopathy	Br J Ophthalmol 2019/6/10	Original Article
346	Liu Y, Kitaichi N, Wu D, et al.	眼科	Attenuation of Experimental Autoimmune Uveoretinitis in Mice by IKK $\beta$ Inhibitor IMD–0354	Biochem Biophys Res Commun 2020/3/3	Original Article
347	Kanda A, Hirose I, Noda K, et al.	眼科	Glucocorticoid–transactivated TSC22D3 Attenuates Hypoxia–And Diabetes–Induced Müller Glial galectin–1 Expression via HIF–1 $\alpha$ Destabilization	J Cell Mol Med 2020/3/10	Original Article
348	Fukutsu K, Namba K, Iwata D, et al.	眼科	Pseudo–inflammatory manifestations of choroidal lymphoma resembling Vogt–Koyanagi–Harada disease: case report based on multimodal imaging	BMC Ophthalmol 2020/3/12	Case report
349	Saito W, Hashimoto Y, Hirooka K, et al.	眼科	Changes in choroidal blood flow velocity in patients diagnosed with central serous chorioretinopathy during follow–up for pachychoroid pigment epitheliopathy	Am J Ophthalmol Case Rep 2020/3/28	Original Article
350	Fukutsu K, Namba K, Iwata D, et al.	眼科	Pseudo–inflammatory manifestations of choroidal lymphoma resembling Vogt–Koyanagi–Harada disease: case report based on multimodal imaging.	BMC Ophthalmol. 2020 Mar 10;20(1):94.	Case report
351	Suimon Y, Kase S, Ishijima K, et al.	眼科	Clinicopathological features of cystic lesions in the eyelid.	Biomed Rep. 2019 Feb;10(2):92–96. doi: 10.3892/br.2018.1177. Epub 2018 Dec 7.	Original Article
352	Fujiwara K, Furuta Y, Aoki W, et al.	耳鼻咽喉科	Make–up therapy for patients with facial nerve palsy.	Ann Otol Rhinol Laryngol. 128: 721–727, 2019	Original Article
353	Fujiwara K, Morita S, Fukuda A, et al.	耳鼻咽喉科	Analysis of semicircular canal function as evaluated by video Head Impulse Test in patients with vestibular schwannoma.	J Vestib Res. 30:101–108, 2020	Original Article

354	Suzuki M, Nakamaru Y, Takagi D, et al.	耳鼻咽喉科	Spontaneous regression of swollen submandibular glands in IgG4-related disease.	Allergy & Rhinology.10: 1-8, 2019	Original Article
355	Tsushima N, Hayashi R, Shinozaki T, et al.	耳鼻咽喉科	The role of elective neck dissection for cT4aN0 glottic squamous cell carcinoma.	Jpn J Clin Oncol. 49: 525-528, 2019	Original Article
356	Aya Honma , Victoria L Revell, Pippa J Gunn , et al.	耳鼻咽喉科	Effect of Acute Total Sleep Deprivation on Plasma Melatonin, Cortisol and Metabolite Rhythms in Females.	Eur J Neurosci . 51:366-378, 2020	Original Article
357	Fukuda A, Morita S, Nakamaru Y, et al.	耳鼻咽喉科	Short-Term hearing prognosis of ossiculoplasty in pars flaccida cholesteatoma using the EAONO/JOS staging system.	J Int Adv Otol. 15: 2-7, 2019	Original Article
358	Fukuda A, Morita S, Nakamaru Y, et al.	耳鼻咽喉科	Differentiation between eosinophilic otitis media and otitis media associated with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis.	Otol Neurotol. 40: e796-e802, 2019	Original Article
359	Morita S, Nakamaru Y, Nakazawa D, et al.	耳鼻咽喉科	The Diagnostic and Clinical Utility of the Myeloperoxidase-DNA Complex as a Biomarker in Otitis Media With Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis.	Otol Neurotol. 40(2): e99-106, 2019	Original Article
360	Ujiie H .	皮膚科	Regulatory T Cells in Autoimmune Skin Diseases	Exp Dermatol. 2019 Jun;28(6)	Review
361	Natsuga K, Watanabe M, Nishie W, et al.	皮膚科	Life Before and Beyond Blistering: The Role of Collagen XVII in Epidermal Physiology	Exp Dermatol. 2019 Oct;28(10)	Review
362	Kamaguchi M, Iwata H, Nishie W, et al.	皮膚科	The Direct Binding of Collagen XVII and Collagen IV Is Disrupted by Pemphigoid Autoantibodies	Lab Invest. 2019 Jan;99(1)	Original Article
363	Mai Y, Ujiie H, Higashi T, et al.	皮膚科	Autoantibodies undetectable by chemiluminescent enzyme immunoassay require extended antigen-antibody reaction time for detection.	Br J Dermatol. 2019 Jan;180(1)	Letter
364	Fujita Y, Shiiya C, Inamura-Takashima Y, et al.	皮膚科	Disseminated erythematous papules and pustules: A Quiz.	Acta Derm Venereol. 2019 Jan 1;99(1)	Letter
365	Kamaguchi M, Iwata H, Miyauchi T, et al.	皮膚科	The Identification of Autoantigens in Mucous Membrane Pemphigoid Using Immortalized Oral Mucosal Keratinocytes	J Oral Pathol Med. 2019 Jan;48(1)	Original Article
366	Zheng M, Ujiie H, Iwata H, et al.	皮膚科	Characteristics of IgG subclasses and complement deposition in BP230-type bullous pemphigoid.	J Eur Acad Dermatol Venereol 33	Original Article
367	Kosumi H, Natsuga K, Watanabe M, et al.	皮膚科	Multiple cutaneous reticulohistiocytomas after haematopoietic cell transplantation: contribution of donor- and host-derived cells.	Br J Dermatol 180	Letter
368	Iwata H, Kamaguchi M, Ujiie H, et al.	皮膚科	Fc-binding proteins enhance autoantibody-induced BP180 depletion in pemphigoid	J Pathol. 2019 Mar;247(3)	Original Article
369	Nomura T, Takeda M, Peh JT, et al.	皮膚科	Loss-of-function mutation in DSG1 underlies focal palmoplantar keratoderma.	J Eur Acad Dermatol Venereol 33	Letter
370	Ujiie I, Ujiie H, Iwata H, et al.	皮膚科	Clinical and immunological features of pemphigus relapse.	Br J Dermatol 180	Original Article
371	Fujita Y, Natsuga K, Manabe O, et al.	皮膚科	A nodular lesion of the foot detected by 18F-FDG PET/CT in mycosis fungoides: a plantar wart.	Clin Nucl Med 44	Letter
372	Yamaguchi Y, Fujita Y, Ikeda T, et al.	皮膚科	Severe septic vasculitis preceding thoracic empyema: staphylococcus aureus enterotoxin deposition in vessel walls as a possible pathomechanism.	Acta Derm Venereol 99	Letter

373	Natsuga K, Oiso N, Kurokawa I, et al.	皮膚科	Congenital nevi with hypomelanosis and fine scales.	Eur J Dermatol 29	Letter
374	Suzuki S, Nomura T, Miyauchi T, et al.	皮膚科	Somatic recombination underlies frequent revertant mosaicism in loricrin keratoderma.	Life Sci Alliance 2	Original Article
375	Kamaguchi M, Iwata H .	皮膚科	The Diagnosis and Blistering Mechanisms of Mucous Membrane Pemphigoid	Front Immunol. 2019 Jan 24;10	Review
376	Nohara T, Fujita Y, Takashima S, et al.	皮膚科	Image Gallery: Multiple localized lipoatrophy in recessive dystrophic epidermolysis bullosa.	Br J Dermatol 180	Letter
377	Takashima S, Shinkuma S, Fujita Y, et al.	皮膚科	Efficient Gene Reframing Therapy for Recessive Dystrophic Epidermolysis Bullosa with CRISPR/Cas9.	J Invest Dermatol. 2019 Aug;139(8)	Original Article
378	Kitamura S, Yanagi T, Maeda T, et al.	皮膚科	Evaluation of Pazopanib Cytotoxicity to Normal Vascular Endothelial Cells in Vitro: A Comment on Goto Et Al	J Dermatol. 2019 Sep;46(9)	Letter
379	Otsuka T, Iwata H, Kosumi H, et al.	皮膚科	Refractory Oral Ulcers in Eosinophilic Granulomatosis With Polyangiitis	J Dermatol. 2019 Oct;46(10)	Letter
380	Matsumura W, Fujita Y, Shinkuma S, et al.	皮膚科	Cultured Epidermal Autografts From Clinically Revertant Skin as a Potential Wound Treatment for Recessive Dystrophic Epidermolysis Bullosa	J Invest Dermatol. 2019 Oct;139(10)	Original Article
381	Yanagi T, Imafuku K, Kitamura S, et al.	皮膚科	CDK16/PCTK1/PCTAIRE1 Is Highly Expressed in Melanomas but Not in Melanocytic Nevi or Sarcomas	J Dermatol. 2019 Jul;46(7)	Letter
382	Izumi K, Bieber K, Ludwig RJ .	皮膚科	Current Clinical Trials in Pemphigus and Pemphigoid.	Front Immunol 10	Review
383	Narahira A, Yanagi T, Kitamura S, et al.	皮膚科	Dermoscopic Features of Genital Pigmented Bowen’s Disease: Report of a Case and Review of the Published Work	J Dermatol. 2019 Oct;46(10)	Letter
384	Nishie W .	皮膚科	Dipeptidyl Peptidase IV Inhibitor–Associated Bullous Pemphigoid: A Recently Recognized Autoimmune Blistering Disease With Unique Clinical, Immunological and Genetic Characteristics	Immunol Med. 2019 Mar;42(1)	Review
385	Mai Y, Nishie W, Izumi K, et al.	皮膚科	Preferential Reactivity of Dipeptidyl Peptidase–IV Inhibitor–Associated Bullous Pemphigoid Autoantibodies to the Processed Extracellular Domains of BP180	Front Immunol. 2019 May 29;10	Original Article
386	Ujiie H, Yoshimoto N, Natsuga K, et al.	皮膚科	Immune Reaction to Type XVII Collagen Induces Intramolecular and Intermolecular Epitope Spreading in Experimental Bullous Pemphigoid Models	Front Immunol. 2019 Jun 19;10	Original Article
387	Mizukami T, Fujita Y, Mai S, et al.	皮膚科	Erythema Multiforme–Like Hypersensitivity Reaction to Infliximab: An Atypical and Refractory Case	Eur J Dermatol. 2019 Jun 1;29(3)	Letter
388	Izumi K, Nishie W, Beniko M, et al.	皮膚科	A Cross–Sectional Study Comparing the Prevalence of Bullous Pemphigoid Autoantibodies in 275 Cases of Type II Diabetes Mellitus Treated With or Without Dipeptidyl Peptidase–IV Inhibitors.	Front Immunol. 2019 Jun 26;10	Original Article
389	Katayama S, Nomura T, Takeda M, et al.	皮膚科	A Case of Malignant Melanoma Arising in Nagashima–type Palmoplantar Keratosis	Acta Derm Venereol. 2019 Dec 1;99(13)	Letter
390	Ujiie H, Iwata H, Yamagami J, et al.	皮膚科	Japanese Guidelines for the Management of Pemphigoid (Including Epidermolysis Bullosa Acquisita)	journal of Dermatology 2019; 46: 1102–1135	Original Article
391	Kamaguchi M, Iwata H, Asaka T, et al.	皮膚科	Mucosal lesions in cutaneous lupus erythematosus successfully treated with hydroxychloroquine	Oral Sci Int. 16	Letter

392	Maeda T, Kitamura S, Yanagi T, et al.	皮膚科	Type 1 diabetes mellitus in a melanoma patient treated with adjuvant nivolumab therapy.	J Cutan Immunol Allergy. 2019	Case report
393	Kubo H, Urata H, Sakai M, et al.	精神科神経科	Development of 5-day hikikomori intervention program for family members: A single-arm pilot trial	Heliyon.9;6(1):e03011., 2020*	Original Article
394	Hashimoto N, Toyomaki A, Oka M, et al.	精神科神経科	Pilot Validation Study of the Japanese Translation of the Brief Negative Symptoms Scale (BNSS)	Neuropsychiatr Dis Treat.23;15:3511–3518., 2019	Original Article
395	Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, et al.	精神科神経科	White matter microstructural alterations across four major psychiatric disorders: mega-analysis study in 2937 individuals	Mol Psychiatry. (Epub ahead), 2019*	Original Article
396	Takaesu Y, Watanabe K, Numata S, et al.	精神科神経科	Improvement of psychiatrists’ clinical knowledge of the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders using the ’Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)’ project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study	Psychiatry Clin Neurosci.73(10):642–648, 2019*	Original Article
397	Matsui K, Tokumasu T, Takekita Y, et al.	精神科神経科	Switching to antipsychotic monotherapy vs. staying on antipsychotic polypharmacy in schizophrenia: A systematic review and meta-analysis	Schizophr Res. 209:50–57., 2019*	Original Article
398	Toyoshima K*, Inoue T, Masuya J, et al.	精神科神経科	Evaluation of subjective cognitive function using the Cognitive Complaints In Bipolar Disorder Rating Assessment (COBRA) in Japanese adults	Neuropsychiatr Dis Treat 15, 2981–2990, 2019*	Original Article
399	Horinouchi T, Sakurai K, Munekata N, et al.	精神科神経科	Decreased electrodermal activity in patients with epilepsy	Epilepsy Behav 2019;100:106517	Original Article
400	Mitsui N, Oyanagi Y, Kako Y, et al.	精神科神経科	Natural recovery from long-lasting generalised dissociative amnesia and of cerebral blood flow	BMJ Case Rep. 2019 Dec 11;12(12). pii: e231270. doi: 10.1136/bcr-2019-231270	Case report
401	Toyoshima K*, Kusumi I .	精神科神経科	Controlling the laxative abuse of anorexia nervosa patients with the Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program workbook: a case report	BioPsychoSocial medicine. 13, 23, 2019*	Case report
402	Takamiya S, Osanai T, Seki T, et al.	脳神経外科	Estimation of the number of feeding arteries of spinal arteriovenous malformations by using three-dimensional digital subtraction angiography	Eur Spine J. 2019 Apr	Original Article
403	Osanai T, Ito Y, Ushikoshi S, et al.	脳神経外科	Efficacy of ’drive and retrieve’ as a cooperative method for prompt endovascular treatment for acute ischemic stroke	J Neurointerv Surg. 2019 Aug	Others
404	Tokairin K, Osanai T, Kazumata K, et al.	脳神経外科	Contrecoup Injury-Induced Middle Meningeal Arteriovenous Fistula Detected by Time-of-Flight Magnetic Resonance Angiography and Magnetic Resonance Arterial Spin Labeling: Case Report and Review of the Literature	World Neurosurg. 2019 Jul	Case report
405	Seki T, Hamauchi S, Yamazaki M, et al.	脳神経外科	Investigation of the Neuropathic Pain Caused by Syringomyelia Associated with Chiari I Malformation	Asian Spine J. 2019 Apr	Others
406	Sugiyama T, Nakamura T, Ito Y, et al.	脳神経外科	A Pilot Study on Measuring Tissue Motion During Carotid Surgery Using Video-Based Analyses for the Objective Assessment of Surgical Performance	World J Surg. 2019 Sep	Others
407	Ishi Y, Yamaguchi S, Yoshida M, et al.	脳神経外科	Correlation between magnetic resonance imaging characteristics and BRAF alteration status in individuals with optic pathway/hypothalamic pilocytic astrocytomas	J Neuroradiol. 2019 Jun	Original Article
408	Yamaguchi S, Terasaka S, Okamoto M, et al.	脳神経外科	Simplified Dural Reconstruction Procedure Using Biocompatible Polyglycolic Acid Felt with Autologous Abdominal Fat Grafts after a Transpetrosal Approach	World Neurosurg. 2019 Dec	Original Article
409	Kazumata K, Tokairin K, Sugiyama T, et al.	脳神経外科	Association of cognitive function with cerebral blood flow in children with moyamoya disease	J Neurosurg Pediatr. 2019 Oct	Clinical Article

410	Echizenya I, Tokairin K, Kawabori M, et al.	脳神経外科	Reversible Cerebral Angiopathy after Viral Infection in a Pediatric Patient with Genetic Variant of RNF213	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2020 Feb	Case report
411	Sugiyama T, Nakayama N, Ushikoshi S, et al.	脳神経外科	Complication rate, cure rate, and long-term outcomes of microsurgery for intracranial dural arteriovenous fistulae: a multicenter series and systematic review	Neurosurg Rev. 2020 Jan	Original Article
412	Ishi Y, Yamaguchi S, Hatanaka KC, et al.	脳神経外科	Association of the FGFR1 mutation with spontaneous hemorrhage in low-grade gliomas in pediatric and young adult patients	J Neurosurg. 2020 Feb	Clinical Article
413	Kazumata K, Thakur KK, Tokairin K, et al.	脳神経外科	Brain Structure, Connectivity, and Cognitive Changes Following Revascularization Surgery in Adult Moyamoya Disease	Neurosurgery. 2019 Nov	Original Article
414	Takamiya S, Hatanaka KC, Ishi Y, et al.	脳神経外科	Spinal cord anaplastic astrocytoma with BRAF V600E mutation: A case report and review of literature	Neuropathology. 2020 Jun (Epub 2020 Jan)	Case report
415	Kawabori M, Kurisu K, Niiya Y, et al.	脳神経外科	Mollaret Meningitis with a High Level of Cytokines in the Cerebrospinal Fluid Successfully Treated by Indomethacin	Intern Med. 2019 Apr	Case report
416	Kawabori M, Tanimori A, Kitta S, et al.	脳神経外科	Evaluation of Novel Stereotactic Cannula for Stem Cell Transplantation against Central Nervous System Disease	Stem Cells Int. 2020 Feb	Others
417	Morikawa M, Umazume T, Hosokawa-Miyanishi A, et al.	産科・周産母子センター	Relationship between antithrombin activity and interval from diagnosis to delivery among pregnant women with early-onset pre-eclampsia.	Int J Gynaecol Obstet. 2019 Apr;145(1):62-69. doi: 10.1002/ijgo.12780. Epub 2019 Feb 21.	Others
418	Mayama M, Morikawa M, Umazume T, et al.	産科・周産母子センター	Increase in the number of patients diagnosed using the new classification of hypertensive disorders of pregnancy in Japan.	J Obstet Gynaecol Res. 2019 Jun;45(6):1118-1126. doi: 10.1111/jog.13955. Epub 2019 Mar 28.	Others
419	Morikawa M, Yamada T, Nakagawa K, et al.	産科・周産母子センター	Maternal Anemia and Coagulation/Fibrinolysis after Fetoscopic Laser Photocoagulation for Twin-to-Twin Transfusion Syndrome.	Gynecol Obstet Invest. 2019;84(5):477-484. doi: 10.1159/000499913. Epub 2019 Apr 9.	Others
420	Morikawa M, Yamada T, Kogo H, et al.	産科・周産母子センター	Effect of an educational leaflet on the frequency of seat belt use and the rate of motor vehicle accidents during pregnancy in Japan in 2018: a prospective, non-randomised control trial with a questionnaire survey.	BMJ Open. 2019 Sep 20;9(9):e031839. doi: 10.1136/bmjopen-2019-031839.	Others
421	Morikawa M, Umazume T, Nakagawa K, et al.	産科・周産母子センター	Low antithrombin activity before delivery predicts subsequent hypertensive disorders in pregnancy.	Int J Gynaecol Obstet. 2019 Dec;147(3):375-381. doi: 10.1002/ijgo.12980. Epub 2019 Oct 11.	Others
422	Morikawa M, Mayama M, Saito Y, et al.	産科・周産母子センター	Severe proteinuria as a parameter of worse perinatal/neonatal outcomes in women with preeclampsia.	Pregnancy Hypertens. 2020 Jan;19:119-126. doi: 10.1016/j.preghy.2019.12.013. Epub 2020 Jan 10.	Others
423	Morikawa M, Yamada T, Kogo H, et al.	産科・周産母子センター	Infant car seat use in Japan after the antepartum distribution of an educational leaflet: A prospective, nonrandomized controlled trial with a questionnaire survey.	Traffic Inj Prev. 2020;21(2):169-174. doi: 10.1080/15389588.2020.1733540. Epub 2020 Mar 10.	Others
424	Morikawa M, Kato-Hirayama E, Mayama M, et al.	産科・周産母子センター	Glycemic control and fetal growth of women with diabetes mellitus and subsequent hypertensive disorders of pregnancy.	PLoS One. 2020 Mar 16;15(3):e0230488. doi: 10.1371/journal.pone.0230488. eCollection 2020.	Others
425	Dong P, Xiong Y, Yue J, et al.	婦人科	Long Noncoding RNA NEAT1 Drives Aggressive Endometrial Cancer Progression via miR-361-regulated Networks Involving STAT3 and Tumor Microenvironment-Related Genes	J Exp Clin Cancer Res•2019 Jul 8	Others
426	Xu D, Dong P, Xiong Y, et al.	婦人科	MicroRNA-361: A Multifaceted Player Regulating Tumor Aggressiveness and Tumor Microenvironment Formation	Cancers (Basel)•2019 Aug 7	Review
427	Xu D, Dong P, Xiong Y, et al.	婦人科	MicroRNA-361-Mediated Inhibition of HSP90 Expression and EMT in Cervical Cancer Is Counteracted by Oncogenic lncRNA NEAT1	Cells•2020 Mar 5	Original research
428	Mitamura T, Konno Y, Kikawa S, et al.	婦人科	High-risk Human Papillomavirus Testing in Young Japanese Women with Atypical Squamous Cells of Undetermined Significance.	J Cytol. 2019;36(3):180-3.	Original Article

429	Dong P, Xiong Y, Yue J, et al.	婦人科	Exploring lncRNA-Mediated Regulatory Networks in Endometrial Cancer Cells and the Tumor Microenvironment: Advances and Challenges.	Cancers (Basel). 2019;11:E234	Review
430	Mitamura T, Dong P, Ihira K, et al.	婦人科	Molecular-targeted therapies and precision medicine for endometrial cancer	Japanese journal of clinical oncology. 2019;49(2):108-20	Review
431	Asano H, Hatanaka KC, Matsuoka R, et al.	婦人科	LICAM predicts adverse outcomes in patients with endometrial cancer undergoing full lymphadenectomy and adjuvant chemotherapy.	Ann Surg Oncol. 2020 Jul;27(7):2159-2168. doi: 10.1245/s10434-019-08103-2. Epub 2019 Dec 2.	Original Article
432	Shiraishi H, Yamada K, Oki E, et al.	小児科	Open-label clinical trial of bezafibrate treatment in patients with fatty acid oxidation disorders in Japan; 2nd report QOL survey.	Mol Genet Metab Rep. 25;20:100496, 2019 Sep.	Original Article
433	Kawano O, Egawa K, Shiraishi H .	小児科	Perampanel for nonepileptic myoclonus in Angelman syndrome.	Brain Dev. 2020 May;42(5):389-392	Original Article
434	Fujima N, Andreu-Arasa VC, Meibom SK, et al.	放射線診断科	Prediction of the human papillomavirus status in patients with oropharyngeal squamous cell carcinoma by FDG-PET imaging dataset using deep learning analysis:A hypothesis-generating study	Eur J Radiol. Published online: March 5.2020	Original Article
435	Shimizu Y, Kudo K, Kameda H, et al.	放射線診断科	Prediction of Hypoxia in Brain Tumors Using a Multivariate Model Built From MR Imaging and 18 F-Fluorodeoxyglucose Accumulation Data	Magn Reson Med Sci. 2019 Oct 15. Doi:10.2463/mrms.mp.2019-0049. [Epub ahead of print]	Original Article
436	Morita R, Abo D, Sakuhara Y, et al.	放射線診断科	Percutaneous Insertion of Hepatic Fiducial True-Spherical Markers for Real-Time Adaptive Radiotherapy	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2019 Sep 13:1-10. Doi: 10.1080/13645706.2019.1663217. [Epub ahead of print]	Original Article
437	Fujima N, Shimizu Y, Yoshida D, et al.	放射線診断科	Machine-Learning-Based Prediction of Treatment Outcomes Using MR Imaging-Derived Quantitative Tumor Information in Patients with Sinonasal Squamous Cell Carcinomas:A Preliminary Study Preliminary Study	Cancers (Basel). 2019 Jun 10;11(6). pii:E800. Doi: 10.3390/cancers11060800	Original Article
438	Kikuchi Y, Naya M, Oyama-Manabe N, et al.	放射線診断科	Assessment of Coronary Flow Velocity Reserve in the Left Main Trunk Using Phase-contrast MR Imaging at 3T: Comparison with 15O-labeled Water Positron Emission Tomography	Magn Reson Med Sci. 2019 Apr 10;18(2):134-141. Doi: 10.2463/mrms. mp. 2018-0003. Epub 2018 Jul 26	Original Article
439	Kato F, Kudo K, Yamashita H, et al.	放射線診断科	Predicting Metastasis in Clinically Negative Axillary Lymph Nodes With Minimum Apparent Diffusion Coefficient Value in Luminal A-like Breast Cancer	Breast Cancer. 2019 Sep;26(5):628-636. doi: 10.1007/s12282-019-00969-0. Epub 2019 Apr 1	Original Article
440	Tsuneta S, Oyama-Manabe N, Takeda A, et al.	放射線診断科	The Detection of Retrograde Flow From the Left Anterior Descending Artery Into the Main Pulmonary Artery by 4D-flow Cardiac Magnetic Resonance in a Patient With Bland-White-Garland Syndrome	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2019 Apr 1;20(4):488. doi: 10.1093/ehjci/jev222	Case report
441	Kato F, Kudo K, Yamashita H, et al.	放射線診断科	Predicting metastasis in clinically negative axillary lymph nodes with minimum apparent diffusion coefficient value in luminal A-like breast cancer.	Breast Cancer. 2019 Sep;26(5):628-636. doi: 10.1007/s12282-019-00969-0.	Original Article
442	Shimizu Y, Kudo K, Kameda H, et al.	放射線診断科	Prediction of Hypoxia in Brain Tumors Using a Multivariate Model Built from MR Imaging and 18F-Fluorodeoxyglucose Accumulation.	Magn Reson Med Sci, 2019 Oct.	Original Article
443	Uchinami Y, Suzuki R, Katoh N, et al.	放射線治療科	Impact of organ motion on volumetric and dosimetric parameters in stomach lymphomas treated with intensity-modulated radiotherapy. -86.	J Appl Clin Med Phys. 2019 Aug;20(8):78	Original Article
444	Hashimoto T, Shimizu S, Takao S, et al.	放射線治療科	Clinical experience of craniospinal intensity-modulated spot-scanning proton therapy using large fields for central nervous system medulloblastomas and germ cell tumors in children, adolescents, and young adults.	J Radiat Res. 2019 Jul 1;60(4):527-537.	Original Article
445	Dekura Y, Nishioka K, Hashimoto T, et al.	放射線治療科	The urethral position may shift due to urethral catheter placement in the treatment planning for prostate radiation therapy.	Radiat Oncol. 2019 Dec 12;14(1):226.	Original Article
446	Hashimoto T, Shimizu , Takao S, et al.	放射線治療科	Clinical experience of craniospinal intensity-modulated spot-scanning proton therapy using large fields for central nervous system medulloblastomas and germ cell tumors in children, adolescents, and young adults.	J Radiat Res. 2019 Jul.	Original Article
447	Manabe O, Oyama-Manabe N, Tamaki N .	核医学診療科	Positron emission tomography/MRI for cardiac diseases assessment	Br J Radiol. 2020 Feb 14:20190836. Doi: 10.1259/bjr.20190836. [Epub ahead of print]	Original Article

448	Watanabe S, Inoue T, Okamoto S, et al.	核医学診療科	Combination of FDG-PET and FMISO-PET as a treatment strategy for patients undergoing early-stage NSCLC stereotactic radiotherapy	EJNMMI Res. 2019 Dec 4;9(1): 104	Original Article
449	Manabe O, Koyanagawa K, Hirata K, et al.	核医学診療科	Prognostic Value of 18F-FDG PET Using Texture Analysis in Cardiac Sarcoidosis	JACC Cardiovasc Imaging. 2020 in press	Letter
450	Furuya S, Naya M, Manabe O, et al.	核医学診療科	18F-FMISO PET/CT detects hypoxic lesions of cardiac and extra-cardiac involvement in patients with sarcoidosis	J Nucl Cardiol 2019 Dec 9. Doi: 10.1007/s12350-019-01976-6. [Epub ahead of print]	Original Article
451	Kobayashi K, Manabe O, Hirata K, et al.	核医学診療科	Influence of the Scan Time Point When Assessing Hypoxia in 18 F-fluoromisonidazole PET: 2 vs. 4 H	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2019 Nov 28. Doi:10.1007/s00259-019-04626-8. [Epub ahead of print]	Original Article
452	Manabe O, Oyama-Manabe N, Nagai T, et al.	核医学診療科	Detailed Visualization of the Right and Left Ventricular, Left Atrial, and Epicardial Involvement of Cardiac Sarcoidosis With Novel Semiconductor PET/CT	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2019 Nov 12. Doi: 0.1007/s00259-019-04577-0. [Epub ahead of print]	Original Article
453	Manabe O, Ohira H, Hirata K, et al.	核医学診療科	Use of 18 F-FDG PET/CT Texture Analysis to Diagnose Cardiac Sarcoidosis	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2019 Jun;46(6):1240-1247. Doi: 10.1007/s00259-018-4195-9. Epub 2018 Oct 16	Original Article
454	Manabe O, Naya M, Oyama-Manabe N, et al.	核医学診療科	The Role of Multimodality Imaging in Takotsubo Cardiomyopathy	J Nucl Cardiol. 2019 Oct;26(5):1602-1616. Doi: 10.1007/s12350-018-1312-x. Epub 2018 Jun 1	Review
455	Manabe O, Kroenke M, Aikawa T, et al.	核医学診療科	Volume-based glucose metabolic analysis of FDG PET/CT: The optimum threshold and conditions to suppress physiological myocardial uptake	J Nucl Cardiol. 2019 Jun;26(3): 909-918. Doi:10.1007/s12350-017-1122-6. Epub 2017 Dec 14	Original Article
456	Watanabe S, Shiga T, Hirata K, et al.	核医学診療科	Biodistribution and Radiation Dosimetry of the Novel Hypoxia PET Probe [ 18 F]DiFA and Comparison With [ 18 F]FMISO	EJNMMI Res. 2019 Jul 5;9(1):60	Original Article
457	Manabe O, Naya M, Aikawa T, et al.	核医学診療科	O-15-labeled Water is the Best Myocardial Blood Flow Tracer for Precise MBF Quantification	Ann Nucl Cardiol. 2019; 5(1):69-72	Original Article
458	Shitomi K, Miyaji H, Miyata S, et al.	歯周・歯内療法科	Human dentin coated with silver nanoclusters exhibits antibacterial activity against Streptococcus mutans.	Nano BioMed, 11:,2019.	Original Article
459	Miyaji H, Kato A, Tanaka S .	歯周・歯内療法科	Suppression of root caries progression by application of Nanoseal®: a single-blind randomized clinical trial.	Dent Mater J, 2019.	Original Article
460	Shitomi K, Miyaji H, Miyata S, et al.	歯周・歯内療法科	Photodynamic inactivation of oral bacteria with silver nanoclusters/rose bengal nanocomposite	Photodiagnosis Photodyn Ther, 2020.	Original Article
461	Kudou M, Motoki Y, Inoue K, et al.	歯周・歯内療法科	The clinical efficacy of an ultrasonic device with built-in electronic apex locator when preparing vertical root fracture lines through the root canal	Dentistry 9(8): 2020	Original Article
462	Tominaga T, Tada E, Takahira K, et al.	歯周・歯内療法科	Heat generation and temperature increase in the root during electromagnetic apical treatment.	J Dent & Oral Disord 6, 2020	Original Article
463	Miyaji H, Mayumi K, Miyata S, et al.	歯周・歯内療法科	Comparative biological assessments of endodontic root canal sealer containing Surface Pre-Reacted Glass-ionomer (S-PRG) filler or silica filler	Dent Mater J, 39, 2020	Original Article
464	Furihata T, Miyaji H, Nishida E, et al.	歯周・歯内療法科	Bone forming ability of recombinant human collagen peptide granules applied with $\beta$ -tricalcium phosphate fine particles.	J Bio Mater Res. Part B. 4-2020	Original Article
465	Saito T, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	冠橋義歯補綴科	Minimum measurement time of masseteric electromyogram required for assessment of awake bruxism during the daytime.	Cranio 2019	Original Article
466	Maeda M, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	冠橋義歯補綴科	Quantitative analyses of jaw-opening muscle activity during active phase of jaw-closing muscles in sleep bruxism.	J Sleep Res 2019	Original Article

467	Maeda M, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	冠橋義齒補綴科	Validity of single-channel masseteric electromyography by using an ultraminiature wearable electromyographic device for diagnosis of sleep bruxism.	J Prosthodont Res	Original Article
468	Mayumi Ukita, Kenji Matsushita, Masato Tamura, et al.	冠橋義齒補綴科	Histone H3K9 methylation is involved in temporomandibular joint osteoarthritis.	Int J Mol Med 2020	Original Article
469	Maeda M, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	冠橋義齒補綴科	Validity of single-channel masseteric electromyography by using an ultraminiature wearable electromyographic device for diagnosis of sleep bruxism	J Prosthodont Res. 64 (1): 90-97, 2020	Original Article
470	Maeda M, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	冠橋義齒補綴科	Quantitative analyses of jaw-opening muscle activity during the active phase of jaw-closing muscles in sleep bruxism.	J Sleep Res. 2019;00:e12922 Online ahead of print	Original Article
471	Chowdhury AFMA, Islma R, Alam A, et al.	歯冠修復科	Variable smear layer and adhesive application: the pursuit of clinical relevance in bond strength testing	Int J Mol Sci 20(21);piiE5381– piiE5381,2019 Oct	Original Article
472	S Makino, C Kawamoto, T Ikeda, et al.	歯冠修復科	Whitening Efficacy of Chewing Gum Containing Sodium Metaphosphate on Coffee Stain: Placebo-Controlled, Double-Blind in situ Examination	Oper Dent. 44(5); 469–475, 2019 Sep/Oct	Original Article
473	Chowdhury AFMA, Saikaew P, Matsumoto M, et al.	歯冠修復科	Gradual dehydration affects the mechanical properties and bonding outcome of adhesives to dentin	Dent Mater J38(3); 361–367,2019 June	Original Article
474	Naoe T, Hasebe A, Horiuchi R, et al.	義歯補綴科	Development of tissue conditioner containing cetylpyridinium chloride montmorillonite as new antimicrobial agent: pilot study on antimicrobial activity and biocompatibility	Journal of Prosthodontic Research Feb 2020	Original Article
475	Kaga N, Akasaka T, Matsuura T, et al.	義歯補綴科	Proliferation of Saos-2 and Ca9-22 cells on grooved and pillared titanium surfaces	Bio-Medical Materials and Engineering	Original Article
476	Yamagata S, Yamamoto T, Sato Y, et al.	矯正歯科	Morphology and fluorescence of Y2O3:Eu3+ nanophosphors and dispersibility in adhesives resins	Nano Biomedicine 11(2), 57–64, December 2019	Original Article
477	Kusakabe T, Iwasaki H, Sato Y .	矯正歯科	Clinical features of orthodontic patients with Romberg syndrome	The Journal of Hokkaido Orthodontic Society 47(1): 5–12, December 2019	Clinical Reports
478	Nishide S, Yoshihara T, Hongou H, et al.	小児・障害者 歯科	Daily life habits associated with eveningness lead to a higher prevalence of dental caries in children.	J Dent Sci, April, 2019, 14(3), 302–308	Original Article
479	Khadiza N, Hasegawa T, Nagai T, et al.	小児・障害者 歯科	Immunolocalization of podoplanin/E11/gp38, CD44, and endomucin in the odontoblastic cell layer of murine tooth germs.	Biomed Res, August,2019, 40(4), 133–143	Original Article
480	Oshima S, Yawaka Y .	小児・障害者 歯科	Class III $\beta$ -tubulin expression during hard tissue formation in developing mouse teeth.	Pediatr Dent J, in press, 2020.	Original Article
481	Kitagawa Y, Ohga N, Asaka T, et al.	口腔内科	Imaging modalities for drug-related osteonecrosis of the jaw (3),Positron emission tomography imaging for the diagnosis ofmedication-related osteonecrosis of the jaw.	Jpn Dent Sci Rev. 2019 Nov;55(1):65–70.	Review
482	Otsuka T, Iwata H, Kosumi H, et al.	口腔内科	Refractory oral ulcers in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis	Dermatol. 2019 Oct;46(10):e377– e378. doi:10.1111/1346– 8138.14897	Case report
483	Fujieda Y, Doi M, Asaka T, et al.	口腔内科	Incidence and risk of antiresorptive agent-related osteonecrosis of the jaw (ARONJ) after tooth extraction in patients with autoimmune disease.	J Bone Miner Metab. 2020 Feb 19. doi:10.1007/s00774-020– 01089	Original Article
484	Yahara H, Horita S, Yanamoto S, et al.	口腔内科	A Targeted Genetic Association Study of the Rare Type of Osteomyelitis	J Dent Res. 2020 Mar;99(3):271– 276. doi: 10.1177/0022034520901519.	Original Article
485	Yamada SI, Hasegawa T, Soutome S, et al.	口腔内科	Prevalence of and risk factors for postoperative hemorrhage after lower third molar extraction on warfarin therapy: a multicenter retrospective study in Japan.	Odontology. 2019 Nov 8. doi: 10.1007/s10266-019-00474	Original Article



486	Nakazawa S, Sakata KI, Liang S, et al.	口腔内科	Dominant-negative p53 mutant R248Q increases the motile and invasive activities of oral squamous cell carcinoma cells.	Biomed Res. 2019;40(1):37-49.	Original Article
487	Matsushita K .	口腔外科	Adaptation of an osteotome to produce a predictable sagittal split ramus osteotomy.	Br J Oral Maxillofac Surg 58(2): 240-242, 2020.	Others
488	Hatanaka T, Higashino F, Tei K, et al.	口腔外科	The neural ELAVL protein HuB enhances endogenous proto-oncogene activation.	BBRC 517(2):330-337, 2019.	Original Article
489	Hayashi T, Kuribayashi K, Maeda T, et al.	口腔外科	New video fluoroscopic chewing examination for patients who use dentures after mandibular reconstruction.	Br J Oral Maxillofac Surg 57(7):697-698, 2019.	Others
490	Kakuguchi W, Ohiro Y, Nakazawa S, et al.	口腔外科	Application of the dredging method in a case of recurrent ameloblastoma that had spread over a large region of the mandible.	J OMSMP 32(1):44-48, 2020.	Case report
491	Annan D.A , Maishi N , Soga T , et al.	歯科放射線科	Carbonic anhydrase 2 (CAII) supports tumor blood endothelial cell survival under lactic acidosis in the tumor microenvironment.	Cell Commun Signal. 2019 Dec.	Original Article
492	Shima T, Fujima N, Yamano S, et al.	歯科放射線科	Evaluation of non-Gaussian model-based diffusion-weighted imaging in oral squamous cell carcinoma: comparison with tumour functional information derived from positron-emission tomography	Clin Radiol . 2020 Jan.	Original Article
493	Hamaya E, Fujisawa T, Tamura M .	歯科麻酔科	Osteoadherin serves in the regulation of apoptosis and growth in MC3T3-E1 osteoblast cells.	Int J Mol Med 44(6):2336-2344	Original Article
494	Igarashi K, Watanabe Y, Kawai H, et al.	高齢者歯科	Relationship between knee extension torque and occlusal force in community-dwelling elderly individuals	J Oral Sci 27;61(4):508-511, 2019	Original Article
495	Ito K, Edahiro A, Watanabe Y, et al.	高齢者歯科	Qualitative analysis of the vocabulary used in work logs of a preventive program for elderly oral function and nutrition.	J Oral Rehabil 46(8):723-729, 2019	Original Article
496	Mikami Y, Watanabe Y, Motokawa K, et al.	高齢者歯科	Association Between Decrease in Frequency of Going Out and Oral Function in Older Adults Living in Major Urban Areas.	Geriatr Gerontol Int 19(8):792-797, 2019.	Original Article
497	Kera T, Kawai H, Hirano H, et al.	高齢者歯科	SARC-F: A validation study with community-dwelling older Japanese adults.	Geriatr Gerontol Int 19(11):1172-1178, 2019	Original Article
498	Sakurai R, Watanabe Y, Osuka Y, et al.	高齢者歯科	Overlap between Apolipoprotein E ε 4 Allele and Slowing Gait Results in Cognitive Impairment.	Front Aging Neurosci 13;11:247, 2019	Original Article
499	Yamamoto K, Motokawa K, Yoshizaki T, et al.	高齢者歯科	Association of Dietary Variety and Appetite with Sleep Quality in Urban-Dwelling Older Japanese Adults.	J Nutr Health Aging 24(2):152-159, 2020	Original Article
500	Kugimiya Y, Watanabe Y, Igarashi K, et al.	高齢者歯科	Factors associated with masticatory performance in community-dwelling older adults: A cross-sectional study.	J Am Dent Assoc 151(2):118-126, 2020	Original Article
501	Takahashi J, Kawai H, Suzuki H, et al.	高齢者歯科	Development and validity of the Computer-Based Cognitive Assessment Tool for intervention in community-dwelling older individuals.	Geriatr Gerontol Int 20(3):171-175, 2020	Original Article
502	Takahashi J, Kawai H, Suzuki H, et al.	高齢者歯科	Reliability and Validity of the Activity Diversity Questionnaire for Older Adults in Japan.	Int J Environ Res Public Health 31;17(7). pii: E2384, 2020	Original Article
503	Sakata K, Maeda K, Sakurai N, et al.	高齢者歯科	ADAR2 regulates malignant behavior in mesothelioma cell lines independent of RNA-editing activity.	Anticancer Res 40(3): 1307-1314, 2020	Original Article
504	Nishino H, Iwano H, Kaga S, et al.	検査・輸血部	Clinical significance of end-diastolic opening of pulmonary valve in a case complicating left ventricular systolic dysfunction.	J Echocardiogr. 2019 Aug 3.	Case report

505	Nishino H, Iwano H, Kaga S, et al.	検査・輸血部	Clinical significance of end-diastolic opening of pulmonary valve in a case complicating left ventricular systolic dysfunction.	J Echocardiogr. 2019 Aug 3. doi: 10.1007/s12574-019-00438-9.	Case report
506	Omotehara S, Nishida M, Kinoshita K, et al.	検査・輸血部	Validation of US evaluation of ulcerative colitis activity.	Ultrasound Med Biol 2019 ; 45: 1537-44.	Original Article
507	Omotehara S, Nishida M, Nagashima K, et al.	検査・輸血部	Immune Checkpoint Inhibitor-Induced Colitis Successfully Followed up by Ultrasonography	SN Comprehensive Clinical Medicine 2020; 2: 215-21.	Case report
508	Murayama M, Okada K, Kaga S, et al.	超音波センサー	Simple and noninvasive method to estimate right ventricular operating stiffness based on echocardiographic pulmonary regurgitant velocity and tricuspid annular plane movementmeasurements during atrial contraction.	The International Journal of Cardiovascular Imaging 2019; 35: 1871-80.	Others
509	Murayama M, Iwano H, Tsujinaga S, et al.	超音波センサー	Tricuspid regurgitation occurring in the early-diastolic phase in a case of heart failure: Insights from echocardiographic and invasive hemodynamic findings.	Echocardiography. 2019; 36: 1771-5	Case report
510	Murayama M , Nishida M, Kudo Y, et al.	超音波センサー	Case with long-standing gout showing various ultrasonographic features caused by monosodium urate monohydrate crystal deposition.	Mod Rheumatol Case Rep. 2019; doi: 10.1080/24725625.2019.1662987	Case report
511	Fujimori M, Kamishima T, Narita A, et al.	超音波センサー	Quantitative power Doppler signal assessment in the subchondral bone region of the metacarpophalangeal joint is an effective predictor of radiographic progression in the hand of rheumatoid arthritis: a pilot study. Rheumatology International,	Rheumatology International, 39 (8): 1413-1421, 2019	Original Article
512	Horie T, Nishida M, Tanimura S, et al.	超音波センサー	Detection of Increased Vascular Signal in Arthritis-Prone Rats Without Joint Swelling Using Superb Microvascular Imaging Ultrasonography.	Ultrasound Med Biol. 45(8): 2086-2093, 2019	Original Article
513	Murayama M, Nishida M, Kudo Y, et al.	超音波センサー	Case with long-standing gout showing various ultrasonographic features caused by monosodium urate monohydrate crystal deposition.	Mod Rheumatol Case Rep. 4(1): 110-115, 2019.	Case report
514	Horie T, Nishida M, Tanimura S, et al.	放射線部	Detection of Increased Vascular Signal in Arthritis-Prone Rats Without Joint Swelling Using Superb Microvascular Imaging Ultrasonography.	Ultrasound Med Biol 2019 ; 45: 2086-93.	Original Article
515	Satoshi Osuka, Tomoya Ishida, Masanori Yamanaka, et al.	リハビリテーション部	Abdominal Draw-In Maneuver Changes Neuromuscular Responses to Sudden Release From Trunk Loading in Patients With Non-Specific Chronic Low Back Pain	J Orthop Sci. 2019 Nov (Epub ahead of print)	Original Article
516	Satoshi Osuka, Yuta Koshino, Masanori Yamanaka, et al.	リハビリテーション部	The Onset of Deep Abdominal Muscles Activity During Tasks With Different Trunk Rotational Torques in Subjects With Non-Specific Chronic Low Back Pain	J Orthop Sci. 2019 Sep	Original Article
517	Hatanaka KC, Takakuwa E, Hatanaka Y, et al.	病理部/病理診断科	Desmoplastic small round cell tumor of the parotid gland – Report of a rare case and a review of the literature.	Diagn Pathol. 2019 May 18;14(1):43. doi: 10.1186/s13000-019-0825-1.	Case report
518	Tsuyoshi Shimamura, Nobuhisa Akamatsu, Masato Fujiyoshi, et al.	臓器移植医療部	Expanded Living-Donor Liver Transplantation Criteria for Patients With Hepatocellular Carcinoma Based on the Japanese Nationwide Survey: The 5-5-500 Rule – A Retrospective Study	Transplt Int•2019	Original Article
519	Shibata Y, Yabe I (corresponding author), Matsushima M, et al.	臨床遺伝子診療部	Investigating the role of genetic counseling in neuromuscular disease considering life events.	J Hum Genet 64; 551-559, 2019	Original Article
520	Miyamoto N, Maeda K, Abo D, et al.	医学物理部	Quantitative evaluation of image recognition performance of fiducial markers in real-time tumor-tracking radiation therapy.	Phys Med. 2019 Sep;65:33-39	Original Article
521	Sakamoto T, Saito Y, Kobayashi M, et al.	薬剤部	Effect of palonosetron and dexamethasone administration on the prevention of gastrointestinal symptoms in hepatic arterial chemoembolization with epirubicin	Supportive care in cancer. 2019 Nov 16. doi: 10.1007/s00520-019-05178-1. [Epub ahead of print]	Original Article
522	Yoshitaka Saito, Takehiro Yamada, Masaki Kobayashi, et al.	薬剤部	Paclitaxel-associated acute pain syndrome similarly occurs in the patients with or without previously administered non-steroidal anti-inflammatory drugs prior to paclitaxel administration	Yakugaku Zasshi. 2019;139(12):1601-1608. doi: 10.1248/yakushi.19-00148.	Original Article

523	Yoshitaka Saito, Masaki Kobayashi, Takehiro Yamada, et al.	薬剤部	Efficacy of additional dexamethasone administration for the attenuation of paclitaxel-associated acute pain syndrome.	J Supportive Care in Cancer	Original Article
524	Higuchi I, Kimura Y, Kobayashi M, et al.	薬剤部	Relationships between plasma lactate, plasma alanine, genetic variations in lactate transporters and type 2 diabetes in the Japanese population.	Drug Metab Pharmacokinet.	Original Article
525	Masayoshi Kumai, Yosuke Maeda, Mototsugu Miura, et al.	薬剤部	Serotonin syndrome developing immediately after the initiation of low-dose methadone therapy: a case report	Case Reports in Oncology	Case report
526	Higuchi I, Kimura Y, Kobayashi M, et al.	薬剤部	Relationships between plasma lactate, plasma alanine, genetic variations in lactate transporters and type 2 diabetes in the Japanese population.	Drug Metab Pharmacokinet. 2019	Original Article
527	Nasuhara Y, Sakushima K, Oki H, et al.	医療安全管理部	Analysis of Implementation of Blood Tests Specified in the Package Insert After Prescription of Thiamazole.	J Patient Saf. 2020 Mar;16(1):24-29.	Original Article
528	Saito T, Reines E, Florea I et al.	児童思春期精神医学研究部門	Management of Depression in Adolescents in Japan 10.1089/cap.2019.0023.	Journal of Child and Adolescent Psychopharmacology. 29(10):753-763. 2019 doi: 10.1089/cap.2019.0023	Original Article
529	Hashimoto R, Sueda K, Yagyu K .	児童思春期精神医学研究部門	Development of a Movement Questionnaire Adapted for Japanese Culture for Elementary School Children.	Brain Dev. 42 (3), 237-247, 2020 doi: 10.1016/j.braindev.2019.11.007	Original Article
530	Tsujii N, Okada T, Usami M, et al.	児童思春期精神医学研究部門	Effect of continuing and discontinuing medications on quality of life after symptomatic remission in attention-deficit/hyperactivity disorder: a systematic review and meta-analysis	The American Professional Society of ADHD and Related Disorders 2020 Annual meeting	Original Article

計530件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	①・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	①・無
<p>・ 手順書の主な内容</p> <p>北海道大学病院で実施される臨床研究が「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に適合して運用されるために「北海道大学病院における臨床研究の取扱いに関する指針」を整備し、臨床研究の分類と担当する委員会、審査に関する手順を定めている。手順書では総則、総長の責務等、病院長の責務等、自主臨床研究審査委員会の責務等、自主臨床研究責任者の責務等、自主臨床研究事務局、個人情報等、研究に係る試料及び情報等の保管の8章72条の手順を規定している。</p> <p>研究責任者は、該当する審査委員会に審査を受けるための申請を行うこととし、研究者がいずれの審査を受けるべきか判断に苦慮する場合は、本院自主臨床研究委員会事務局へ問い合わせることとなっている。</p>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
- 2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	①・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	①・無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント内規」及び「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー」を整備し、本院において実施する臨床研究に係る利益相反の適切な管理、審査及び指導等について必要な事項を定めている</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年13回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年4回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>【タイトル】 臨床研究の規制と北大病院の現状について～法と指針より～  【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育  【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者  【研修内容】  ・ 研究規制の動向  ・ 臨床研究法と諸問題について  ・ 倫理指針と研究規制  【実施日】 2019 年 4 月 18 日</p> <p>【タイトル】 倫理とは何か  【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育  【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者  ・ 研究と倫理-研究不正をめぐって  ・ 人を対象とする研究の倫理問題  ・ 10 分で終える規範倫理学概論  【実施日】 2019 年 6 月 13 日</p> <p>【タイトル】 臨床研究に関する規制の動向～医学系研究倫理指針と臨床研究法～  【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育  【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者  【研修内容】  ・ 臨床研究中核病院  ・ 医学系研究倫理指針と臨床研究法  ・ 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針  ・ 臨床研究法  【実施日】 2019 年 8 月 30 日</p> <p>【タイトル】 「弱者」を対象とする研究の倫理  【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育  【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者  【研修内容】  ・ 「弱者」とは  ・ インフォームド・コンセントに関係する「弱さ」  【実施日】 2019 年 10 月 24 日</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院は北海道の「最後の砦病院」として高度先進医療を実践するとともに、医育大学として初期臨床研修医のほか、各領域の後期研修医（専攻医）や専門医・指導医資格取得者、さらに国外の医師免許取得者（臨床修練医）に対する高度医療技術の維持・習得を目指し、様々な研修を行っています。教育資源としては、大学病院に特有の稀少症例や難治症例に加えて、北海道内の関連病院と連携して多様な臨床経験ができる様、各領域で研修体制を整備しています。このような体制のもと、全人的な診療能力を有する専門医を育成するとともに、リサーチマインドを涵養するため、大学院での研究活動を推奨し、新たな診断治療法の開発をすすめています。

平成30年度から新専門医制度が導入され、当院では総合診療科を除く18の基本領域において基幹施設として研修専門委員会を設置し、専門医制度整備指針に則って専門研修プログラムを取りまとめました。初期臨床研修修了後は、各科専門研修プログラムに沿って、当院および研修連携施設において臨床研修を行なって所定の修了要件を満たしますと、各基本領域の専門医資格試験を受験することが可能になります。尚、専門研修プログラムは、女性医師など専攻医の多彩な背景やニーズを考慮して多様な研修が行える様、配慮されています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	683人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊嶋 崇徳	血液内科	教授	35年	内科
真部 淳	小児科	教授	36年	小児科
乃村 俊史	皮膚科	講師	18年	皮膚科
久住 一郎	精神科神経科	教授	36年	精神科
平野 聡	外科Ⅱ	教授	32年	外科
岩崎 倫政	整形外科	教授	32年	整形外科
渡利 英道	産婦人科	教授	30年	産婦人科
石田 晋	眼科	教授	29年	眼科
本間 明宏	耳鼻咽喉科	教授	31年	耳鼻咽喉科
篠原 信雄	泌尿器科	教授	36年	泌尿器科
中山 若樹	脳神経外科	講師	27年	脳神経外科
工藤 與亮	放射線診断科	教授	26年	放射線科
森本 裕二	麻酔科	教授	34年	麻酔科
松野 吉宏	病理診断科	教授	35年	病理
杉田 純一	検査・輸血部	副部長	20年	臨床検査（H31, R2, R3年度は受入休止）
早川 峰司	救急科	講師	23年	救急
山本 有平	形成外科	教授	36年	形成外科
生駒 一憲	リハビリテーション科	教授	37年	リハビリテーション

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

別紙のとおり

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

別紙のとおり

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

無し

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
1	護身術実技訓練	自分や他人の生命・身体を守るために護身術の知識・技術を学ぶ。	年1回	25名
2	接遇（トラブル・モンスターペイシェント対策）	コミュニケーション技術を学び、院内でのトラブル対応について学ぶ。	年1回	85名
3	ハラスメントの正しい理解	職場におけるハラスメント防止に向けた正しい知識を学ぶ。	年1回	68名
4	パワハラ予防研修会	パワハラに関する正しい理解により、働きやすい職場づくりを目指す。	年1回	36名
5	腰痛予防対策	職場での腰痛を予防するための方法を学ぶ。	年1回	18名
6	「重症度、医療・看護必要度」評価指導者研修	施設基準要件で研修受講が必要	年1回	23名
7	「採血・穿刺時の神経損傷予防」	「採血・穿刺時の神経損傷予防」について学ぶ	年1回	116名
8	「人生の最終段階における医療ケアの倫理：DNARの再確認」	D N A Rについての理解を深める	年1回	112名
9	1) 人工心肺装置・補助循環装置	特定機能病院の定期研修	年6回	50名
10	2) 人工呼吸器	特定機能病院の定期研修	年5回	60名
11	3) 血液浄化装置	特定機能病院の定期研修	年2回	17名
12	4) 除細動装置（AED除く）	特定機能病院の定期研修	年2回	22名
13	5) 閉鎖式保育器	特定機能病院の定期研修	年3回	10名
14	1 年目看護師研修	多重課題を抱える中で優先順位の判断ができ他者の協力を得ながら行うべき看護業務を遂行できる	年3回	380名
15	2019年度 医療安全管理部・感染制御部合同講演会	安全管理、感染制御	年2回	2998名
16	2019年度 部内VVRシミュレーション・BLS/AED講習会	患者急変関する専門知識・手技の向上	年1回	44名
17	2年目看護師多重課題研修	患者の心身の状況と業務の関連をアセスメントし優先順位をアセスメントできる	年1回	71名
18	3年目研修	3年目の果たす役割を明確にし、看護に対する自己啓発ができる	年2回	55名
19	6-2病棟 腰痛予防学習会	看護師の腰痛による業務負担の軽減	年2回	25名
20	ACH-Σ およびPB980	医療機器の研修目的	年1回	1名
21	da Vinci Si オンサイトトレーニング	医療機器の研修目的	年1回	11名
22	D P C制度の基礎と概観	保険診療に対する理解を深めるため	年1回	120名
23	E0G漏れ対応学習会	E0Gもれ対応の知識周知	年1回	33名
24	専門領域別研修	専門領域別研修	年24回	460名
25	NEGENUITY	医療機器の研修目的	年2回	11名
26	NHF, V60	研修	年1回	12名
27	TE-LM830	インシデント対策	年1回	16名
28	医事課所属 事務補助員研修「北大病院の感染管理」	学習・啓蒙目的	年1回	23名
29	医師事務作業補助者学習会	障害年金の診断書についての知識習得	年11回	235名
30	医師事務作業補助者研修会	加算要件の指定研修	年2回	15名
31	分娩後異常出血シミュレーション	医療安全	年1回	20名
32	医療機能評価を受けてRRSについての講演会 Rapid Response System ～あなたの気づきが急変を予防する 院内全体で取り組む患者安全のシステム～	医療機能評価を受けて、RRSについて学ぶ	年1回	127名
33	院内認定在宅療養支援エキスパートナース養成	在宅療養支援エキスパートナース養成	年3回	50名
34	院内肺がんボード	知識技術の向上	毎週火曜	25名
35	植込み型人工心臓 HeartMate II	医療機器の研修目的	年1回	8名
36	エピペンシミュレーション	緊急時の患者対応確認のため	年1回	21名

N0	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
37	外注（調理担当）食中毒防止講習会「ノロウイルス胃腸炎対策」	学習・啓蒙目的	年1回	82名
38	がん看護エキスパートナース養成	がん看護エキスパートナース養成	年18回	316名
39	看護過程研修	看護過程を展開する能力を高め、看護実践の結果を記録できる	年1回	51名
40	看護研究研修	臨床における看護研究の基礎とプロセスを学ぶ	年1回	46名
41	看護師胸腔ドレーン勉強会	知識技術の向上	年1回	20名
42	看護部初任職員研修	看護部理念・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護助手業務について理解する	年1回	142名
43	看護倫理研修	臨床における看護研究の基礎とプロセスを学ぶ	年1回	31名
44	救急シミュレーション	患者急変時の対応確認のため	年1回	24名
45	経腸栄養ポンプ	医療機器の研修目的	年2回	27名
46	材料室基礎学習会	専門知識の確認・共有	年3回	82名
47	歯科セット器械学習会	専門知識の確認・共有	年1回	26名
48	自己血緊急シミュレーション	安全な自己血を行うための感染対策・VVR発生時の対応方法・補液投与の方法、パッキの連結の方法の理解	年1回	15名
49	自動カフ圧コントローラー スマートカフ	医療機器の研修目的	年2回	17名
50	手術部講義「院内感染予防について」	学習・啓蒙目的	年1回	19名
51	職員全員対象の保険講習会	保険請求に関する知識取得	年1回	150名
52	初任者研修	学習目的	年1回	1名
53	新規感染対策マネージャー講習会	学習・啓蒙目的	年2回	24名
54	新人看護職員技術研修「呼吸理学療法・廃用症候群の予防」	新任看護職員の知識と技術の習得	年1回	125名
55	新人看護職員等「看護度分類北大版」「重症度、医療・看護必要度」研修	施設基準要件で研修受講が必要	年1回	133名
56	心電図勉強会	看護師のスキルアップ	年2回	20名
57	新入職員オリエンテーション	学習・啓蒙目的	年1回	1名
58	スマートポンプ(シリンジ・輸液)	医療機器の研修目的	年69回	637名
59	口腔ケア連携センター専門委員会症例報告会	全身麻酔術前の口腔ケアに関する講習	年8回	131名
60	第17回 医師とともにキャリアを考える会	医師等がキャリア形成についてお話していただく	年2回	27名
61	第1回外注職員 清掃教育研修会「病院清掃について」	学習・啓蒙目的	年2回	68名
62	看護助手研修会	学習・啓蒙目的	年3回	129名
63	第1回専門領域別研修会「標準予防策と耐性菌検出患者の感染対策」	学習・啓蒙目的	年1回	24名
64	第24回北海道大学病院HIV学習会	HIVに関する最新情報の周知 院内におけるHIV診療向上のため	年1回	22名
65	第2回専門領域別看護研修会 「血管内留置カテーテル管理、尿路留置カテーテル管理」	学習・啓蒙目的	年1回	34名
66	胎児心拍数モニタリング	新人助産師のスキルアップ	年1回	10名
67	チーム医療推進のための職種間連携に関する研修会	より確実な職種間業務連携を意識したチーム医療を推進するため	年2回	159名
68	中国語講座・初級	患者さんと中国語で会話するため	年10回	50名
69	超緊急帝王切開シミュレーション	医療安全	年1回	30名
70	ハラスメント講演会	ハラスメントに関する基本知識，対応について学ぶ	年1回	79名
71	フクダ生体情報モニターシステム	医療機器の研修目的	年46回	395名
72	部署内BSL学習会	BSL知識・技術の伝達	年1回	35名
73	物流管理センター材料室勉強会	CJDIに関する基礎知識習得	年5回	51名

N0	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
74	プリセプター研修	プリセプターシップの概念を理解し、プリセプティイーを効果的に支援できる	年1回	51名
75	平成31年度医事課所属事務補助員研修	初任者研修	年1回	28名
76	北海道大学病院初任職員オリエンテーション	本院職員に必要な基礎知識の習得	年1回	172名
77	メンタルヘルスについて	事務職員がメンタルヘルスセルフケアについて正しい知識の習得を図る	年1回	17名
78	臨床研究開発センター・臨床研究監理部職員研修会	学習目的	年8回	286名
79	臨床研究開発センター・臨床研究監理部初任者研修会	学習目的	年4回	17名
80	臨床研究に関する研修会	認定番号取得	年7回	827名
81	臨床検査セミナー「Inbody勉強会」	検査技術に関する専門知識の向上	年6回	213名
82	令和元年度医事課医師事務作業補助員研修	初任者研修	年4回	7名
83	令和元年度接遇・コミュニケーション技術研修 「どうしてコミュニケーションギャップが起きるのか ～言葉を科学する～」	多職種連携やコミュニケーションの大切さ、様々な患者への対応方法を理解し、患者サービスの向上を図る目的	年1回	97名
84	令和元年度医事課所属事務補助員研修	初任者研修	年1回	6名
85	レシピエントの心理社会的側面からみた移植適応の基準について～講演会	診療において心理的社会的問題から治療適応で判断・対応について学ぶ	年1回	30人
86	医事課クーク・看護助手接遇研修	必要な知識・技術を学び、実践に活かす	年1回	42名
87	医事課クークオリエンテーション	必要な知識・技術を学び、実践に活かす	年1回	26名
88	医薬品に関する講習会	危険薬の取り扱い	年2回	65名
89	医療の国際化への対応	医療の国際化に関しての知識習得	年1回	113名
90	医療技術部研修会	外国人患者に関する情報共有	年1回	100名
91	医療技術部研修会～臨床研究推進のために～	臨床研究推進	年1回	99名
92	医療接遇・コミュニケーション技術研修	病院職員としての接遇の心得・コミュニケーション技法を習得する	年1回	97名
93	院内BLS/AED講習会	BLS/AEDについて学ぶ	年1回	9名
94	栄養管理部勉強会	大量調理施設における職員として、ノロウイルス胃腸炎対策の知識と食中毒防止の為の手洗いについて学ぶ	年1回	82名
95	患者対応研修①	患者苦情対応職員が北大病院の医療体制を理解し、実践レベルでの対応方法を身につける ・医療安全体制について ・患者相談窓口業務と期待される役割 ・患者相談担当者に求められる能力（苦情処理能力）	年4回	5名
96	看護部職場復帰直前研修	育児休業者が最近の医療・看護の動向を理解し、実践を学ぶことで円滑に職場復帰ができるように支援する	年1回	25名
97	血管内イメージングシステムMAKOTO	新規導入器	年1回	6名
98	自動投与装置（UG-05）を用いた18F-FDG投与方法について	自動投与装置の操作方法の習得	年1回	5名
99	腫瘍センターセミナー	がん患者の口腔ケアに関する講習	年1回	30人
100	新規採用者多職種合同研修	職種間連携の必要性を理解し、組織の一員である医療職者として責任ある行動がとれる。	年3回	665名
101	新任リスクマネジャー集合講習会	新任リスクマネジャーが知っておいてほしいこと、医療安全に関する知識と体制、役割	年1回	31名
102	人工呼吸器安全管理講習会Ⅰ基礎課程	人工呼吸器が稼働している部署の管理水準を向上すると共に、現場の人工呼吸器管理に関する指導的人材を育成する。	年5回	109名
103	人工呼吸器安全管理講習会Ⅱ認定過程	人工呼吸器が稼働している部署の管理水準を向上すると共に、現場の人工呼吸器管理に関する指導的人材を育成する。	年3回	42名
104	人工呼吸器安全管理認定者 更新試験	人工呼吸器使用している部署に1～2名の人工呼吸器を指導できる人材を育成し、現場の指導機能を果たし、人工呼吸器パトロールが有効に機能する体制を確立する。	年1回	12名
105	静脈注射Eiスパート認定研修	安全に静脈注射が実施できるよう知識、技術を獲得しスタッフに指導できる	年1回	28名
106	専門領域別研修会「がん放射線療法」	院内認定がん看護エキスパートナース養成プログラム	年1回	40名
107	第25回 北海道大学病院 HIV学習会	HIVに関する最新情報の周知 院内におけるHIV診療向上のため	年1回	11名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
108	北海道大学病院医療安全の日 講演会 「1. 誤認手術 ～患者取り違え事故からの20年～ 2. サーベイヤーとして見た北大病院」	毎年12月5日は北海道大学病院で発生した医療事故を職員が忘れず、医療安全について考える日である。	年1回	209名
109	北大病院病理部 細胞診講習会	細胞診断に関する知識と技術の修得	年2回	19名

2 業務の管理に関する研修の実施状況

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名	目 的 等		
1	看護管理研修	問題解決能力の向上、チーム医療の中でリーダーシップの発揮	年1回	15名
2	看護管理研修（継続）	問題解決能力を高め、チーム医療の中でリーダーシップを発揮できる	年1回	15名
3	看護師長研修	看護師長に求められるスキルを高め看護管理者としての役割を発揮できる	年3回	120名
4	看護助手オリエンテーション	昨年途中入職の看護助手を対象に医療チーム内の役割や接遇について理解してもらう	年1回	15名
5	多職種合同TeamSTEPPS研修（キャリア職員対象）	プロフェッショナル集団の一員として、職種間連携の必要性を理解し、部署のリーダーとしてチーム医療を推進することをめざす	年1回	60名
6	新卒者看護技術研修	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年4回	551名
7	新任看護師長研修	看護師長に求められるスキルを高め看護管理者としての役割を発揮できる	年2回	5名
8	新任副看護師長研修	北大病院における副看護師長の役割を理解する	年1回	11名
9	リーダー研修	看護チームにおけるリーダーの役割を理解しリーダーシップを発揮できる	年1回	41名
10	医療技術部管理業務研修	人事・労務・業務管理を適切に管理できる人材を養成すること	年1回	29名

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画      ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 秋田 弘俊
管理担当者氏名	総務課長 医事課長 医療支援課長 薬剤部長

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	・病院日誌は総務課にて保管管理。 ・診療録を病院外に持ち出す際の取扱いについては、「北海道大学病院における個人情報管理に関するガイドライン」を定め、個人が特定できる情報については、個人情報保護管理区域外への一切の持出しを禁止し、相当程度に個人の特定が困難な情報については、保護管理者への届出を行った上でパスワードロックを用いた媒体でのみ持ち出しを許可している。 ・カルテは電子カルテと紙カルテの2種類を管理及び保管している。 ・平成22年に電子カルテを導入し、それ以前の紙カルテについては、10年間の保存期間を設けて診療録管理室にて保管している。また、紙媒体で生成される説明承諾書等については、スキャニングして電子カルテに取込み、かつ、原本も保管している。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療録管理室	
		看護記録	診療録管理室	
		検査所見記録	診療録管理室	
		エックス線写真	診療録管理室	
		紹介状	診療録管理室	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各課において適切に保管している。
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	医事課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	総務課	
		入院患者数、外来患者及び調剤	医事課及び薬剤部	

		の数を明らかにする帳簿		
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課	各課において適切に保管している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療支援課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療支援課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	各課において適切に保管している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課，経営企画課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	①. 計画      2. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長 阿部 康成, 経営企画課長 三浦 順一
閲覧担当者氏名	総務係長 伊東 武志, 経営企画係長 鈴木 雅樹
閲覧の求めに応じる場所	総務課事務室, 経営企画課事務室
閲覧の手続の概要  利用者は必要に応じ, 文書により閲覧責任者に閲覧を申し出, 閲覧担当者は閲覧責任者に確認のうえ閲覧に応じる。	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11 第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本院の医療安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>2. 医療に係る安全管理のための委員会等に関する組織の基本的事項</li> <li>3. 医療に係る安全管理のための職員研修に係る基本的事項</li> <li>4. 医療機関における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 医療従事者と患者間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7. 患者等からの相談に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（ 有 ）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応並びに原因究明のための調査及び分析に関すること</li> <li>2. 医療安全確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施に関すること</li> <li>3. 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること</li> <li>4. 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握及び必要に応じた方策の見直しに関すること</li> <li>5. 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること</li> <li>6. 医療事故報告等に関する改善のための方策に関すること</li> <li>7. その他医療事故等に関すること</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年11回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全に関する講演会「2018年度のインシデントを振り返って」×6回</li> <li>2. 医療安全に関する講演会「採血・穿刺時の神経損傷予防」</li> <li>3. 医療安全に関する講演会「医療機能評価を受けてPRSについての講演会 Rapid Response System～あなたの気づきが急変を予防する院内全体で取り組む患者安全のシステム」</li> <li>4. 医療安全に関する講演会「医療安全と院内感染対策について」</li> <li>5. 医療安全の日講演会「1. 誤認手術 ～患者取り違い事故から20年～ 2. サーベイヤーとして見た北大病院」</li> <li>6. 医療安全に関する講演会「人生の最終段階における医療ケアの倫理：DNARの再確認」</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有 ）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 報告書に伴う問題点の把握方法（各部署、安全管理部門の問題点の認識） インシデント報告に関する分析からフィードバックまでの対応（職員への周知と再発防止） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専任リスクマネジャー（GRM）が当該リスクマネジャー（RM）へ事実確認を行い、報告内容の監査・分析を行い、問題事例や有害事象の場合は、当該RMとの検討、患者の影響度、患者への対応状況などを協議</li> </ol> </li> </ol> </li> </ul>	

し対応している。

- 2) レベル3 bの有害事象の場合は、当該部署のRMに当該部署として検討を行った結果と再発防止策について、事例報告書として詳細報告を要請し、事例報告書に基づき原因・起因を分析し、病院長に報告している。
- 3) レベル4、5の有害事象は、GRMが聞き取り・現場検証などの事実調査を行い、当該RM・関係者との事象の検討、患者の影響度、患者への対応などを協議している。GRMが作成した検証資料に基づき、病院長・医療安全管理部長・当該部署の責任者とRMにより原因検討を行い、重篤な事案の場合は医療事故対策特別部会で原因検討の上、病院の見解を明確にしている。

## 2. 問題点の分析方法（各部署、安全管理部門の問題点の分析方法）

- 1) 必要な事例については、専門分野の委員を指名し、WG、院内医療事故検討会を設置し、原因分析・再発防止策を作成する。
- 2) レベル3 a以上の報告は、毎週月曜日にインシデントレポート検討・判定会において、レベル・過誤の判定と合併症の妥当性の検討を行うとともに、報告内容を分析し、原因と患者への影響度を検討し、医療事故報告制度への報告対象事例の判定を行っている。
- 3) 必要に応じて、マニュアルガイドラインの整備を行うためのWGを設置し、再発防止策を

## 3. 改善策の検討方法

- 1) 報告の全体的分析は、毎月と年間において実施し、発生レベル・報告状況・場面別に集計し、発生場面別や職種別の発生状況について定量的分析を行い「医療安全に関する報告集計」を作成し、各委員会に周知を図っている。また、病院運営会議においても報告し、周知を図っている。
- 2) 各診療科・部署の安全管理を図るために、前年度の当該診療科・部署での報告について年間集計し、当該診療科・部署での優先的課題を分析し、年度前半で、診療科・部署RM等で対策を検討し、年度末に再度、今年度の当該診療科・部署での報告について集計し、優先的課題の評価を実施し、次年度に向けて継続事項を検討している。
- 3) 医薬品・医療機器に関する事象については、関係専門委員会で再発防止策を検討し、システム改善・教育体制などの企画を検討している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容：</li> </ul> <p>北海道大学院内感染指針は以下の項目から成っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>院内感染対策に関する管理組織機構             <ol style="list-style-type: none"> <li>院内感染対策委員会</li> <li>院内感染対策特別部会</li> <li>感染制御部</li> <li>感染防止対策チーム</li> <li>感染対策マネージャー連絡会議</li> </ol> </li> <li>職員研修に関する基本方針</li> <li>感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針</li> <li>患者等への情報提供と説明に関する基本方針</li> <li>その他院内感染対策の推進のために基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容：</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>院内感染防止対策の検討及び推進</li> <li>院内感染防止の対応及び原因究明</li> <li>院内感染等の情報収集及び分析</li> <li>院内感染防止等に関する職員の教育・研修</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年31回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の内容：</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>医科研修医オリエンテーション：「感染対策研修」×2回</li> <li>歯科研修医オリエンテーション：「院内感染予防対策(総論・各論)」</li> <li>医事課事務補助員(クラーク)：「北大病院の感染管理」</li> <li>2019年度病院初任職員オリエンテーション：「院内感染予防」</li> <li>新規感染対策マネージャー講習会：「感染対策マネージャーの役割」×2回</li> <li>院内感染対策講演会(医療安全管理部と共催)×3回、DVD上映会×3回及び各部署にて視聴 「2018年度のインシデントを振り返って」「2018年度の感染症とその対策を振り返って」 「抗菌薬適正使用について」</li> <li>院内感染対策講演会(医療安全管理部と共催)×1回、DVD各部署にて視聴 「感染管理について」「抗菌薬について」</li> <li>専門領域別研修会①：「標準予防策と耐性菌検出患者の感染対策」</li> <li>専門領域別研修会②：「血管内留置カテーテル管理」「尿道留置カテーテル管理」</li> <li>看護助手研修：「感染管理の基本について」×4回</li> <li>異動後医師研修：「北大病院の感染制御」×2回</li> <li>新入職員オリエンテーション：「院内感染予防」</li> <li>手術部講義：「院内感染予防について」</li> <li>静脈注射エキスパートナース認定研修(医療職者)：「静脈注射と感染管理」</li> <li>外注職員調理担当食中毒防止講習会：「ノロウイルス胃腸炎対策」「手洗い(演習)」</li> <li>外注職員清掃教育研修会：「病院清掃について」×2回</li> <li>院内学級感染対策講習会：「院内感染予防」・「手洗い(実習)」×3回</li> <li>DVD研修</li> <li>eラーニング             <ul style="list-style-type: none"> <li>「インフルエンザ(2019年度版)」</li> <li>「感染性胃腸炎(2019年度版)」</li> <li>「検体採取(2019年度版)」</li> <li>「手指衛生、PPE、咳エチケット(2019年度版)」</li> <li>「標準予防策・感染性経路別予防策(2019年度版)」</li> <li>「WHO手指衛生(2019年度版)」</li> </ul> </li> <li>部署内研修</li> </ul>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)
- ・ 「感染症のアウトブレイク発生に伴う保健所への報告基準」を制定し、保健所や大学内の報告に係る基準及び方法等について整備済みである。(平成23年6月17日医政指発第1号に基づき、平成23年8月25日病院執行会議において承認)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 感染防止対策チームを設置して、院内感染状況、抗菌薬の適正使用、職員の感染防止策等の実施状況の把握と指導を行っている。
  - ・ 耐性菌サーベイランス等、感染症法に基づく院内感染症発生状況の迅速な把握と対応を行っている。
  - ・ 感染防止対策加算1を算定する医療機関として、同じく加算1を算定する医療機関との相互評価・加算2を算定する各連携医療機関とのカンファレンスおよび加算1の連携医療施設と加算2の連携医療施設(各加算1連携医療施設の加算2医療連携施設を含む)合同カンファレンスの開催等により道内の医療機関との連携を図っている。
  - ・ 平成30年12月から、感染制御部専従の薬剤師1名を新たに配属した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年8回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 研修医オリエンテーション「処方全般」 開催回数：3回（2019年4月2日、4日、5日）、対象：医師、歯科医師</p> <p>2. 新任職員研修「薬の知識とリスクマネジメント」 開催回数：1回（2019年4月16日）、対象：医師以外全職種</p> <p>3. 医薬品に関する講習会「危険薬の取扱い」 開催回数：2回（2019年8月21日、8月28日）、対象：看護師</p> <p>4. 異動後医師研修「危険性の高い薬剤の取り扱い」 開催回数：2回（2019年4月26日、10月8日）、対象：医師</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成（有）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全使用に関する手順書</p> <p>1) 医療安全上、注意を要する薬剤リスト</p> <p>（1）特に安全管理が必要なリスト</p> <p>（2）配合注意・投与ルートで注意を要する注射薬</p> <p>（3）誤認に注意薬剤</p> <p>2) 指示・伝達ルール</p> <p>（1）指示・伝達ルール</p> <p>（2）口頭指示は原則禁止</p> <p>3) 内服薬に関する管理基準</p> <p>（1）内服薬管理基準</p> <p>（2）薬剤管理指導業務手順書</p> <p>（3）入院患者の持参薬確認業務手順書</p> <p>（4）誤調剤に対する調剤室対応手順</p> <p>4) 注射薬に関する管理基準</p> <p>（1）注射業務管理基準</p> <p>（2）注射薬混合調製（ミキシング）手順書</p> <p>5) 危険性の高い薬剤に関する手順書</p> <p>（1）危険性の高い薬剤の取扱い手順書</p> <p>（2）カリウム注射剤取り扱いマニュアル</p> <p>（3）アナフィラキシーショックへの対応</p> <p>（4）抗凝固・抗血小板療法施行時における出血性合併症および処置・手術時の対応</p> <p>6) 抗がん薬に関する手順書</p> <p>（1）院内がん化学療法要項</p> <p>（2）がん化学療法実施運用手順書</p> <p>（3）抗がん薬被爆防止に関するマニュアル</p> <p>（4）院内におけるがん化学療法の安全性に関する取り決め</p> <p>（5）血管外漏出およびアレルギー反応発生時の対応について</p> <p>7) 医療安全情報管理</p> <p>（1）医療安全性情報管理体制</p> <p>（2）薬剤部における医薬品情報管理マニュアル</p> <p>8) 医薬品管理</p> <p>（1）病棟における注射剤管理業務手順書</p> <p>（2）病棟における薬剤業務基準</p> <p>（3）麻薬管理取扱い手順</p> <p>9) インスリン療法マニュアル</p>	

(1) インスリン療法マニュアル (2) インスリンラインナップ (3) 各製剤の使い方 (4) 参考資料 10) 医薬品の採用に関する手順書 11) 他施設との連携に関する手順書
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例： 1) シドフォビル；造血幹細胞移植後あるいは免疫抑制後に発症した重症アデノウイルス感染症</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品の情報管理体制として、薬剤部における医薬品情報管理手順を作成し、それに基づき、日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」として、医薬品医療機器総合機構（PMDA）からの医療安全情報は「PMDA医療安全情報」「緊急安全性情報」「安全性速報」「PMDAから医薬品適正使用のお願い」としてメールにより診療科・部門に提供している。また、関係機関からの医薬品に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼している。</li> <li>・ 医薬品に関するインシデント集計・分析結果により、専門委員会やワーキング等で医薬品に関するインシデント防止対策や講習会内容の検討を行っている。</li> <li>・ 未承認薬に関して、未承認新規医薬品等管理部において当院で使用したことのない医薬品または高度管理医療機器であって「医薬品医療機器法」による承認または認証を受けていないものの提供に関する申請の受理および提供の可否について審査する体制としている。</li> <li>・ 適応外使用に関しては、薬剤部においては調剤時に確認・記録を実施している。また、医薬品適応外使用（禁忌含む）の把握と申請の徹底を図るため、医薬品適正使用ワーキングを通じて申請状況を親委員会である医薬品安全管理体制専門委員会に諮ることとなっている。また、薬剤部においては適応外ならびに禁忌薬使用状況を疑義照会履歴等で定期的に同委員会に報告し、問題がある場合は適宜、委員会から指導を行う体制としている。</li> </ul> </li> </ul>

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年168回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人工心肺装置・大動脈内バルーンポンプ装置・経皮的心肺補助装置 計7回実施（2019/9/16、11/8、11/28、12/12、2020/2/7、2/10、2/20）</li> <li>2. 人工呼吸装置 計5回実施（2019/10/17、10/28、11/7、11/13、12/24） 人工呼吸器安全管理講習会 計6回実施（院内ワーキング認定試験の講習として基礎課程3回を2クール）</li> <li>3. 血液浄化装置 計3回実施（2019/7/8、12/5、12/23）</li> <li>4. 除細動器・自動体外式除細動器（AED） 計3回実施（2019/4/5、2020/1/21、2/13）</li> <li>5. 閉鎖式保育器 計4回実施（2020/1/15、1/16、1/27）</li> <li>6. その他の医療機器 計130回実施（シリンジ輸液ポンプ、生体情報モニタ等）</li> <li>7. 診療用高エネルギー放射線発生装置 計5回実施（2019/4/19、5/7、7/2、12/24、2020/1/21）</li> <li>8. 診療用放射線照射装置計2回実施（2019/4/22、2019/12/23）</li> <li>9. 陽子線治療装置計3回実施（2019/7/2、2019/12/23、2020/2/4）</li> </ol>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有 ）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>電子カルテ内の「医療機器管理」システムを活用し、医療機器の種類と機種ごとに保守点検計画の策定、実施、及び、実施の確認をしている。</p> <p>【中央管理機器】 ME機器管理センターでのME機器使用後の終業点検、機器の特性に応じた計画的1～12ヶ月点検、定期点検の実施。不具合発生時の現場調査と故障点検の実施。故障時のメンテナンスとメーカーとの調整。</p> <p>【部署管理医療機器】 医療機器の資産台帳をもとに診療科・病棟管理の医療機器を年1回定期点検の必要性を検討し、メーカー点検が必要と判断されたものは計画的に実施する。</p> <p>【放射線部管理機器】 放射線治療機器における、①始業点検、②2回/月以上の出力線量測定、③3ヶ月及び6ヶ月毎に放射線特性及び幾何学的点検、④漏洩線量等の放射線管理に関する測定を実施している。 他に製造メーカーと保守契約を結び年間4回の定期メンテナンスを実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有 ）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例： 医療機器安全管理体制専門委員会への使用申請を義務付け、使用状況を把握し委員会で検討。 使用事例は無い。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 適応外・目的外使用の医療機器は、医療機器安全管理体制専門委員会に申請し検討のうえ使用状況を把握。 日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」として電子メールで診療科・中央診療部門に提供。 PMDAのクラス回収については該当部署に電子メールで情報提供。</p>	



関係機関やメーカーからの医療機器に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼。  
ME機器管理センターからMEセンターニュースとして医療機器の特性や情報を全部署へ提供。  
汎用性のある医療機器のマニュアルを電子カルテに表示。  
医療機器を管理するための医療機器管理体制を明文化。  
使用頻度の高い医療機器についてeラーニングシステムを構築。  
医療機器の添付文書、取扱説明書などの容易にアクセスできるよう電子カルテに掲載。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 責任者の資格（医師・歯科医師）</li><li>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li></ul> <p>：医療安全管理責任者として、副病院長（医療安全担当）（医師）を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（４名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医療安全管理責任者として、副病院長（医療安全担当）（医師）を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</li><li>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 薬剤部において、医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認等については、薬剤師を指名して同様の業務を実施している。</li><li>・ 担当者の指名の有無（有）</li><li>・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部， 職種 薬剤師（室長）) (所属：， 職種 ) (所属：， 職種 ) (所属：， 職種 ) (所属：， 職種 ) (所属：， 職種 ) (所属：， 職種 ) (所属：， 職種 )</li></ul>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有）</li><li>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームド・コンセントについては、院内マニュアルに沿って実施し、診療録管理室が現状のモニタリングを行い、指導等を行っている。また、説明する機会も増えていることから、関連部門（各診療科・看護部）・医療安全管理部と協議してマニュアルの改正等（要項を含む）があれば、職員に周知する。</li></ul>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録の記載内容の確認について、毎年、各部署の診療録点検を実施し指導している。また、点検結果をリスクマネージャー連絡会議において報告し、各部署へ周知し、適切に診療録等の管理が行われるようにしている。</li></ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 所属職員：専従（６）名、専任（ ）名、兼任（６）名 うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること</li><li>・ 活動の主な内容： １ 医療事故及びインシデント（以下「医療事故等」という。）報告の受理及び分析に関すること。</li></ul>	

- 2 医療安全管理委員会の運営並びにその記録等の作成及び保存，その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。
- 3 リスクマネジャー連絡会議の運営並びにその記録等の作成及び保存，その他リスクマネジャー連絡会議の庶務に関すること。
- 4 医療安全に関する教育及び研修に関すること。
- 5 医療現場からの医療事故等の相談に関すること。
- 6 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。
- 7 医療事故等の発生時における患者又はその家族への対応状況の確認及び必要な指導に関すること。
- 8 医療事故等に対する原因究明の実施状況確認及び必要な指導に関すること。
- 9 医療安全に係る連絡調整に関すること。
- 10 医療安全の確保に資する診療の状況の把握に関すること。
- 11 職員の医療安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。
- 12 その他医療安全対策の推進に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（１６件）、及び許可件数（１６件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・ 活動の主な内容：
  - 1 高難度新規医療技術の提供に関する実施申請の受理及び提供の可否について審査すること。
  - 2 高難度新規医療技術の実施における手順等の遵守状況の確認に関すること。
  - 3 その他高難度新規医療技術に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（３件）、及び許可件数（３件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・ 活動の主な内容：
  - 1 未承認新規医薬品等の提供に関する申請の受理及び提供の可否について審査すること。
  - 2 未承認新規医薬品等の提供に関する実施状況の確認に関すること。
  - 3 その他未承認新規医薬品等に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年２２４件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年８４件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - 1 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応並びに原因究明のための調査及び分析に関すること。
  - 2 医療安全確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施に関すること。
  - 3 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること。
  - 4 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握及び必要に応じた方策の見直しに関すること。

5	医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること。
6	医療事故報告等に関する改善のための方策に関すること。
7	その他医療事故等に関すること。
⑩	<p>他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：千葉大学医学部附属病院））</li> <li>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：奈良県立医科大学附属病院））</li> <li>・技術的助言の実施状況</li> </ul> <p>1. 医療安全について</p> <p>全般的にとっても精力的に活動されている。チェックシートの病院で定めた一定の基準により合併症を把握する仕組み（オカレンス報告制度や合併症報告制度）はないとされているが、実際には医療の質評価のための診療状況のモニタリング項目が9項目と多岐にわたり、その中には一般的なオカレンス報告に相当するものが含まれている。また院内全体から医療安全管理部がとて相談しやすい環境が構築されていて、なんでも相談されている状況が見えた。これは院内部署相互のコミュニケーションがとて良好であると感じられた。またシステムのにもよく練られていて、病院情報システムや医事システムとも円滑な連携が構築されている。</p> <p>院内事故や院内死亡例の分析会議は適切に実施されており、参加者は医療安全管理部門のみならず多数の参加者で実施されている。モニタリングについては前述の通り多数の項目で実施されているが、収集され分析したデータをまだ院内に発信されていない点は少しもったいない気がする。自身の医療の質評価結果を院内で共有されるとさらに強固な組織になれると考える。</p> <p>2. 外部監査について</p> <p>外部監査は適正に開催されている。また外部監査委員会の活動性がきわめて高く、委員の意気込みが感じられる。監査で指摘された内容は詳細に検討されてしっかりと運用にフィードバックされている。</p> <p>3. 高難度について</p> <p>高難度審査の流れについてはやや体制が複雑には見えるが、申請された医療技術等の内容に応じて審議プロセスが緻密に構成されている。担当部門と評価委員会もしっかりと機能しており、評価委員会の議事概要、職員の遵守状況、導入後の報告体制、報告を求める症例数の基準および実施体制変更があった場合の確認体制なども適正に運用されている。</p> <p>高難度医療を実施するうえで院内調整の安全性や感染などのリスクを評価するのに必要な検査に予算が充当されていることは羨望に値する。</p> <p>このシステムを円滑に運用するために“相談フォーム”という文書が採用されており、治験、臨床研究、高難度医療のみならず医薬品管理上の未承認薬や適応外使用のいずれの申請窓口からも適切な流れに移行できるような連携システムが構成されている。このことは我々にとってはとて参考になった。施設全体が臨床研究の重要性を十分理解した上で、特定機能病院として臨床のエビデンス創出に強い指向性を持っていることがこのシステム運用の礎となっていることが窺える。</p> <p>4. 終わりに</p> <p>相互チェックで見た内容は非常に高度に整備・運用されている。一重に医療安全管理部の努力の結集であるとする。部外協力体制はあるものの決して潤沢であるとは言えないスタッフであげた成果は目を見張るものがあるが、管理部スタッフの安全のために業務や責任をもう少し軽減されることを望む。</p>
⑪	<p>当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制の確保状況</li> </ul> <p>患者相談室を設置し、医療支援課が対応している。医療支援課長が室長となり、業務を総括している。窓口の周知方法は、外来ホールにポスターを掲示し周知している。なお、医療安全に係る情報は、GRMに連絡し、調査を行う。また、医療支援課と患者相談窓口・医療安全管理部合同会議を月1回開催し、情報を共有している。</p>

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 医療安全に関する講演会「2018 年度のインシデントを振り返って」× 6 回
2. 医療安全に関する講演会「採血・穿刺時の神経損傷予防」
3. 医療安全に関する講演会「医療機能評価を受けて PRS についての講演会 Rapid Response System  
～あなたの気づきが急変を予防する院内全体で取り組む患者安全のシステム」
4. 医療安全に関する講演会「医療安全と院内感染対策について」
5. 医療安全の日講演会「1. 誤認手術 ～患者取り違い事故から 20 年～ 2. サーベイヤーとして見た北大病院」
6. 医療安全に関する講演会「2019 年度 歯科インシデントより」
7. 医療安全に関する講演会「人生の最終段階における医療ケアの倫理：DNAR の再確認」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者： 2019. 10. 27～28 (新規) 受講  
医療安全管理責任者： 2019. 10. 11 (継続) 受講  
医薬品安全管理責任者： 2019. 12. 17～18 (新規) 受講  
医療機器安全管理責任者： 2019. 12. 16 (継続) 受講

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

## 規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容            病院長候補者の選考は、医療法第10条に規定する者であって、人格が高潔で、学識に優れ、かつ、組織管理能力等の病院を管理する上で必要な資質及び能力並びに医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有するもの。</li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法            本学ホームページで公表。</li> </ul>

## 規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法            本学ホームページで公表。</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
笠原正典	北海道大学理事	○	総長が指名する理事	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
吉岡充弘	北海道大学大学院 医学研究院		医学研究院長	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
八若保孝	北海道大学大学院 歯学研究院		歯学研究院長	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
秋田弘俊	北海道大学病院		病院長	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
篠原信雄	北海道大学大学院 医学研究院		医学研究院教授会が推薦する教授	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
畠山鎮次	北海道大学大学院 医学研究院		医学研究院教授会が推薦する教授	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

北川善政	北海道大学大学院 歯学研究院		歯学研究院教授会が推薦する教授	有・ <input type="checkbox"/>
高橋久美子	北海道大学病院 看護部長		病院執行会議が推薦する職員	有・ <input type="checkbox"/>
深澤博昭	北海道大学病院 事務部長		病院執行会議が推薦する職員	有・ <input type="checkbox"/>
中村 隆	札幌総合法律事務所		学外有識者（弁護士）	有・ <input type="checkbox"/>
松村 明	筑波大学医学医療 系脳神経外科学		学外有識者（元他大学病院長）	有・ <input type="checkbox"/>
大島寿美子	北星学園大学		学外有識者（私大教授）	有・ <input type="checkbox"/>

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>1 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応並びに原因究明のための調査及び分析に関すること。</p> <p>2 医療安全確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施に関すること。</p> <p>3 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること。</p> <p>4 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握及び必要に応じた方策の見直しに関すること。</p> <p>5 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること。</p> <p>6 医療事故報告等に関する改善のための方策に関すること。</p> <p>7 その他医療事故等に関すること。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>1 病院運営会議</p> <p>2 リスクマネジャー連絡会議</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 無 ）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（ 無 ）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
秋田 弘俊	○	医師	病院長
平野 聡		医師	副病院長 臨床研修センター長
北川 善政		歯科医師	副病院長
南須原 康行		医師	医療安全管理責任者／医療安全管理部長
根岸 淳		歯科医師	医療安全管理部副部長／ゼネラルリスクマネジャー
本田 秀子		看護師	ゼネラルリスクマネジャー
古藤 幸子		看護師	ゼネラルリスクマネジャー



沖 洋充		薬剤師	ゼネラルリスクマネジャー
石田 晋		医師	手術部長
武富 紹信		医師	物流管理センター部長
遠藤 晃			医療情報企画部長
豊嶋 崇徳		医師	国際医療部長
本間 明宏		医師	ME 機器管理センター部長
菅原 満		薬剤師	薬剤部長／未承認新規医薬品等管理 部長
高橋 久美子		看護師	看護部長
澁谷 斉		臨床検査技師	医療技術部長
石黒 信久		医師	感染制御部長
篠原 信雄		医師	高難度新規医療技術管理部長
佐藤 典宏		医師	臨床研究開発センター長
深澤 博昭		事務	事務部長
渡利 英道		医師	産科・婦人科教授
藤原 晶		医師	循環器・呼吸器外科 医員

## 規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容  
病院長は、副病院長を総長へ推薦、病院長補佐を指名、診療科長、中央診療施設等の長を命ずる権限を有している。  
病院執行会議、病院経営委員会、病院教員人事委員会等病院の管理運営・経営・人事に係る重要な会議において議長となり議決している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
副病院長（総務担当）は、病院全体の運営にかかる連絡調整を行い、副病院長（医科担当）は、医科診療科の総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（歯科担当）は、歯科診療科の総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（医療安全担当）は、医療安全にかかる総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（看護業務担当）は、看護部の総括及び他部署との連絡調整を行っている。  
  
また、病院長補佐（再開発担当、歯科担当、企画、経営・財務担当、経営戦略担当、経営・事務担当、国際医療、国際交流、研究担当、臨床研究中核病院、産学官連携、研究支援担当、広報、地域連携、100周年記念事業担当、薬剤部担当、医療技術部担当）は、病院長が特に命じた事項について、企画及び立案並びに病院に各部署間の連絡調整を行っている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
本院職員のうち、長年職務に精通し、経験豊富な者から人選する。  
研修は組織管理、働き方改革に関するシンポジウム等に参加している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1 北海道大学病院の医療に係る安全管理の業務執行の状況について，北海道大学病院長等から報告を求め，又は必要に応じて確認を実施すること。</p> <p>2 病院の医療に係る安全管理について，北海道大学総長及び病院長に報告し，必要に応じて是正措置を講じるよう意見を述べること。</p> <p>3 前 2 号に掲げる業務について，その結果を公表すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 公表の方法：北海道大学ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
橋本 暁佳	札幌医科大学		医療安全に精通	無	1
萩原 正子	小樽市立病院		医療安全に精通	無	1
坂本 大蔵	ほくと総合法律事務所	○	法律に精通	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医師・患者関係に精通	無	2
生駒 一憲	北海道大学病院		医療を提供する者	有	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 体制の整備状況及び活動内容 既存の大学規程や内部規程で対応。</li><li>・ 専門部署の設置の有無（ 無 ）</li><li>・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）</li><li>・ 内部規程の公表の有無（ 有 ）</li><li>・ 公表の方法 本院ホームページ</li></ul>

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営に関する状況を点検する会議体を設置した。</li>   <li>・ 会議体の実施状況（ 年 1 回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年 1 回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：北海道大学病院管理運営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
中 村 隆	札幌総合法律事務所	○	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
長 瀬 清	北海道医師会長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
土 橋 和 文	札幌医科大学附属病院長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
笠 原 正 典	北海道大学総長代行		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の  
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ）</li><li>・ 通報件数（年 7 件）</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための 方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ）</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ）</li><li>・ 周知の方法：リスクマネジャー連絡会議，医療安全管理委員会，研修会等</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>日本医療機能評価機構、平成31年3月</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>広報誌及びウェブサイトにて、本院の理念と目標、地域の中核としての役割、先進的な医療に関する情報提供などを行っている。</p> <p>また、市民公開講座を主催し、地域社会へ医療に関する最新情報の提供を行っている。</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>診療科間の連携についてのルールが整備されており、他診療科への受診依頼、依頼先においての検査結果等の患者情報が電子カルテを通して共有されている。患者の情報が不足している場合は補足説明を電話で直接行う等により緊密かつ緊急に連携できる体制を整えている。</p>	

(様式第 9)

海 大 第 891 号  
令和 2 年 10 月 15 日

厚生労働大臣

殿

北海道大学総長 寶 金 清 博 (印)

北海道大学病院に関する変更について

標記について、医療法施行令（昭和 23 年政令第 326 号）第 4 条の 3 の規定に基づき、以下のとおり変更があったので届け出ます。

名 称
変更があった事項及びその内容
病院長 変更前：寶金 清博 変更後：秋田 弘俊

- (注) 1 必要がある場合は続紙に記載して添付すること。
- 2 開設者名の記入箇所及び「名称」欄には、変更があった場合は、変更後のものを記入すること。
- 3 「変更があった事項及びその内容」欄には、変更があった事項を明らかにした上で、その事項についての変更のみを、変更前と変更後の内容を区別して下記により記入すること。
- ① 開設者の氏名及び名称の変更については、変更前のもののみを記載することとしても差支えない。
- ② 診療科名の変更の場合は、医療法施行規則第 6 条の 4 に掲げる診療科名をそれ以外の診療科名よりも先に記入し、削除又は追加された診療科名に下線を付すこと。
- ③ 集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室の構造設備の変更については、承認申請書に記載することとされている事項に係る変更のみを変更前と変更後のそれぞれを区別して記入すること。なお、集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室を有しなくなった場合にはその旨を記載し、固定式の無菌病室や専用の医薬品情報管理室を新たに設けたなどの場合には承認申請書に記載することとされているものと同じ事項について記入すること。
- (記載例：50 床増床し、集中治療室にペースメーカーを導入した場合)
- 病床数  
変更前：550 床  
変更後：600 床
- 集中治療室に備える機器  
変更前：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置  
変更後：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置、ペースメーカー